ISSN：0037－3796

神経化学

Bulletin of the Japanese Society for Neurochemistry

Vol. 35 (No. 2), 1996

第39回日本神経化学会（横浜）プログラム号

平成８年９月

目　次

第３９回日本神経化学会実行委員会委員名簿 58
助言委員会委員名簿

ご挨拶（世話人代表） 59

会場案内 60
会場レイアウト ..... 61～63
学会スケジュール概要 64

学会参加案内 65
演題発表者へのお願い 66

Review and Preview Lectures ..... 67～72
シンポジウムS１～S３
シンポジウムA・B
神経化学の将来を語る ..... 73～74
ポスターセッションカテゴリー ..... 75～77
ポスター配置図
発表時間・座長一覧表 ..... 79～81

口演プログラム ..... 82～94
ポスタープログラム ..... 95～108

理事会だより 110
学会掲示板 ..... 111～114
資料 ..... 115～129

謝辞 130
編集後記 132

第３９回 日本神経化学会
プログラム

【世話人代表】 加藤 尚彦 （横浜市立大学医学部生化学第一講座）

【日　　時】 平成８年１０月２日（水）・３日（木）・４日（金）

【会　　場】 神奈川県立県民ホール 横浜市中区山下町３番地の１
電話 (045) 662-5901

横浜シンポジア 横浜市中区山下町２番地
電話 (045) 671-7151

横浜産業貿易ホール 横浜市中区山下町２番地
電話 (045) 671-7050

【会期中の会場学会事務局】

横浜シンポジア会議室 No.4 (045) 671-7169



Guest Speakers:

David S. Bredt	Department of Physiology, University of California at San Francisco
Paul H. Patterson	Division of Biology, California Institute of Technology
Henry N. Wagner	Divisions of Nuclear Medicine and Radiation Health Sciences, Johns Hopkins Medical Institutions
堀田 凱樹	東京大学大学院理学系研究科
三須 良實	横浜市立大学医学部薬理学

第３９回日本神経化学会実行委員会

委員長（世話人代表） 加藤 尚彦（横浜市立大学医学部生化学第一）
副委員長 加藤 武（横浜市立大学大学院総合理学研究科）
岸本 英爾（神奈川県立精神医療センターせりがや病院）
植田 弘師（長崎大学薬学部薬物学）
委員 三須 良實（横浜市立大学医学部薬理学）
井上 順雄（横浜市立大学医学部生化学第一）
中山 孝（横浜市立大学医学部生化学第一）
五鳩 良郎（横浜市立大学医学部薬理学）
堀江 秀典（横浜市立大学医学部生理学第一）
川本 進（横浜市立大学医学部細菌学）
山本 敏文（横浜市立大学大学院総合理学研究科）

助言委員会（横浜市立大学医学部）

大野 茂男（生化学第二）；竹中 敏文（生理学第一）
貴邑 冨久子（生理学第二）；石井 當男（内科学第二）
関原 久彦（内科学第三）；小阪 憲治（精神神経科学）
黒岩 義之（神経内科学）

第３９回日本神経化学会事務局
〒２３６横浜市金沢区福浦３－９ 横浜市立大学医学部生化学第一講座
Phone : 045-787-2589 ; FAX : 045-784-4530
E-mail: katomdpr@med.yokohama-cu.ac.jp
Secretariat: Pacific Convention Service 高野和代・奥洞睦美・池田ともみ

ご 挨 拶

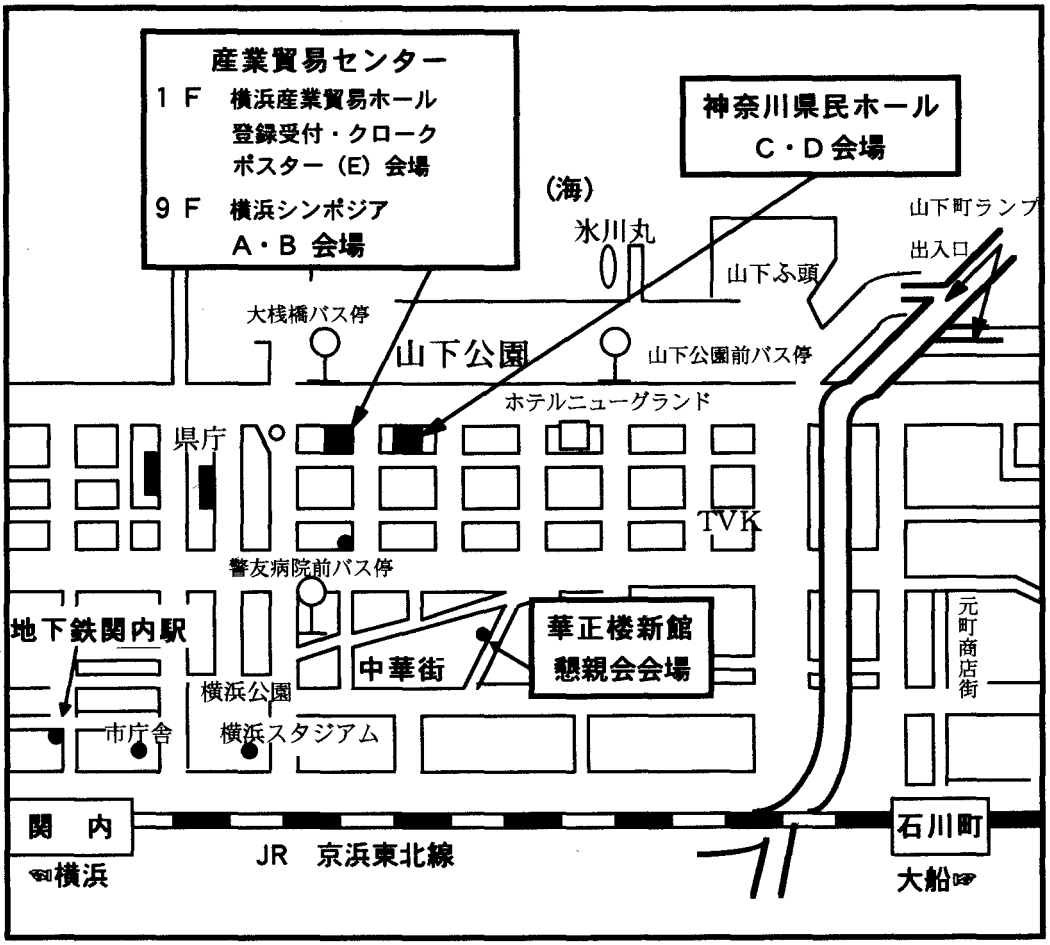
第３９回日本神経化学会は、１９９６年１０月２日（水）から４日（金）までの３日間、神奈川県立県民ホール、横浜シンポジア、横浜産業貿易ホールで開催されます。昨年の京都における第１５回国際神経化学会を節目として、今回の学会には新しい企画を盛り込み、新たな一歩を踏み出すことになります。学会にシンポジウムや講演を取り入れ、口演会場を３会場から４会場へと増やしました。シンポジウムは本学会としては１０年ぶりの企画であり、講演も Review & Preview Lecture として、会員の勉強したいという要望に答えることにしました。

お客様としては、California Institute of Technology の「ニューロンの表現型変換因子が白血病抑制因子（LIF）である」ことを見い出した Paul H. Patterson 博士、Johns Hopkins University から University of California at San Francisco に移ったばかりの、「脳の一酸化窒素合成酵素を精製してその性質を明らかにした」、新進気鋭の若手研究者 David S. Bredt 博士のお二人をお招きして、それぞれ二つのシンポジウムの中心となって頂きます。さらに講演者のお一人として、「ご自身の脳を材料とし, Positron Emission Tomography (PET) を用いて Dopamine の D_2 receptor の脳における分布を明らかにし」, 生きたヒトの脳画像解析の新研究分野を開いた Johns Hopkins の Henry N. Wagner 博士をお呼びし、わが国からの講演者としては息の長い独自の研究を展開して来られたお二人、堀田凱樹博士と三須良實博士に、それぞれ「ニューロンとグリアの分化決定遺伝子」と「神経伝達物質としてのL-DOPA」について話して頂きます。

さらに本学会の特徴である、若手研究者と臨床医学的研究を重視するという伝統に則り、若い臨床医学者を含む将来計画委員会主催の「神経疾患の分子基盤」についてのシンポジウムを取り上げましたので、特に多くの臨床家の参加を歓迎いたします。

第３９回　日本神経化学会
世話人代表　加藤　尚彦

会場案内



● 関内駅へのアクセス

	最寄り駅	経路	所要	料金
☆	東京駅～	京浜東北線(ＪＲ)	４０分	５３０円
☆	羽田空港～	モノレール浜松町駅経由	１８分	４６０円
		山の手線・京浜東北線(ＪＲ)	４５分	４４０円
☆	新横浜駅～	市営地下鉄	１６分	２４０円
☆	横浜駅～	京浜東北線(ＪＲ)	５分	１２０円

● 横浜駅より市営バス利用の場合　約１５分　２００円

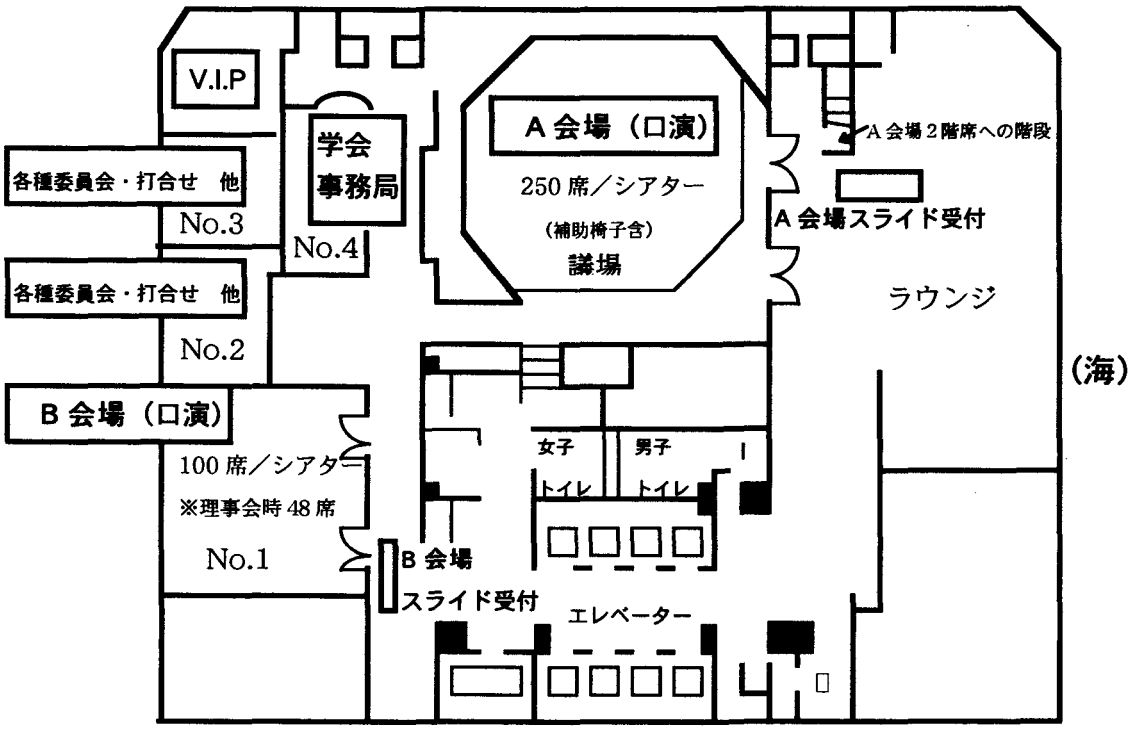
系統　８、２０、５８、１２５（警友病院前下車）、２６（大桟橋下車）

● JR 及び市営地下鉄関内駅より徒歩１５分

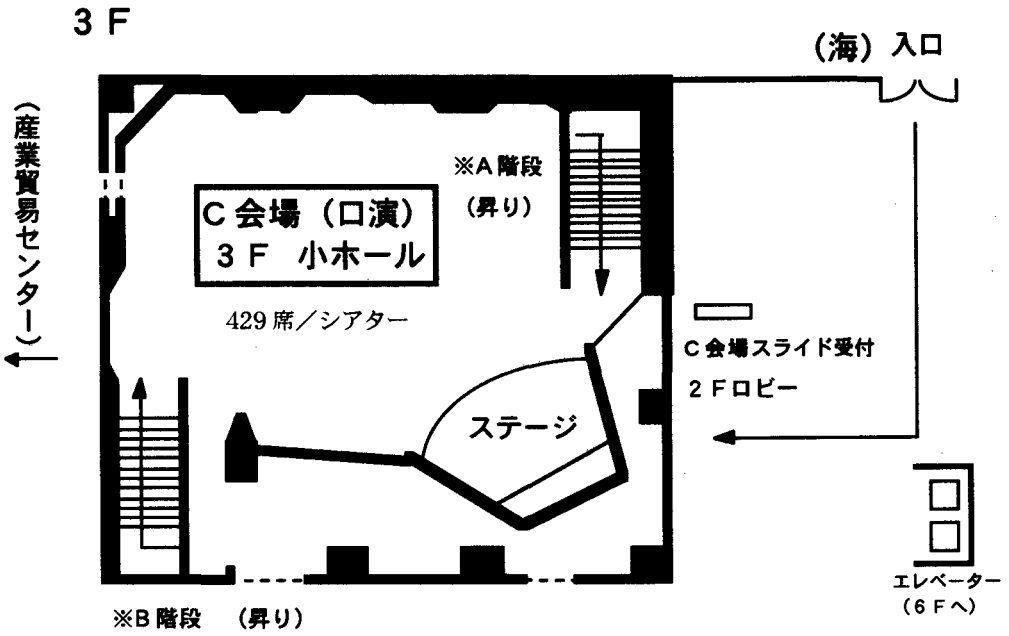
会場レイアウト

A・B 会場，事務局・委員会会場（横浜シンポジア）

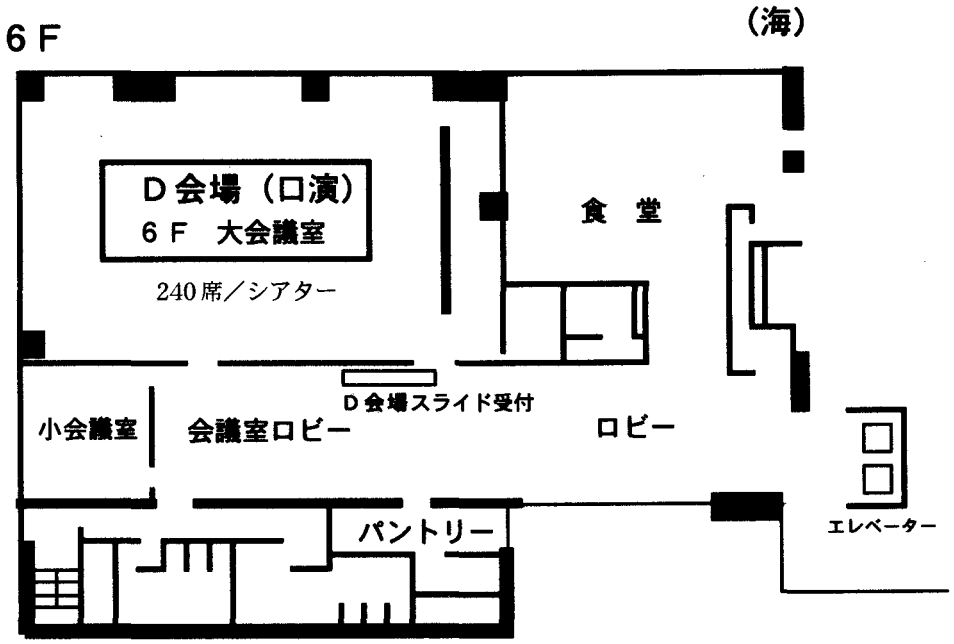
産業貿易センター９Ｆ



C・D 会場（神奈川県民ホール）

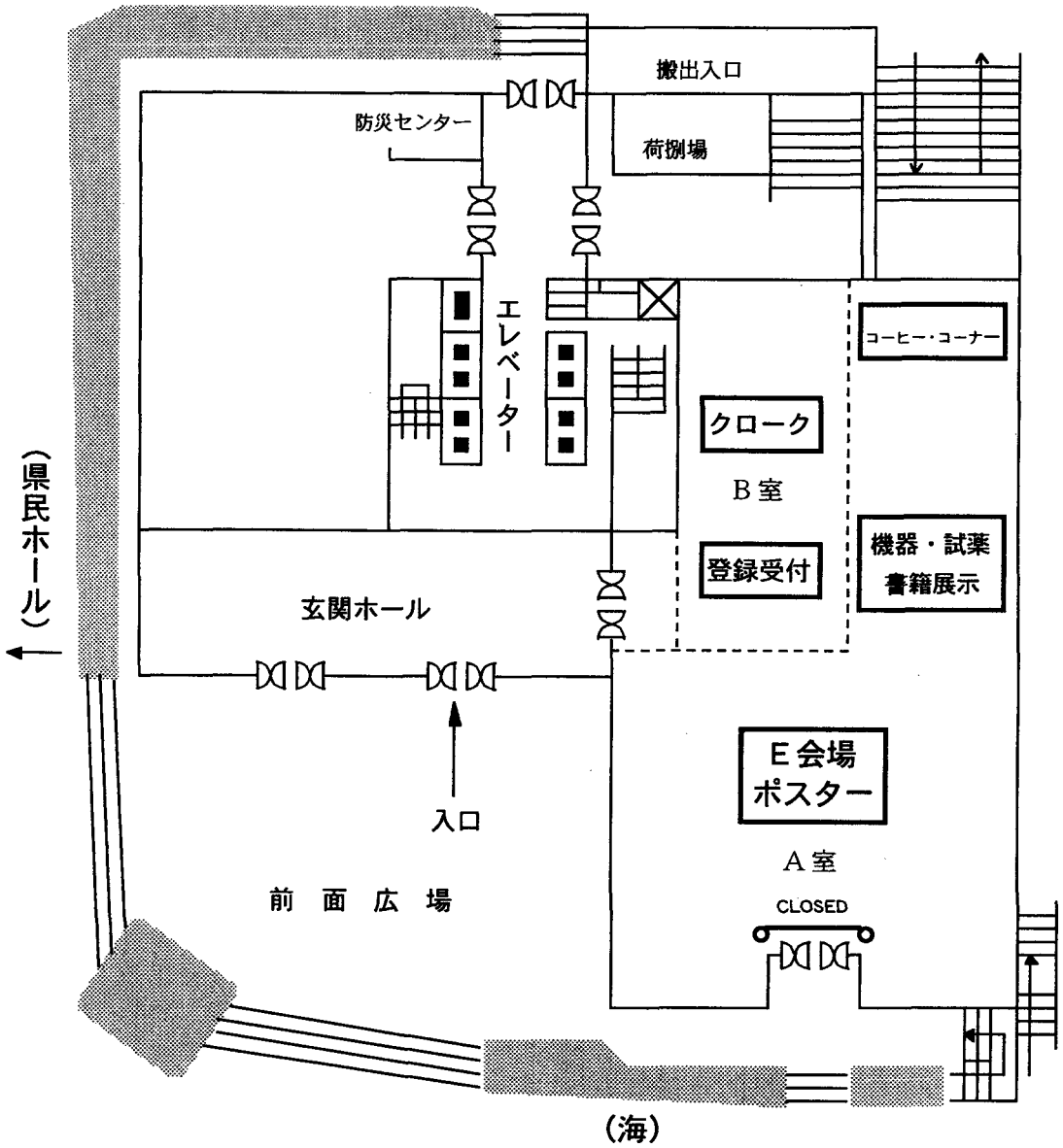


※ 2 F ロビーA, B 階段より 3 F 小ホールへ。

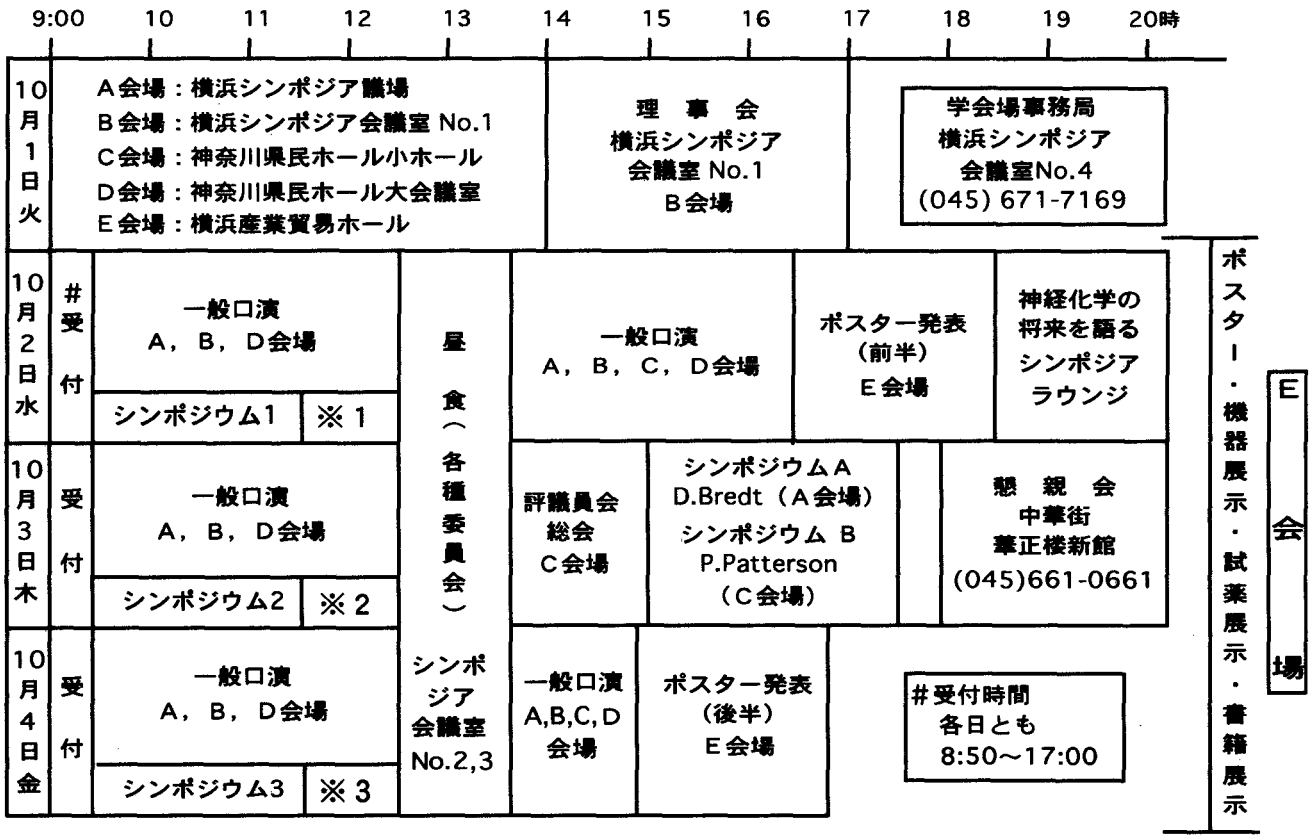


E 会場（横浜産業貿易ホール）

産業貿易センター１Ｆ



学会スケジュール概要



C 会 場

シンポジウム１ ：in vivo ｼﾅﾌﾟｽ可塑性と記憶
シンポジウム２ ：分子精神医学と脳の画像診断
シンポジウム３ ：Triplet repeat から細胞死

※Review & Preview Lecture

※１ ：三須良實
※２ ：H．Wagner
※３ ：堀田凱樹

学会参加案内

1．学会当日に、<u>産業貿易ホール（一階）登録受付で必ず参加登録</u>をして下さい。受付時間は、各日とも：8:50～17:00 です。

2．学会参加費と懇親会費は以下の表の通りです。<u>9月10日(火)</u> 迄に参加登録申込と参加費をお支払い下さった方には、参加登録証を学会前にお送り致します。当日参加費を支払う場合は、その場で参加登録証を差し上げます。参加登録証は名札と一緒になっており、学会当日名札を必ず胸に付けて下さい。万一忘れた方は、会場受付まで申し出て下さい。

区　分	項　目	会　員	非会員	納入方法
前　納（9月10日迄）	学会参加費※ 懇親会費※	7,000円 6,000円	8,000円 6,000円	郵便振替※※
当　日（会場受付）	学会参加費 懇親会費	8,000円 7,000円	9,000円 7,000円	会場受付

※学生会員の方は、参加費、懇親会費が、上記の1,000円引きになります。
※※郵便振替口座番号　：　00260-9-67400
口座名　：　第39回日本神経化学会

3．学会参加と同時に懇親会の参加申込をして頂くようお願い致します。当日必ず胸に名札をお付け下さい。なお今回の懇親会**（本格北京料理）**は着席で行いますので席数に限りがあり、**<u>先着 250 名</u>**で打ち切らせて頂きます。

4．学会論文集は全会員に配布します。会員でない方で論文集（一冊 6,000 円、抄録集）をご希望の方は、学会事務センターに申し出るか、学会当日に登録受付で購入して下さい。

5．年会費 (7,000 円) は学会事務センターへ支払って下さい。学会当日に会場でも受け付けます。入会希望者は、学会事務センターに問い合わせて下さい。

6．本学会への参加は、日本神経学会、日本小児神経学会および日本良導絡自律神経学会の認定医研修単位の対象となります。取得できる単位数等につきましては、直接それぞれの学会にご照会下さい。

日本学会事務センター・神経化学会事務局
〒１１３　東京都文京区本駒込５－１６－９
Phone : 03-5814-5810 (入会・年会費)、5811(論文集配布)
FAX: 03-5814-5820

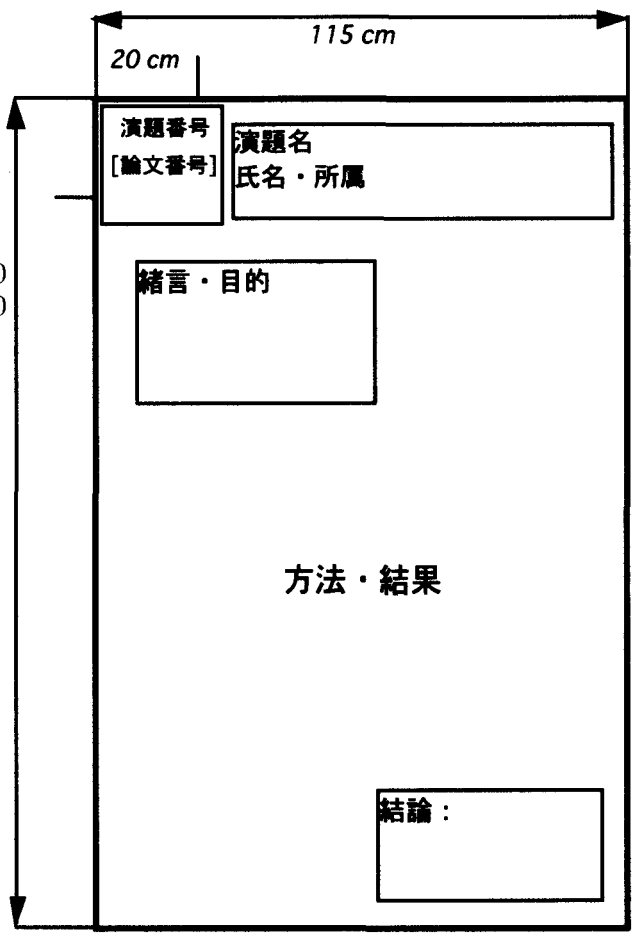
演題発表者へのお願い

1．演題を発表する方は、英文抄録掲載料 2,000 円を学会当日に、学会登録受付で支払って下さい。
2．口頭発表者は発表時間表（79-81頁）に従って発表して下さい。スライド（5×5 cm）を発表予定 30 分（各日第一回発表は 15分）前までに各会場受付にご持参下さい。口演時間は 10 分、討論時間 10 分です。プロジェクターは一台、スライドは 10 枚前後とします。発表終了後は、なるべく早くスライドを引き取って下さい。引き取りを忘れたスライドは、翌日以降会場学会事務局（横浜シンポジア会議室 No.4 045-671-7169）で保管します。
3．ポスターの発表は以下の要領で行って下さい。

1）ポスターの掲示
（発表時間表 79-81 頁 参照）
演題番号は既に掲示してあります。

前半 1E
掲示：10月 2 日 9:00- 9:30
撤去：10月 3 日 12:30-13:00
後半 2E
掲示：10月 3 日 13:00- 13:30
撤去：10月 4 日 16:50- 17:20

2）論文番号と掲示用品をE会場受付で貰って下さい。論文番号を演題番号の下に各自掲示して下さい。
3）発表者は時間表に示す討論時間には、ポスターの前に待機して下さい。
4）ポスターのサイズおよび形式は右図を参照。



Review and Preview Lectures

C会場：11:40 ～12:30

1CL1. １０月２日（水）

[L1] 三須　良實：　横浜市立大学医学部薬理学講座

Ｌ－ＤＯＰＡは内因性神経伝達物質か？－線条体を中心に－

2CL2. １０月３日（木）

[L2] Henry N. Wagner: Divisions of Nuclear Medicine and Radiation Health Sciences, Johns Hopkins Medical Institutions

Disease as Dissonance: PET/SPECT Imaging in Communication Disorders

3CL3. １０月４日（金）

[L3] 堀田　凱樹：　東京大学大学院理学系研究科

ショウジョウバエのニューロン・グリア分化決定遺伝子 *gcm*

シンポジウムS1
C 会場：9:30 ～11:30
１０月２日（水）

1CS1. In vivo シナプス可塑性による記憶の分子機構研究（可塑性と記憶）

Organizer と Chairman： 小幡邦彦、加藤 武

1．[S 1] 小幡邦彦 （国立生理学研究所神経化学）
Overview：神経化学の対象としての記憶

2．[S 2] 福永浩司、宮本英七 （熊本大学医学部第一薬理学）
海馬長期増強におけるプロテインキナーゼの標的分子

3．[S 3] 井ノ口馨[1]、小澤史子[1]、平井啓子[1]、村山明子[1]、斎藤喜人[1]、松尾亮太[1, 2]、榊 佳之[2]、加藤明彦[1]
（[1]三菱化学生命科学研究所、[2]東京大学医科学研究所・ヒトゲノム）
In vivo 海馬の可塑性に伴い発現調節される遺伝子群の探索と機能：長期記憶の分子基盤へのアプローチ

4．[S 4] 松山正剛、Aryeh Routtenberg[1]
（神戸大学医学部薬理学、[1]Cresap Neurosci Lab, Northwestern Univ）
In vivo マウス海馬歯状回の長期増強現象：プロテインキナーゼCの関与

5．[S 5] 狩野方伸（理化学研究所・フロンテイア研究システム・シグナル伝達機能）
小脳シナプス可塑性と運動：ノックアウトマウスを用いた研究

6．[S 6] 木山博資、北原 糺（大阪大学医学部・ﾊﾞｲｵﾒﾃﾞｨｶﾙ研究ｾﾝﾀｰ・神経解剖学）
前庭代償における可塑性関連分子の探索：ﾌﾟﾛﾃｲﾝﾌｫｽﾌｧﾀｰｾﾞを中心に

7．[S 7] 加藤 武、丹羽修[1]、山本勝信[2]（横浜市立大学大学院総合理学研究科、[1]NTT 基礎研究所、[2]BASJ）
In vivo microdialysis を用いた神経伝達物質放出測定と記憶の研究

8．まとめ

シンポジウムS2
C 会場：9:30 ～11:30

１０月3日（木）

2CS2. 分子精神医学と脳の画像診断

Organizer と Chairman： 岸本 英爾、大原 浩市

1．[S 8] 西川 徹、梶井 靖、海野麻未、橋本隆紀、戸田重誠、高橋勝宣
(国立精神神経センター・神経研究所・疾病研究第三部)
精神機能と分子機構

2．[S 9] 米田博 (大阪医科大学神経精神医学)
精神神経疾患と臨床・分子遺伝学

3．[S10] 大原浩市 (浜松医科大学精神神経医学)
分子精神医学の問題点 －トリヌクレオチドリピート増幅疾患の観点から－

4．[S11] 成瀬昭二[1, 2]、古谷誠一[1]、田中忠蔵[3]
(京都府立医科大学[1]放射線医学・[2]脳神経外科学；[3]明治鍼灸大学
脳神経外科)
Magnetic Resonance Spectroscopy (MRS)・Functional Magnetic
Resonance Imaging (fMRI) と神経化学

5．[S12] 岸本英爾 (神奈川県立精神医療センター・せりがや病院)
精神神経疾患と画像診断

シンポジウムS3
C会場：9:30～11:30
10月4日（金）

3CS3.トリプレットリピートから細胞死（公開シンポジウム）

Organizer と Chairman：

辻　省次、　佐野　輝（愛媛大学医学部神経精神医学）

1．[S13] 辻　省次　（新潟大学脳研究所神経内科学）
Overview

2．[S14] 三瓶和弘、五十嵐修一、江口郁代、辻　省次　（新潟大学脳研究所神経内科学）
高比活性CAG反復配列プローブを用いたサザンハイブリダイゼーションによるヒトゲノム中の増大したCAG反復配列の同定法

3．[S15] 山田正夫　（国立小児病院小児医療研究センター・遺伝）
伸張トリヌクレオチドはどのように形成されてきたか

4．[S16] 祖父江元、道勇　学、田中章景　（名古屋大学医学部神経内科学）
球脊髄性筋萎縮症のアンドロゲン受容体遺伝子異常と病態形成

5．[S17] 石浦章一、笹川　昇、斎藤直人、小池　恒、渡辺知司[1]、下川雅丈[2]、臼杵扶佐子[3]、丸山　敬[4]、反町洋之、鈴木紘一　（東京大学分子細胞生物学研究所、[1]虎ノ門病院、[2]武蔵野赤十字病院、[3]国立水俣病研究センター、[4]国立生理学研究所）
筋緊張性ジストロフィーとミオトニンキナーゼ

6．[S18] 貫名信行　（東京大学医学部神経内科学）
ＣＡＧリピート病はポリグルタミン病か

7．[S19] 垣塚　彰　（京都大学医学研究科高次脳科学　神経・細胞薬理学）
Machado-Joseph病発症機構の分子モデル

シンポジウム A： １０月３日（木）１５：００～１７：３０

A会場

2ASA. Nitric oxide synthase (NOS) and action of nitric oxide

Organizer and Chairman： H. Esumi, T. Kato

1. [S20] David S Bredt (Dept Physiol, Sch Med, Univ Calif, San Francisco)
   Neuronal nitric oxide: biosynthesis and actions at the synapse
2. [S21] Yasuo Watanabe, Hiroyoshi Hidaka (Dept Pharmcol, Nagoya Univ Sch Med)
   Oligomerization of nitric oxide synthase (NOS) - Interisoformal structure-activity analyses of NOS
3. [S22] Hiroyasu Esumi, Tsutomu Ogura, Yukiko Kurashima (Invest Treat Div, Natl Cancer Center Res Inst, East)
   Regulation of iNOS gene in neural cells and its role in cell death
4. [S23] Yasuyuki Nomura, Takashi Uehara, Tadashi Nishiya, Tomohiro Miyasaka (Dept Pharmacol, Fac Pharm Sci, Hokkaido Univ)
   Neuronal apoptosis by glial iNOS/NO after brain ischemia
5. [S24] Masayuki Ikeda (Dept Physiol Chem, Graduate Sch, Tokyo Med Dent Univ)
   Induction of neuronal NOS in Purkinje cells
6. [S25] Takahiko Kato, Nobuo Inoue, Takashi Nakayama (Dept Biochem I, Yokohama City Univ Sch Med)
   Expression of nitric oxide synthase (NOS) in developing and differentiating rat cerebellum
7. [S26] Toshio Nakaki, Futoshi Shintani[1], Shigenobu Kanba[1],Eiji Suzuzki[1], Nobuyuki Sasakawa[2], Masahiro Asai[1] (Dept Pharmacol, Sch Med, Teikyo Univ, [1]Dept Neuropsychiat and [2]Pharmacol, Sch Med, Keio Univ)
   Nitric oxide synthase-mediated formation of bioactive 6-nitro-norepinephrine identified in mammalian brain

シンポジウムB： １０月３日（木）１５：００～１７：３０

C会場

2CSB. New factors and genes involved in developmental biology of neurons

Organizer and Chairman : Hiroshi Ueda

1. [S27] Paul H. Patterson (Biol Div, California Inst Technol, Pasadena)
   LIF, a cytokine at the neuroimmune interface
2. [S28] Naomasa Miki, Cheol-Hee Kim, Che-Hui Kuo, Eiichi Taira, Osamu Muraoka, Hidekazu Tanaka (Dept Pharmacol, Osaka Univ Sch Med)
   Functional analyses of neuronal genes in zebrafish
3. [S29] N. Mori[1], T. Kojima[1,2], Y. Naruse[1,2], S. Muraoka[1] ([1]Lab Inheritance and Variation, PRESTO, JRDC, [2]Dept Biosci, NAIST)
   Neural restrictive silencer and its binding factor in neuronal terminal differentiation and neural-specific gene regulation
4. [S30] Fumio Matsuzaki (Dept Mol Gen, Natl Inst Neurosci)
   Cell polarity and asymmetric division of neural stem cells
5. [S31] Nobuyuki Fukushima, Hiroshi Ueda[1] (Dept Pharmacol, Yokohama City Univ Sch Med, [1]Dept Pharmacol, Fac Pharmaceut Sci, Nagasaki Univ)
   Apoptosis-inhibitory factors, AIF-20 and AIF-22, and its signal transduction

神経化学の将来を語る

将来計画委員会実行委員　愛媛大学医学部神経精神医学　佐野　輝

新たに我々の学会に設けられた将来計画委員会は、最近研究の進歩が著しい分子神経精神遺伝学や分子神経生物学の領域を日本神経化学会でカバーし、臨床系研究者や分子生物学研究者の参加を積極的にすべく、公開シンポジウムの開催を企画した。幸いにも本年に開かれる第39回横浜大会の大会世話人（代表：横浜市大・加藤尚彦教授）の御配慮で、今大会に公開シンポジウムの枠をとっていただくこととなった。将来計画委員会で討議された内容に基づき、本年は分子神経精神遺伝学のトピックスである「トリプレットリピートから細胞死」をテーマに取り上げることとなった。この様な公開シンポジウムを、将来にわたってシリーズ化するよう提案したい。

また１０月２日の午後６時から、横浜シンポジアＡ会場横の眺望の良いラウンジで、我々の学会と研究分野の将来について自由に語り合う集会を企画している。軽い食べ物と飲み物を用意しているので、多くの会員特に若手会員の参加を期待している。

将来計画委員会実行委員　岡崎国立生理学研究所　池中一裕

神経化学会将来計画委員会が発足したことは、前回、前々回の「神経化学」に小宮委員長が報告されており、ご存じの方も多いと思います。将来計画委員会としては、神経化学会の将来に対するご意見を広く学会員の皆様からお伺いしたく、「神経化学会の将来を語る」会を本年度（第３９回）の神経化学会期間中（１０月２日）に開催を計画致しました。これと同じような会は昭和５５（1980）年の松山学会で行われており、その後の神経化学会の方向を決定する大きな流れを生み出しました。（例えば、科学研究費に神経化学の応募細目が設置されたこと、また理事の任期制を変更したことなど。）会員の方には、「今、何が神経化学会で問題なのか？」と思われる方もおられるかも知れませんが、実はいろいろな問題があります。

身近な学会運営の方式についても、

1．討論時間の１０分は長過ぎないか、（討論が充分にでき、神経化学会の特色が良く出ている反面、会場数を増やさないと口答発表数が限定される。）

2．抄録は長過ぎないか。（現在の形式でも以前の４頁、３頁より減っているが、それでも煩雑で演題応募の障害になっていないか。）

などの問題があります。

さらに、神経化学の魅力とは何か？神経化学と神経科学の違いは何なのか？のような問題になるといろいろな意見の方がおられることと思います。現在、神経化学会における臨床の演題数は減って来ていますし、分子生物学に関することは分子生物学会や神経科学学会で発表される傾向もあると思います。このような状況において、神経化学会が向かっていくのはどの方向なのか、独自の分野はあるのか、ということを論じることは極めて重要な意義を持つのであります。もし、神経科学学会と将来の方向が全く同じならば、２つの学会を作っておく必要性は無いでしょう。これらの問題を若手の会員を含めて討論する機会として、「神経化学(会)の将来を語る」会があります。学会の将来の方向決定には、将来においても活躍する若手の意見が大変重要です。また、若手だけには任せておけないという方のご意見も当然重要です。会員の皆様の積極的な参加を希望いたします。

当日いろいろな議題が考えられますが、参加者の活発な討論を引き出すために、１つの議題を提案させていただきます。

議題１．神経化学会と神経科学学会の合同学会開催を考える。

その他、いろいろなことについて話し合いたいと思います。

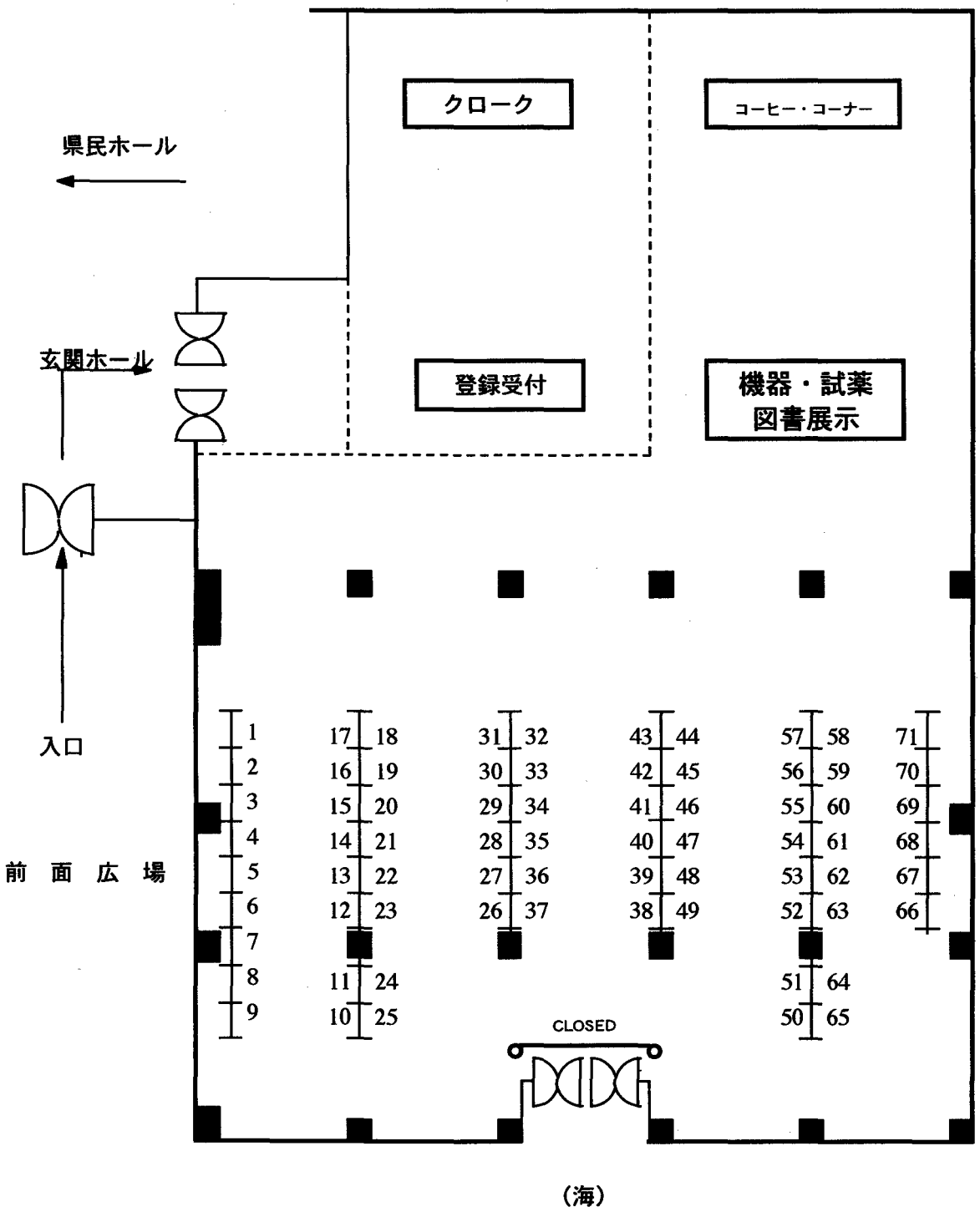
ポスターセッション・カテゴリー

ニューロンの分化	１Ｅ　１～１Ｅ　６
神経系栄養因子	１Ｅ　７～１Ｅ１５
精神疾患	１Ｅ１６～１Ｅ２２
神経疾患	１Ｅ２３～１Ｅ２５
モデル動物	１Ｅ２６～１Ｅ３５
シグナル伝達	１Ｅ３６～１Ｅ４０
アルツハイマー病	１Ｅ４１～１Ｅ５０
老化	１Ｅ５１～１Ｅ５２
細胞死	１Ｅ５３～１Ｅ６３
細胞骨格タンパク質	１Ｅ６４～１Ｅ６８
神経活動と遺伝子発現	１Ｅ６９～１Ｅ７１

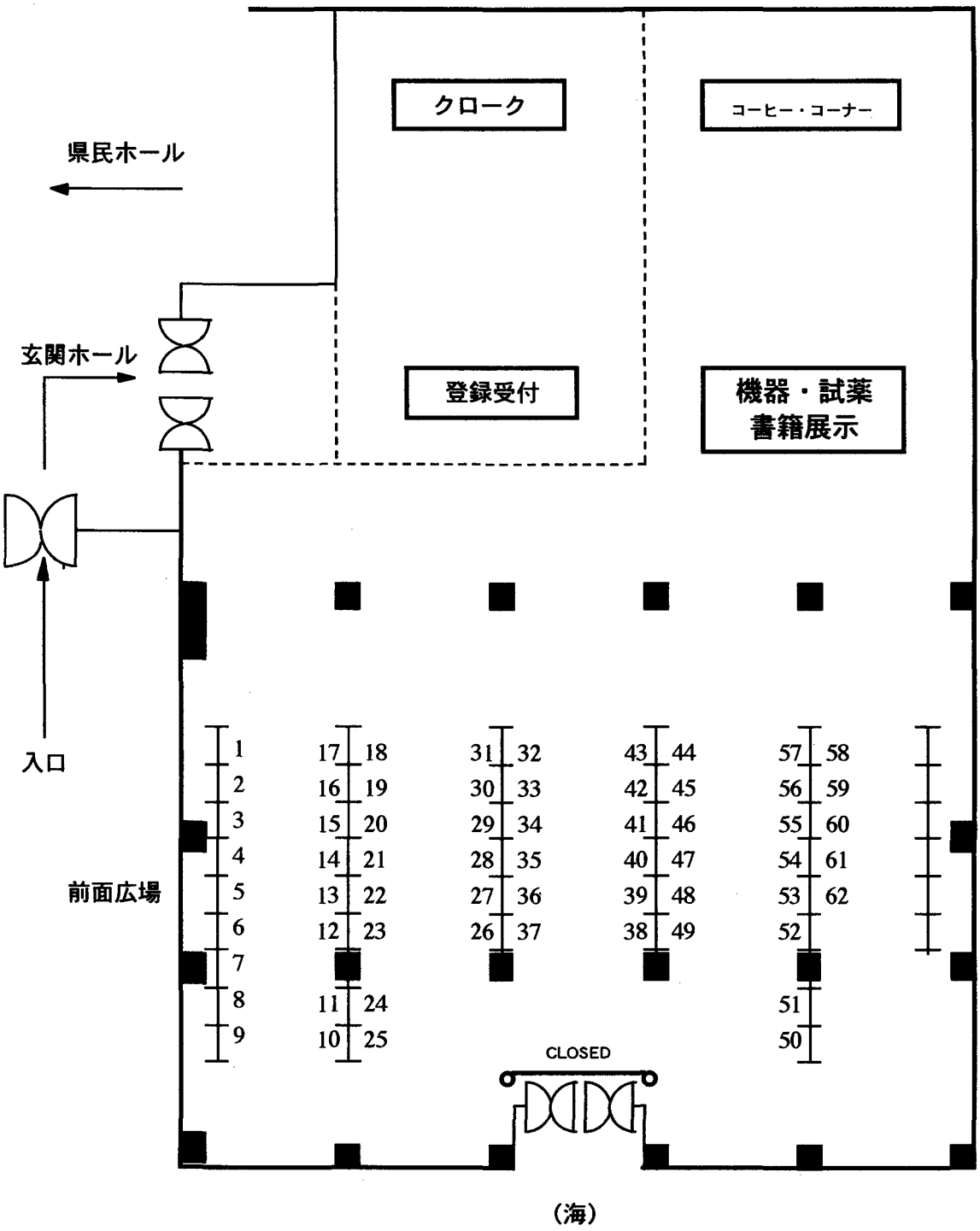
転写因子	２Ｅ　１～２Ｅ　３
脳タンパク質	２Ｅ　４～２Ｅ　５
ＮＯとＮＯ合成酵素	２Ｅ　６～２Ｅ１３
グリア細胞	２Ｅ１４～２Ｅ２３
神経伝達物質受容体	２Ｅ２４～２Ｅ３２
神経伝達物質放出	２Ｅ３３～２Ｅ３７
形態形成と遺伝子	２Ｅ３８～２Ｅ４０
脳虚血	２Ｅ４１～２Ｅ４７
グルコース代謝	２Ｅ４８～２Ｅ４９
行動	２Ｅ５０～２Ｅ５２
成長円錐	２Ｅ５３～２Ｅ６２

産業貿易センター（１階）ポスター配置図

第１日目　１０月２日（水）（1E1～1E71）



第２日目　１０月３日（木）（2E1～2E62）



[MEMO]

発表時間・座長一覧表

10月2日（水）

	第1日目 時　間	A 会場 （横浜シンポジア・講場）	B 会場 （横浜シンポジア・第1）	C 会場 （県民ホール・小ホール）	D 会場 （県民ホール・大会議室）	E会場 （産貿ホール） 前半ポスター掲示
1	9:30～ 9:50	「ニューロンの分化」	「精神神経疾患」	1CS1	「細胞死（I）」	「ニューロンの分化」
2	9:50～10:10		（モデル動物）	（S1～7）		1E1～6
3	10:10～10:30	1Aa 1～6	1Ba 1～6	「in vivo シナプス	1Da 1～6	「神経系栄養因子」
4	10:30～10:50	座長 額田　敏秀	座長 村島　善也	可塑性と記憶」	座長 加藤　聖	1E7～15
5	10:50～11:10	白尾　智明	小川　紀雄	Organizer & Chairman	津田　正明	「精神疾患」
6	11:10～11:30			小幡邦彦・加藤武		1E16～22
7	11:30～11:50			11：40～		「神経疾患」
8	11:50～12:10			1CL1		1E23～25
9	12:10～12:30			三須　良貴		「モデル動物」
	昼　　食					1E26～35
1	13:30～13:50	「神経系栄養因子(I)」	「シグナル伝達」	「アルツハイマー病」	※	「シグナル伝達」
2	13:50～14:10			（老化）		1E36～40
3	14:10～14:30	1Ap 1～5	1Bp 1～5	1Cp 1～5	1Dp 1～5	「アルツハイマー病」
4	14:30～14:50	座長 畠中　寛	座長 礒辺　俊明	座長 高坂　新一	座長 五嶋　良郎	1E41～50
5	14:50～15:10	仙波りつ子	山内　卓	吉川　和明	田代　朋子	「老化」
6	15:10～15:30					1E51～52
7	15:30～15:50	1Ap 6～9	1Bp 6～9	1Cp 6～9	1Dp 6～9	「細胞死」
8	15:50～16:10	座長 堀江　秀典	座長 阿部　輝雄	座長　森　啓	座長 赤川　公朗	1E53～63
9	16:10～16:30	佐野　曠	加藤　兼房	柳澤　勝彦	田中　英明	「細胞骨格タンパク質」
10	16:30～16:50				※	1E64～68
11	16:50～17:10				「細胞骨格タンパク質」	「神経活動と遺伝子発現」
12	17:10～17:30				Dp 1～2	1E69～71
13	17:30～17:50				「神経活動と遺伝子発現」	ポスター発表
14	17:50～18:10				Dp 3～7	（1E1 ～ 1E71）
15	18:10～18:30				「遺伝子導入」	奇数番号
	18:30～20:00	神経化学の将来を語る（横浜シンポジア・ラウンジ）将来計画委員会			Dp 8～9	ポスター発表
						（1E2 ～ 1E70）
						偶数番号

注）
1Aa=1日目A会場a.m.の一般口演
1Ap=1日目A会場p.m.の一般口演
1Ba=1日目B会場a.m.の一般口演
1Bp=1日目B会場p.m.の一般口演
1Cp=1日目C会場p.m.の一般口演
1Da=1日目D会場a.m.の一般口演
1Dp=1日目D会場p.m.の一般口演
1E=前半ポスター

1CS1=1日目C会場シンポジウム1
1CL1=1日目C会場 Review & Preview Lecture 1

発表時間・座長一覧表

10月3日（木）

	第2日目 時間	A 会場 （横浜シンポジア・議場）	B 会場 （横浜シンポジア・第1）	C 会場 （県民ホール・小ホール）	D 会場 （県民ホール・大会議室）	E 会場 （産貿ホール）
1	9:30～ 9:50	「転写因子」	「NO と NO	2CS2	「細胞死 (II)」	
2	9:50～10:10		合成酵素」	(S8～12)		
3	10:10～10:30	2Aa 1～6	2Ba 1～6	「分子精神医学と	2Da 1～6	
4	10:30～10:50	座長 池中 一裕	座長 熊倉鴻之助	脳の画像診断」	座長 小池 達郎	前半ポスター
5	10:50～11:10	郭 哲輝	鍋島 俊隆	Organizer & Chairman	和中 明生	
6	11:10～11:30	※	※	岸本英爾・大原浩市		
7	11:30～11:50	※ 2Aa6	※2Ba6 (老化)	11:40～		
8	11:50～12:10	(脳タンパク質)		2CL2		
9	12:10～12:30			H.N.Wagner		
	昼食				12：30～13：00 1E (前半) ポスター撤去 13：00～13：30 2E (後半) ポスター掲示	
	13:30～15:00			評議員会・総会		「転写因子」 2E1～3 「脳タンパク質」 2E4～5 「NO と NO 合成酵素」 2E6～13 「グリア細胞」 2E14～23 「神経伝達物質受容体」 2E24～32 「神経伝達物質放出」 2E33～37 「形態形成と遺伝子」 2E38～40
	15:00～17:30	2ASA (S20～26) 「Nitric oxide synthase (NOS) and action of nitric oxide」 Organizer & Chairman H. Esumi and T. Kato (D.S.Bredt)		2CSB (S27～31) 「New factors and genes involved in developmental biology of neurons」 Organizer & Chairman H.Ueda (P.H.Patterson)		
	18:00～20:30	懇親会 中華街 華正楼新館 （本格北京料理）				

注）
2Aa=2日目A会場a.m.の一般口演
2Ba=2日目B会場a.m.の一般口演
2Da=2日目D会場a.m.の一般口演
2E=後半ポスター
2CS2=2日目 C会場シンポジウム2
2CL2=2日目 C会場 Review & Preview Lecture 2
2ASA=2日目 A会場シンポジウムA
2CSB=2日目 C会場シンポジウムB

発表時間・座長一覧表

10月4日（金）

	第3日目 時　間	A 会場 （横浜シンポジア・議場）	B 会場 （横浜シンポジア・第1）	C 会場 （県民ホール・小ホール）	D 会場 （県民ホール・大会議室）	E会場 （産貿ホール）
1	9:30～ 9:50	「神経系栄養因子(II)」	「神経伝達物質	3CS3	「脳虚血」	「脳虚血」
2	9:50～10:10		受容体」	(S13～19)		2E41～47
3	10:10～10:30	3Aa 1～6	3Ba 1～6	「トリプレットリピート	3Da 1～6	「グルコース代謝」
4	10:30～10:50	座長 古川 昭栄	座長 東田 陽博	から細胞死」	座長 遠山 正彌	2E48～49
5	10:50～11:10	内田 洋子	山本 俊文	Organizer & Chairman	米田 幸雄	「行動」
6	11:10～11:30			辻 省次・佐野 輝		2E50～52
7	11:30～11:50			11:40～		「成長円錐」
8	11:50～12:10			3CL3		2E53～62
9	12:10～12:30			堀田 凱樹		
	昼　　食					
1	13:30～13:50	「グリア細胞」	「神経伝達物質放出」	「形態形成と遺伝子」	※	
2	13:50～14:10	3Ap 1～3	3Bp 1～4	3Cp 1～4	3Dp 1～4	
3	14:10～14:30	座長 阿相 皓晃	座長 高橋 正身	座長 岡本 仁	座長 野村 正彦	
4	14:30～14:50	加藤 泰治	※ 武井 延之	岡野 栄之	谷内 一彦	
			※ 3Bp4 (老化)		※ 「脳虚血」 3Dp 1	
5	14:50～15:10				「グルコース代謝」 3Dp 2～3	ポスター発表
6	15:10～15:30				「行動」	(2E1～2E61)
7	15:30～15:50				3Dp 4	奇数番号
8	15:50～16:10					ポスター発表
9	16:10～16:30					(2E2～2E62)
10	16:30～16:50					偶数番号
	16:50～17:20					後半ポスター撤去

注）
3Aa=3日目A会場a.m.の一般口演
3Ap=3日目A会場p.m.の一般口演
3Ba=3日目B会場a.m.の一般口演
3Bp=3日目B会場p.m.の一般口演
3Cp=3日目C会場p.m.の一般口演
3Da=3日目D会場a.m.の一般口演
3Dp=3日目D会場p.m.の一般口演
2E =後半ポスター

3CS1=3日目C会場シンポジウム3
3CL1=3日目C会場Review & Preview Lecture 3

口　演

第1日　10月2日（水）

A会場

09：30～11：30　1Aa　ニューロンの分化　　**座長：額田敏秀、白尾智明**

1 [70] 神経分化過程で一過的に誘導される新規神経ペプチド遺伝子 *N23K / N27K*
……斎藤祐見子[1]、川野　仁[2]、丸山　敬[1,3]、川村光毅[2]、西道隆臣[1]、川島誠一[1]
([1]東京都臨床研・遺伝情報、[2]慶応大・医・解剖、[3]国立生理研・神経化学)

2 [71] 分化発達するラット小脳における Glucose Transporter (GLUT) 1と3の発現
……百木忠久[2]、中山　孝[1]、井上順雄[1]、佐藤　忍[2]、関原久彦[2]、加藤尚彦[1]
([1]横浜市大・医・生化 I、[2]内科III)

3 [72] ニューロン特異的核蛋白質 necdin の機能解析
……河原康一[1]、植月太一[1]、斎藤　泉[2]、吉川和明[1]
([1]大阪大学・蛋白・機能制御、[2]東京大・医科研・遺伝子解析)

4 [74] ニューロン特異的核蛋白質ネクジンと DNA がんウィルス遺伝子産物の相互作用
……谷浦秀夫、谷口直子、吉川和明
(大阪大学・蛋白研・機能制御)

5 [76] 胚性腫瘍細胞（P19）の神経分化プログラミング過程におけるアポトーシスの抑制と PTPε
……丸山悦子、矢倉英隆
(東京都神経科学総合研究所・微生物・免疫)

6 [78] P19マウス胚性癌細胞の神経系細胞分化における体細胞 DNA 組換え活性の増加
……川端昌弘、中矢直樹、西堀正洋、佐伯清美
(岡山大学・医学部・薬理学)

13：30～16：30　1Ap　神経系栄養因子[I]　　**座長：畠中　寛、仙波りつ子**

1 [117] マウス体性感覚野バレルニューロンにおける BDNF, TrkB mRNA の発現と頬髭毛嚢の焼勺によるその選択的発現制御
……S.D. Tryambak、水野恭伸、河野朋子、中村　俊
(国立精神・神経センター・神経研究所・診断研究部)

2 [118] 脳由来神経栄養因子：ラット脳における加齢変化と局在
……仙波りつ子[1]、竹内郁夫[1]、仙波禮治[2]、加藤兼房[1]
([1]愛知県コロニー・研究所、[2]三重大・医)

3 [119] PC12D細胞からのNGF依存性神経突起誘導に対するトリコスタチン A の特異的阻害作用
……佐野　護、北島哲子
(愛知コロニー研究所・形態学)

4 [120] 培養幼鶏後根神経節神経細胞からのニューロトロフィン依存性神経突起誘導
……北島哲子、佐野　護
(愛知コロニー研究所・形態学)

注）[ ] 内数字：論文番号

5 [121] Neurotrophin/ Trk から Ras/MAPK へのシグナル伝達を媒介する神経特異的アダプター分子 (N－Shc) の単離

……中村岳史[1]、森　望[2]
([1]住友電気工業・バイオ研、[2]新技術事業団・遺伝と変化)

座長：堀江秀典、佐野　護

6 [124] BDNF による培養海馬ニューロンの細胞内カルシウム制御

……酒井直人[1,2]、山田雅司[1]、沼川忠広[1]、中谷篤史[1]、武井延之[3]、小倉明彦[4]、畠中　寛[1]
([1]大阪大・蛋白研、[2]浜松医大・脳外、[3]京都工繊大・繊維・応用生物、[4]大阪大・院・理・生科)

7 [125] グルココルチコイドにより誘発される培養ラット海馬神経細胞死に対する BDNF の保護効果

……新田淳美、片岡弘臣、斉藤和裕、古川昭栄
(岐阜薬科大学・分子生物学教室)

8 [130] Deacetylated Hippocampal Cholinergic Neurostimulating Peptide (free HCNP) の NMDA 受容体刺激を介する分泌

……小鹿幸生、継　泰城、大塚康史
(名古屋市立大学・医学部・第二内科)

9 [133] 新規肝由来神経活性化因子による迷走神経線維束切断端からの神経再生促進作用

……堀江秀典[1]、斉藤春洋[2]、築地　淳[2]、佐藤真由美[3]、酒井偉久子[1]、門屋利彦[4]、稲垣好昌[4]、野沢りさ[4]
([1]横浜市大・医・生理、[2]第一内科、[3]眼科、[4]キリンビール医薬探索研究所)

B会場

09：30～11：30　1Ba　精神神経疾患（モデル動物）　　座長：村島善也、小川紀雄

1 [17] Ramsay Hunt 症候群患者の末梢血単核球、涙液からの水痘・帯状疱疹ウイルスの検出

……中城有喜[1]、村上信五[2]、本多伸光[2]、土居孝至[1]、溝渕睦彦[1]、柳原尚明[2]
([1]愛媛大学・医学部・神経精神医学教室、[2]耳鼻咽喉科学教室)

2 [6] 精神分裂病患者赤血球における膜リン脂質に関する研究

……中島　央[1]、安川節子[1]、中林　潤[1]、上田啓司[2]、高松淳一[3]、宮川太平[1]
([1]熊本大学・医学部・神経精神科、[2]宮崎県立富養園、[3]国立療養所菊地病院)

3 [12] EHOC-1遺伝子の alternative splicing および組織発現

……上野修一[1]、中村雅之[1]、佐野　輝[1]、田邉敬貴[1]、K. Yamakawa[2]、R. Korenberg[2]
([1]愛媛大学・医学部・神経精神、[2]UCLA·Cedars-Sainai 医学センター・医学遺伝学)

4 [15] ラット大脳皮質における慢性リチウム投与によるプロテインキナーゼ C と GAP-43 のリン酸化の変化

……長田賢一、貴家康男、菩提寺伸人、浅倉幹雄
(聖マリアンナ医科大学・神経精神科学教室)

5 [23] EL マウスにおける脳内 SOD アイソザイム蛋白量の発作履歴及び発達過程における変化

……村島善也[1]、鈴木二郎[2]
([1]東京都精神研・神経生理、[2]東邦大学・医・精神医学)

注）[　] 内数字：論文番号

6 [30] 運動ニューロン変性疾患モデル (*Mnd*) マウス脊髄内グリア線維性酸性タンパク (GFAP) の発育に伴う変動
……藤田公和[1]、山内理充[1]、加藤寿章[1]、入谷克己[1]、安藤正人[2]、永田 豊[1]、高橋久英[3]、本多虔夫[4]
([1]藤田保健衛生大学・医学部・生理、[3]実験動物センター、[2]愛知学泉大学・解剖生理、[4]横浜市立市民病院)

13：30～16：30 1Bp シグナル伝達 **座長：礒辺俊明、山内 卓**

1 [195] 低分子量ストレス蛋白質のリン酸化
……伊東秀記、岡本慶子、加藤兼房
(愛知県コロニー・研究所・生化)

2 [197] C6 グリオーマ細胞における αB クリスタリンの蓄積
……加藤兼房[1]、伊東秀記[1]、岡本慶子[1]、佐賀信介[2]
([1]愛知県コロニー・研究所・生化、[2]形態)

3 [198] カルモデュリン依存性プロテインキナーゼキナーゼβアイソフォームの精製と性質
……奥野幸子、木谷隆子、藤澤 仁
(旭川医科大学・第一生化学)

4 [180] カルモデュリン依存性プロテインキナーゼ II 過剰発現細胞の神経突起形成における H-7 の効果
……吉村好之、野村知彦、山内 卓
(徳島大学・薬学部・生化学)

5 [199] 標的タンパク質に対する14-3-3タンパク質の結合部位
……市村 徹[1]、伊藤美津樹[1]、板垣千春[1]、堀米恒好[1]、小俣三郎[1]、新開史子[2]、瀬田和夫[2]、礒辺俊明[2]
([1]新潟大学・理学部・化学、[2]東京都立大学・理学部・生物化学)

座長：阿部輝雄、加藤兼房

6 [202] ウアバインによる培養アストロサイト Na, K-ATPase アイソフォーム α 1、β 1 の選択的誘導
……松田敏夫、細井理恵、橋本 均、浅野省一、馬場明道
(大阪大・薬・薬理)

7 [203] プロテインカイネース C によるグリシントランスポーター1b の機能調節
……佐藤康二
(大阪大学・医学部・バイオ研・神経解剖)

8 [205] トリプトファン水酸化酵素の誘導とその細胞内信号変換の解析：プロテアソーム阻害剤による誘導の阻止について
……小島雅代、飯田芳子、大黒一哉、長谷川宏幸
(帝京科大・理工・バイオサイエンス)

9 [206] レチノイン酸刺激による白鼠上頸交感神経節内組織トランスグルタミナーゼの誘導
……安藤正人[1,2]、山内理充[1]、藤田公和[1]、宮崎めぐみ[2]、永田 豊[1]
([1]藤田保健衛生大・医・生理、[2]愛知学泉大・解剖生理)

注) [ ] 内数字：論文番号

C会場

09:30～11:30　1CS1　シンポジウム 1（68頁参照）
11:40～12:30　1CL1　Review & Preview Lecture 1（67頁参照）

13：30～16：30　1Cp　アルツハイマー病（老化）　　座長：高坂新一、吉川和明

1　[50]　分泌型βアミロイド前駆体蛋白によるラット神経幹細胞の DNA 合成促進
……大澤郁朗、高村千鶴子、高坂新一
（国立精神・神経センター・神経研究所・代謝研究部）

2　[54]　Aβ（25-35）はCキナーゼを介してミクログリア走化作用の脱感受性を起こす
……中井真通、谷口泰造、川又敏男、橋本健志、寺島　明、北条香織、保田　稔、前田　潔、田中千賀子
（兵庫県立高齢者脳機能研究センター）

3　[55]　D型アミノ酸含有βアミロイドタンパクのアルツハイマー病発症における役割について
……金子　勲、山田紀子、久保武一、尾田富一郎
（三共(株) 神経科学研究所）

4　[56]　NG108-15 細胞の amyloidβ 蛋白産生に対する prolyl endopeptidase の関与
……篠田雅彦[1,2]、砥出勝雄[2]、大沢郁朗[1]、高坂新一[1]
（[1]国立精神神経センター神経研・代謝、[2]日本たばこ産業医薬総研・生物研）

5　[57]　組換えアデノウイルスを利用したラット脳への APP 遺伝子導入
……西村伊三男[1]、植月太一[1]，齋藤　泉[2]、岡村　均[3]、吉川和明[1]
（[1]大阪大・蛋白研・機能制御、[2]東京大・医科研・遺伝子解析、[3]神戸大・医・２解）

座長：森　啓、柳澤勝彦

6　[58]　クロロキンミオパチーにおける nonneural tau の動態
……小山文隆、井原康夫
（東京大学・医学部・脳研脳病理）

7　[59]　早発型家族性アルツハイマー病の病因遺伝子プレセニリン I (PS1) の変異と代謝
……高島明彦、Marc Mercken、高橋浩士、村山美由紀、安武かおり
（三菱化学生命科学研究所）

8　[64]　Alzheimer 神経原線維変化内新規抗原の検索
……吉田裕孝[1]、渡辺　淳[1,2]、井原康夫[1]
（[1]東京大学・医学部・脳研究施設・脳病理学部門、[2]東京理科大学・理工学部・応用生物科学科）

9　[67]　トランスフェリンの多型性とアルツハイマー病
……行方和彦[1]、今川正樹[2]、小山文隆[1]、井原康夫[1]
（[1]東京大学・医学部・脳研病理、[2]兵庫県立尼崎病院・精神科）

注）[　] 内数字：論文番号

D会場

09：30～11：30 1Da 細胞死［I］ 座長：加藤 聖、津田正明

1 [115] ラット血清による培養ミクログリアの活性酸素産生増強
……司 秋生、中村洋一、片岡喜由
（愛媛大学・医学部・生理学教室第一）

2 [112] グリア毒(DL-α-アミノアジピン酸と6-アミノニコチン酸アミド）の細胞毒性機序の比較検討
……馬渡一浩[1]、本間啓子[1]、安井裕子[2]、石田外樹[2]、滝沢 昇[2]、加藤 聖[2]
（[1]金沢大・医・保健検査、[2]医・神経情報研・伝達）

3 [100] アストログリア (AST) の培養系を用いた新規小胞輸送関連蛋白 (RA410) のクローニングとその虚血脳における発現
……松尾徳幸[1,5]、小川 智[2]、和中明生[4]、松山知弘[3]、高木 勉[2]、遠山正弥[1]
（[1]大阪大学・医学部・第二解剖学教室、[2]同・分子脳機構（田辺）、
[3]兵庫医科大学・第五内科、[4]福島県立医科大学、[5]大日本製薬）

4 [101] 再酸素化に伴うアストログリア (AST) での HSP70 の発現のメカニズムとその機能の解析
……小川 智[1]、蘭牟田直彦[2]、上田周一[2]、柳原武彦[2]、遠山正彌[1]
（[1]大阪大学・医学部・第二解剖学教室、[2]同・神経内科学教室）

5 [107] ドーパミン神経毒1(*R*),2(*N*) - dimethyl - 6,7 - dihydroxy - 1,2,3,4 - tetrahydroisoquinoline によるアポトーシスの惹起
……丸山和佳子[1]、高橋 勤[2]、直井 信[3]
（[1]中部病院長寿医療研究センター、[2]江南女子短期大学、[3]名古屋工業大学）

6 [109] ラット中脳培養ニューロンにおけるドーパミン D_2 受容体刺激薬によるグルタミン酸誘発神経細胞死の抑制効果
……澤田秀幸[1]、下濱 俊[1]、木村 淳[1]、河村貴央[2]、赤池昭紀[2]
（[1]京都大学・医学部・神経内科、[2]薬学部・薬理）

13：30～14：10 1Dp 細胞骨格タンパク質 座長：五嶋良郎、田代朋子

1 [190] 神経細胞内及び、サイクリン依存性蛋白質燐酸化酵素による微小管付随蛋白質2の燐酸化反応
……山本秀幸[1]、久永真市[2]、岸本健雄[2]、宮本英七[1]
（[1]熊本大学・医学部・第一薬理、[2]東京工業大学・生命理工）

2 [192] 若齢ラットと老齢ラットのニューロフィラメントの違いについて
……久永真市、岸本健雄
（東京工業大学・生命理工学部）

14：10～15：50 1Dp 神経活動と遺伝子発現

3 [214] 活性型 Fyn の脳内発現によるけいれん発作とチロシンリン酸化の亢進
……児島伸彦、石橋英俊、小幡邦彦
（生理学研究所・神経化学）

注）[ ] 内数字：論文番号

4 [215] 新規セリンプロテアーゼ、ニューロプシンの活性化機構の解明と生体内基質の探索
……清水千草[1,2]、加藤 武[2]，松本和政[1]、吉田成孝[1]、塩坂貞夫[1]
([1]奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科・細胞構造、
[2]横浜市立大学・総合理学研究科・分子認識)

5 [216] 神経活動によって発現制御される遺伝子 arc とその遺伝子産物
……山形要人[1]、杉浦弘子[1]、入江康至[2]、三木直正[2]
([1]東京都神経研・分子神経生物、[2]大阪大・医・第一薬理)

座長名：赤川公朗、田中英明

6 [217] ラット海馬における HPC-1/syntaxin-1A 遺伝子発現のカイニン酸による抑制作用
……藤野一郎、藤原智徳、赤川公朗
(杏林大学・医・第二生理)

7 [218] 中枢神経系における浸透圧変化に対する防御機構の重要性と浸透圧制御に関わる遺伝子
……山下俊英[1]、島田昌一[2]、高木 勉[1]、早川 徹[3]、遠山正彌[2]
([1]大阪大学・医学部・分子脳機構、[2]第二解剖、[3]脳神経外科)

15：50～16：30 1Dp 遺伝子導入

8 [237] 単離ミクログリアおよび株化ミクログリアを用いた脳選択的遺伝子導入法
……澤田 誠[1]、永津俊治[1,2]
([1]藤田保健衛生大学・総合医科学研究所・病態生化学、[2]神経化学)

9 [238] ヒト羊膜細胞における多能性神経幹細胞マーカーの発現とその Lac Z 遺伝子導入細胞のラット脳移植実験
……桜川宣男[1]、Ramasamy Thangavel[1]、石井 俊[1]、池田久美子[1]、屋田 修[2]、荻野郁子[2]
([1]国立精神・神経センター・神経研究所・第5部、[2]順天堂大学・医学部・脳神経外科)

注) [ ] 内数字：論文番号

口　演

第2日　10月3日（木）

A会場

09：30～11：30　2Aa　転写因子（脳タンパク質）　　座長：池中一裕、郭　哲輝

1 [222] Neuro D ファミリーに属する新しい神経特異的 bHLH 蛋白 cDNA の単離と解析
……安波道郎[1]、鈴木和夫[1]、永井康雄[2]、萩原正敏[2]、丸山博文[3]、川上秀史[3]、大久保博晶[1]
([1]熊本大学・医・遺伝発生研、[2]名古屋大学・医・解剖学第三、[3]広島大学・医・第三内科)

2 [224] 脳可溶性画分における転写制御因子 DNA 結合能
……東　泰孝、荻田喜代一、米田幸雄
(摂南大・薬・薬理)

3 [226] 1本鎖CRE結合蛋白質（ssCRE-BP）とその DNA 結合活性を増加させる因子について
……丁　云[1]、大杉　武[2]、都　銀珠[1]、郭　哲輝[1]、三木直正[1]
([1]大阪大・医・第一薬理、[2]日本ベーリンガー川西医薬研)

4 [228] E2F1 の強制発現によって誘発される成熟神経細胞の DNA 合成及びアポトーシスについて
……須田喜久夫[1]、宮嶋雅一[2]、佐藤　潔[2]
([1]済生会川口総合病院・脳神経外科、[2]順天堂大学・脳神経外科)

5 [229] 神経選択的サイレンサー結合因子 NRSF の神経細胞特異的バリアントの構造と機能
……鳴瀬善久[1,3]、小島拓哉[1,3]、武井延之[2]、森　望[3]
([1]奈良先端大・バイオ、[2]京都工繊大・応用生物、[3]新技術事業団・遺伝と変化)

（脳タンパク質）

6 [211] 脳タンパク質の多次元 HPLC-ESI/MSによる分子解剖
……瀬田和夫[1,2]、礒辺俊明[1]、中山　洋[1]、新開史子[1]、山口美保子[2]、金井みち子[2]、徐　紅[2]、奥山典生[1]
([1]東京都立大学・理学部・化学科生物化学、[2]サーモクエスト)

15:00～17:30　2ASA　シンポジウムA　(71頁参照)

B会場

09：30～11：30　2Ba　NOとNO合成酵素（老化）　　座長：熊倉鴻之助、鍋島俊隆

1 [166] ラット脳グリア細胞におけるinducible NOS (iNOS) 誘導に対する endothelin (ET)の作用
……小田温子[1]、村山俊彦[1]、佐々木幸生[2]、岡田敏一[2]、野村靖幸[1]
([1]北大・薬・薬効、[2]日本チバガイギー国際科学研究所)

注）[ ] 内数字：論文番号

2 [167] ラット小脳での一酸化窒素 (NO) 産生におけるグリア細胞の役割
……山田清文、鍋島俊隆
(名古屋大学・医学部・医療薬学・附属病院薬剤部)

3 [172] NO を介する神経細胞死の過程で起こる転写因子 AP−1 の消失について
……田渕明子、津田正明
(岡山大学・薬学部)

4 [173] PC12細胞におけるS-ニトロソシステインによる $[Ca^{2+}]_i$ の上昇
……長沼朋佳、村山俊彦、野村靖幸
(北海道大学・薬学部・薬効学講座)

5 [170] 局所脳虚血ラットにおける NO 合成酵素 (NOS) の経時的変化と NOS 産生細胞の同定
……本間秀樹[1]、水島秀勝[1]、土肥謙二[1]、荒井好範[1]、松本 清[1]、塩田清二[2]、中井康光[2]
([1]昭和大学・医学部・脳神経外科、[2]同・第一解剖学)

(老化)

6 [48] 老化促進モデルマウス (SAMP8) の加齢に伴う頭部フリーラジカル並びに脳内神経伝達物質の変化に対する性差の違いについて
……小松真紀子[1]、平松 緑[1]、植田勇人[2]
([1]山形県テクノポリス財団・生物ラジカル研究所、[2]宮崎医科大学・精神科)

C会場

09:30〜11:30 2CS2 シンポジウム 2 (69頁参照)
11:40〜12:30 2CL2 Review & Preview Lecture 2 (67頁参照)

13:30〜15:00 評議員会・総会

[議題]

1. 理事長報告
2. 庶務報告
3. 出版広報報告
4. 各委員会報告
5. 平成7年度決算の件
6. 平成9年度予算の件
7. プログラム編成報告
8. 評議員選任の件
9. 名誉会員推薦の件
10. 理事改選の件
11. 次期学会世話人及び開催地の件
12. その他

15:00〜17:30 2CSB シンポジウム B (72頁参照)

注) [ ] 内数字：論文番号

D会場

9：30～11：30 2Da 細胞死［II］ **座長：小池達郎、和中明生**

1 [94] 神経細胞のプログラム細胞死の際に発現誘導する遺伝子DP5の単離と機能解析
……今泉和則[1,2]、津田 学[1,2]、片山泰一[1,2]、高木 勉[1]、和中明生[4]、遠山正彌[3]
([1]阪大・医・分子脳、[2]田辺製薬、[3]阪大・医・第二解剖、[4]福島医大・細胞科学)

2 [96] p53遺伝子に依存的な中枢神経幹細胞のアポトーシス
……久恒辰博[1,2]、Ronald D.G. McKay[2]、上野川修一[1]
([1]東大院・応用生命化学、[2]Lab. Mol. Biol、 NINDS NIH)

3 [99] プログラム神経細胞死制御機構における小胞体シグナリングの役割
……小池達郎、田中秀逸
(北大院・理・行動知能学)

4 [102] 海馬スライス培養モデルにおける虚血性ニューロン死、およびHSP発現の検討
-antisense oligonucleotideをもちいて-
……榊 孝之、甲村英二、湯口貴導、埜中正博、伊藤 守、山下俊英、藤中俊之、早川 徹
(大阪大学・医学部・脳神経外科)

5 [104] 神経芽細胞腫の自然退縮とICEファミリーシステインプロテアーゼ：その発現と細胞内局在について
……中川原 章[1]、中村洋子[1]、日和佐隆樹[1]、池田 均[2]、杭田慶介[3]、崎山 樹[1]
([1]千葉県がんセ・生化学、[2]群馬小児医療セ・外科、[3]都臨床研・免疫)

6 [105] 小脳顆粒細胞の生存維持とカルシウム応答遺伝子群の発現制御
……津田正明、佐野訓明、田渕明子
(岡山大学・薬学部・微生物薬品化学)

注) [ ] 内数字：論文番号

口　演

第3日　10月4日（金）

A会場

09：30～11：30　3Aa　神経系栄養因子［II］　　座長：古川昭栄、内田洋子

1　[131]　培養シュワン細胞におけるGDNFの発現調節
……渡部和彦[1]、田中順一[1]、本田英比古[2]、豊原敬三[2]、酒井　紀[2]
([1]東京慈恵会医科大学・神経病理、[2]内科第2)

2　[132]　Glial cell-derived neurotrophic factor (GDNF) による神経芽細胞腫の分化誘導とc-Retチロシンキナーゼのシグナル伝達について
……菱木知郎、近藤和博、二村好憲、一宮慎吾、崎山　樹、中川原　章
(千葉県がんセ・生化学)

3　[134]　培養アストロサイトにおける成長抑制因子の発現調節
……内田洋子
(都老人研・神経病理)

4　[136]　ニューロトロフィンによるラット培養ミクログリアの機能調節
……菊地義明、中嶋一行、本田静世、石川正洋、高坂新一
(国立精神・神経センター・神経研究所・代謝研究部)

5　[137]　aFGFと視床下部-下垂体-副腎系および交感神経系の関連
……大村　裕[1]、松本逸郎[2]、佐々木和男[3]、新島　旭[4]
([1]日本臓器製薬(株)・生物活性科学研、[2]長崎大学・医、[3]富山大学・工、[4]新潟大学・医)

6　[138]　前脳基底部における酸性線維芽細胞成長因子の分布　-ラットおよびヒト剖検脳における検討-
……遠山育夫[1]、相見良成[1]、安原　治[1]、郭　力達[1]、鹿毛眞人[1]、PL McGeer[2]、木村　宏[1]
([1]滋賀医科大学・分子神経生物学研究センター、[2]British Columbia大学・精神科)

13：30～14：30　3Ap　グリア細胞　　座長：阿相皓晃、加藤泰治

1　[85]　p53欠損マウス脳初代培養細胞からのミクログリア様細胞株の樹立
……大澤圭子、今井嘉紀、中嶋一行、高坂新一
(国立精神神経センター・神経研・代謝)

2　[88]　マトリックスメタロプロテイナーゼ抑制因子（TIMP-2）のグリオーマ細胞に対する細胞移動・浸潤抑制効果
……矢崎貴仁[1]、星　道生[2]、Samuel D. Rabkin[3]、Robert L. Martuza[3]、植村慶一[1]
([1]慶應義塾大学・医学部・生理、[2]脳神経外科、[3]Molecular Neurosurgery Lab., Georgetown Univ. Med. Ctr.)

3　[89]　マイクログリアのグルココルチコイドおよびミネラルコルチコイドレセプター
……藤田弘子[1]、田中潤也[2]、松田正司[1]、阪中雅広[1]、前田信治[2]
([2]愛媛大学・医学部・第二生理学教室、[1]第二解剖学教室)

注）[　] 内数字：論文番号

B会場

09：30～11：30 3Ba 神経伝達物質受容体 座長：東田陽博、山本敏文

1 [150] 受容体-イオンチャネルカップリングはストレプトゾトシンの処理で NAD^+ 量の減少した神経腫瘍 NG108-15 細胞で抑制される
……野田百美[1,2]、東田陽博[1]
([1]金沢大・医・神経情報研、[2]九大・医・生理)

2 [155] D1ドーパミン受容体と結合するアデニル酸シクラーゼの同定
……木村和弘、岡田尚子、森松正美、斉藤昌之
(北海道大学・大学院・獣医学研究科・生化学教室)

3 [157] マウスドーパミンD_4受容体の遺伝子構造と mRNA 組織分布
……鈴木竜世[1]、小林和人[1,2]、永津俊治[1]
([1]藤田保健衛生大・総医研、[2]奈良先端大・遺伝子教育研究センター)

4 [160] マイクロダイアリーシス法を用いた $GABA_B$ 受容体／cAMP 系の検討
……橋本恒一、栗山欣弥
(京都府立医科大学・薬理)

5 [162] ペプチド受容体のキメラによるリガンド結合領域に関する検討
……橋本 均、小川暢也、山本恭平、萩原七美、松田敏夫、馬場明道
(大阪大・薬・薬理)

6 [163] 海馬初代培養神経細胞の Ca^{2+} - oscillation に対する ATP の抑制作用
……小泉修一、井上和秀
(国立衛試・薬理)

13：30～14：50 3Bp 神経伝達物質放出 座長：高橋正身、武井延之

1 [141] Ca^{2+} に依存したシンタキシンとSNAPとの相互作用
……川崎雅一[1]、西木禎一[1]、熊倉鴻之助[1]、高橋正身[2]
([1]上智大・生命研・神経化学、[2]三菱化学生命研)

2 [143] 伝達物質放出の融合複合体構成成分シナーフィン
……石塚 徹[1]、西須英雄[1]、熊西敏郎[2]、阿部輝雄[1]
([1]新潟大学・脳研究所・細胞神経生物学、[2]分子神経病理)

3 [147] セロトニンによるラット前頭葉アセチルコリン分泌の制御機構（V）：
$5\text{-}HT_{1A}$ 受容体の役割
……平野 均[1]、平田牧三[1]、山田通夫[2]、松田芳人[2]
([1]山口大学・保健管理センター、[2]同・医学部・神経精神医学講座)

4 [49] 脳シナプスにおけるアセチルコリン放出とカルシウムイオン流入の加齢に伴う異常
……田中康一、安藤 進
(東京都老人総合研究所・生体膜部門)

注）[ ] 内数字：論文番号

C会場

09:30～11:30　3CS3　シンポジウム 3（70頁参照）
11:40～12:30　3CL3　Review & Preview Lecture 3（67頁参照）

13：30～14：50　3Cp　形態形成と遺伝子　　**座長：岡本　仁、岡野栄之**

1　[230]　ジーントラップ法で得られたGT3-11,12系統マウスの解析
……宮下哲典[1,2]、伊藤康宏[1]、桑野良三[1]
([1]新潟大・遺伝子実験施設、[2]同・自然科学・生体機能)

2　[232]　神経前駆細胞に発現する *elav* / HuC Homologue
……金　哲熙、村岡　修、植嶋栄未子、田中秀和、三木直正
(大阪大学・医学部・第一薬理)

3　[233]　ショウジョウバエ複眼形成における分泌性蛋白質 Argos の役割：
Ras / MAPKカスケードを介した細胞分化の制御とアポトーシスの誘導
……澤本和延[1,2]、田口明子[1]、山田知春[1]、岡野栄之[1,2]
([1]筑波大・基礎医・分子神経、[2]筑波大・TARAセンター)

4　[234]　眼と小脳の発生におけるゼブラフィッシュ Islet－3 の機能解析
……菊池　裕[1]、徳元美佳[2]、堀田凱樹[3]、植村慶一[1]、岡本　仁[1]
([1]慶大・医・生理、[2]基礎生物学研究所、[3]東大・物理)

D会場

09：30～11：30　3Da　脳虚血　　**座長：遠山正彌、米田幸雄**

1　[32]　脳虚血抵抗性とAP1結合活性の関連性
……倉本展行[1]、東　泰孝[1]、荻田喜代一[1]、米田幸雄[1]、章　龍[2]、柳瀬尚人[2]、三谷　章[2]、片岡喜由[2]
([1]摂南大・薬・薬理、[2]愛媛大・医・第一生理)

2　[34]　砂ネズミ脳における FK506 結合蛋白の分布とリガンド結合様式に関する研究
……野崎博之、福内靖男、田中耕太郎、白井俊孝、永田栄一郎、近藤太郎、小山　聡、傳法倫久
(慶應義塾大学・神経内科)

3　[35]　一過性前脳虚血後に砂ネズミ海馬で誘導される遺伝子の探索
＝Znトランスポーター ZnT-1 の発現＝
……津田　学[1]、今泉和則[1]、片山泰一[1]、北川一夫[2]、和中明生[3]、遠山正彌[4]、高木　勉[1]
([1]大阪大・医・分子脳（田辺）、[2]第一内科、[4]第二解剖、[3]福島医大・細胞科学)

4　[37]　C57BL / 6マウス一過性脳虚血モデルにおける海馬 CA 3 の神経細胞死に伴うferritin の変化　－免疫組織化学的検討－
……近藤洋一、浅沼幹人、西林佐紀子、岩田恵美、松浦弘治、Marvin Gómez-Vargas、飯田基之、小川紀雄
(岡山大・医・分子細胞医学研・神経情報学部門)

5　[40]　PACAPによる遅発性神経細胞死抑制効果について－分子神経科学的研究－
……水島秀勝[1]、本間秀樹[1]、土肥謙二[1]、松本　清[1]、塩田清二[2]、中井康光[2]、有村　章[3]
([1]昭和大学・脳神経外科、[2]同・第一解剖、[3]チューレン大学・日米生物医学研究所)

注）[　] 内数字：論文番号

6 [45] 虚血性脳障害の発生、進展における細胞接着因子の関与
－ICAM1 ノックアウトマウスを用いた検討－
……北川一夫[1]、馬渕卓真[1]、八木田佳樹[1]、柳原武彦[2]、松本昌泰[1,2]
([1]大阪大学・第一内科、[2]神経内科)

13：30～13：50 3Dp 脳虚血 座長：野村正彦、谷内一彦

1 [43] 前脳血流慢性低灌流負荷のラット脳内神経系に及ぼす影響
……田中健一[1]、和田尚子[1]、小川紀雄[2]、野村正彦[1]
([1]埼玉医科大学・第一生理学、[2]岡山大学・医学部・神経情報学)

13：50～14：30 3Dp グルコース代謝

2 [210] 脳内ブドウ糖・グルタミン酸代謝へのインスリンの効果 －[1-^{13}C]－ブドウ糖投与での ex vivo ^{13}C－MRSによる検討－
……金松知幸、高原ひろみ、塚田裕三
(創価大学・生命科学研究所)

3 [4] 片側側坐核 D_1, D_2 受容体刺激による turning behaviour の発現と線条体 dopamine 遊離の変化：shell と core の役割の違い
……北村牧子[1]、吉田幸弘[2]、越川憲明[1]、小林雅文[1]
([1]日本大学・歯学部・薬理学教室、[2]歯科麻酔学教室)

14：30～14：50 3Dp 行動

4 [5] ヒスタミンH_1受容体遺伝子ノックアウトマウスにおける行動異常とセロトニン遊離亢進について
……谷内一彦[1]、孫 立智[1]、新村 核[1]、井上 勲[2]、渡辺 武[2]、渡邉建彦[1]
([1]東北大学・医学部・第一薬理、[2]九州大学・生体防御医学)

注) [ ] 内数字：論文番号

ポスター

1E　ポスター発表　(1E1～1E71)

ポスター掲示		10月 2日 (水)	09:00 ～ 09:30
◎ポスター発表	(奇数番号)	10月 2日 (水)	16:30 ～ 17:30
◎ポスター発表	(偶数番号)	10月 2日 (水)	17:30 ～ 18:30
ポスター撤去		10月 3日 (木)	12:30 ～ 13:00

2E　ポスター発表　(2E1～2E62)

ポスター掲示		10月 3日 (木)	13:00 ～ 13:30
◎ポスター発表	(奇数番号)	10月 4日 (金)	14:50 ～ 15:50
◎ポスター発表	(偶数番号)	10月 4日 (金)	15:50 ～ 16:50
ポスター撤去		10月 4日 (金)	16:50 ～ 17:20

1E1~1E71　10月2日（水）　E 会場

<ニューロンの分化>　1E1～1E6

1　[69]　生後脳において顆粒細胞層に特異的に発現する新規 zinc finger 遺伝子 *gcz* のクローニング

……松本和政[1]、遠山正彌[2]、塩坂貞夫[1]

([1]奈良先端科学技術大学院大学・細胞構造、[2]大阪大学・医・第２解剖)

2　[73]　ニューロン特異的核蛋白質 necdin に結合する蛋白質の解析

……谷口直子、谷浦秀夫、吉川和明

(大阪大学・蛋白研・機能制御部門)

3　[75]　胎仔脳神経管由来の細胞のフローサイトメトリーによる解析

……山之端万里、中山たかね、相馬健子、塚田裕三

(創価大学・生命科学研究所)

4　[77]　プロテインホスファターゼによる胚性腫瘍細胞の神経分化の制御

……笹原洋二、小林孝安、柳川右千夫、田村眞理

(東北大学・加齢研・遺伝子情報)

5　[79]　サル大脳皮質培養細胞によるニューロン回路網の形成

……開地泰介[1]、吉川泰弘[2]、村本和世[1]、川原正博[1]、小林和夫[1]、黒田洋一郎[1]

([1]東京都神経科学総合研究所・神経生化学部門、
[2]国立予防衛生研究所・筑波医学実験用霊長類センター)

6　[80]　マウス神経芽腫細胞の細胞周期に対する糖脂質合成酵素阻害剤とスフィンゴ脂質の効果

……上村敬一、武富　保

(信州大・医・加齢適応研究センター・加齢生化学)

注)［ ］内数字：論文番号

<神経系栄養因子> 1E7～1E15

7 [122] TrkB発現PC 12 細胞における、NGFと BDNF による神経栄養因子作用の比較
……中谷篤史[1]、山田雅司[1]、池内俊彦[1]、中山 均[2]、畠中 寛[1]
([1]大阪大学・蛋白質研究所・生合成、[2]奈良県立医科大学・薬理)

8 [123] BDNF による初代培養ニューロンからの神経伝達物質放出
……沼川忠広[1]、酒井直人[1]、武井延之[2]、畠中 寛[1]
([1]大阪大学・蛋白質研究所・生合成、[2]京都工芸繊維大学・応用生物学科・細胞生物)

9 [126] 高カリウム刺激によってアストロサイトから分泌される神経栄養因子活性
……阿比留康弘[1]、西尾チカ[1]、仙波りつ子[2]、畠中 寛[1]
([1]大阪大学・蛋白質研究所・生合成、[2]愛知県コロニー研究所)

10 [127] 抗 HCNP 抗体によるラット末梢自律神経系の免疫電顕的検討
……片田栄一、三竹重久、小鹿幸生
(名古屋市立大学・第二内科)

11 [128] マウスにおける海馬由来神経刺激因子の遺伝子発現量の検討
……松川則之[1,2]、小鹿幸生[1]、片田栄一[1]、岡田秀親[3]、東藤直樹[4]、山本孝之[2]、上田龍三[1]
([1]名古屋市立大学・第二内科、[2]野依福祉村病院・長寿医学研究所、[3]名古屋市立大学分子研・生体高分子、[4]住友製薬総合研究所・創業第三研究所)

12 [129] Hippocampal Cholinergic Neurostimulating Peptide (HCNP) Processing Enzyme の精製
……大塚康史、小鹿幸生
(名古屋市立大学・医学部・第二内科)

13 [135] コロニー刺激因子および上皮増殖因子の培養神経細胞に対する保護効果
……彭 輝[1]、田中潤也[2]、藤田弘子[1]、阪中雅広[1]、前田信治[2]
([2]愛媛大学・医学部・第二生理学教室、[1]第二解剖学教室)

14 [139] 培養シュワン細胞におけるLIF-mRNAの発現調節機構の解析
……中根麻子、松岡一郎、栗原堅三
(北海道大学・薬・薬剤学)

15 [140] カイニン酸傷害脳に対する estrogen の影響
……新郷明子、鬼頭昭三、仙波純一、三好理絵
(放送大学・教養学部)

<精神疾患> 1E16～1E22

16 [7] 精神分裂病者から得られた Epstein-Barr Virus 転換Bリンパ球における cAMP 応答性の検討
……夏苅直己[1]、R.J. Wyatt[2]、J.M. Masserano[2]
([1]浜松医大・第二生化学、[2]NIMH Neuroscience Center)

17 [8] 悪性症候群の病態に基づいた動物モデルの開発と TRE 及び CRE への結合能の変化
……谷井久志[1]、谷口典男[1]、浅沼幹人[2]、小川紀雄[2]、西村 健[3]、武田雅俊[1]
([1]大阪大学・医学部・精神医学教室、[3]甲子園大学・栄養学部、[2]岡山大学・医学部・分子細胞医学研究施設・神経情報学部門)

注) [ ] 内数字：論文番号

18 [9] 抗精神病薬の投与によって誘導されるFosおよびJun関連蛋白質の形態学的変化
……尾崎宜洋[1]、勝元栄一[1]、横谷　昇[2]、攝井弘二[1]、古塚大介[1]、山上　榮[1]
([1]大阪市立大学・医学部・神経精神医学教室、[2]同・附属刀根山結核研究所)

19 [10] Sulpiride慢性処置によるラット前頭葉皮質初代培養細胞における NMDA 誘発性Ca^{2+}流入増強作用
……林　輝男[1]、加賀谷有行[2]、小山田孝裕[2]、竹林　実[2]、横田則夫[2]、西田　朗[3]、清水雅美[3]、山脇成人[2]
([1]広島静養院、[2]広島大学・医学部・神経精神医学講座、[3]国立呉病院・臨床研究部)

20 [11] ラット脳下垂体ドパミンD2受容体およびG蛋白質αサブユニットに対する新規抗精神病薬aripiprazole (OPC-14597) の影響
……瀬戸真由美[1]、井上敦子[1]、菊地哲朗[2]、仲田義啓[1]
([1]広島大・医・総合薬・薬解、[2]大塚製薬・徳島新薬三研)

21 [13] 培養神経細胞におけるアミノ酸刺激性細胞内Ca^{2+}上昇に対する抗うつ薬の抑制効果
……竹林　実[1,2]、加賀谷有行[1]、林　輝男[1,3]、稲垣正俊[1]、田原康孝[1]、横田則夫[1]、津久江一郎[2]、山脇成人[1]
([1]広島大学・医学部・神経精神医学講座、[2]瀬野川病院、[3]広島静養院)

22 [14] 新規抗うつ薬YM992の生化学的検討
……畠中健一、山口時男
(山之内製薬株式会社・創薬研究本部)

＜神経疾患＞　1E23～1E25

23 [16] バイオセンサーを使用したニューロパチー患者血清のスクリーニング
……北村邦男[1]、細川　武[2]、坂本　安[1]、寺田庄一[1]、吉村和法[1]、野村正彦[1]
([1]埼玉医大・第一生理、[2]神経内科)

24 [18] マウス初期発育ステージにおける脳内HGPRT活性とドーパミン量の変化及び *in situ* hybridizationによるHGPRTとチロシンハイドロキシラーゼの発現変化
……毛利英雄[1]、町田光世[1]、池田和正[1]、佐藤嘉兵[1]、中川滋木[2]
([1]日本大学・生物資源科学部・応用生物、[2]医学部・生化学)

25 [19] 神経細胞に特異的なRNA結合蛋白質 (Hu) を認識する自己抗体の解析
……吉村和法[1]、金子　厚[2]、酒井宏一郎[3]、池田正明[1]、田中嘉代子[4]、山室　裕[5]、坂本　安[1]、北村邦男[1]、野村正彦[1]
([1]埼玉医大・第一生理、[2]神経内科、[4]中央電顕室、[3]金沢医大・神経内科、[5]日本大学・生物資源科学部・動物資源科学科)

<モデル動物>　1E26～1E35

26 [20] メタンフェタミン反復投与のラット脳シナプス蛋白質mRNAに及ぼす影響
……中原辰雄[2]、本藤久雄[1]、中村　薫[1]、堤　哲之[1]、橋本喜次郎[1]、河村幸佐[1]、松本　孝[1]、平野　誠[1]、内村英幸[1]
([1]国立肥前療養所・情動行動障害センター・臨床研究部・生化学研究室、[2]九州大学・理学部・化学教室)

27 [21] Methamphetamine投与によるcalmodulin mRNAの変化
……清水義雄、秋山一文、黒田重利
(岡山大学・医学部・神経精神医学教室)

注) [ ] 内数字：論文番号

28 [22] Cyclosporin A 投与によるラット iminodipropionitrile 誘発ジスキネジアの増悪と転写因子 AP-1, CREB の関与
……飯田享子、岩田恵美、西林佐紀子、浅沼幹人、近藤洋一、飯田基之、小川紀雄
(岡山大学・医学部・分子細胞医学研究施設・神経情報学部門)

29 [24] EL マウスの成長に伴う痙攣準備性の獲得と脳 mRNA 翻訳活性について
……中西亜紀[1]、撫井弘二[2]、黒田陽子[2]、古塚大介[2]、横谷 昇[2]、木岡哲郎[2]、山上 榮[1, 2]
([1]大阪市立大・医・老年科・神経内科、[2]神経精神科)

30 [25] ELマウス発作後の脳 glial fibrillary acidic protein (GFAP) の発現と GFAP および*c-fos* 発現への anisomycin の影響
……勝元栄一[1]、尾崎宜洋[1]、横谷 昇[2]、撫井弘二[1]、古塚大介[1]、山上 榮[1]
([1]大阪市立大学・医学部・神経精神医学教室、[2]同・附属刀根山結核研究所・分子制御部門)

31 [26] ELマウスに対するオピオイドκアゴニストの抗痙攣作用について
……甲斐利弘[1]、大西 博[2]、小出誠司[2]、片山雅文[2]、橋本博史[2]、中村嘉宏[2]、谷 宗英[2]、山上 榮[2]
([1]大阪市立総合医療センター、[2]大阪市立大学・医学部・神経精神医学教室)

32 [27] ペンチレンテトラゾール誘発痙攣によるマウス脳Ca^{2+}/calmodulin dependent protein kinase II 活性の変化
……古塚大介[1]、木岡哲郎[1]、勝元栄一[1]、横谷 昇[2]、尾崎宜洋[1]、撫井弘二[1]、中西亜紀[1]、山上 榮[1]
([1]大阪市立大学・医学部・神経精神医学教室、[2]医学部附属刀根山結核研究所)

33 [28] 6-hydroxydopamine 線条体内注入ラットの線条体と黒質における生化学的ならびに組織化学的な経時的変化
……松浦弘治、近藤洋一、Marvin Gómez-Vargas、小川紀雄
(岡山大学・神経情報学部門)

34 [29] 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) モデル (Mnd) マウス脊髄組織内の運動ニューロン変性に関連した酵素活性値の発育に伴う変動
……柴山健三[1]、藤田公和[1]、加藤寿章[1]、山内理充[1]、皿井正子[2]、入谷克己[1]、芳本信子[1]、高橋久英[3]、永田 豊[1]
([1]藤田保健衛生大学・医学部・生理、[2]リハビリテーション医学、[3]実験動物)

35 [31] 麻酔ラット後肢へのピンチ刺激による脳脊髄液中の神経化学物質濃度の変化の検討
……和田博夫[1]、井藤英喜[2]、佐藤昭夫[3]
([1]東京大・老年病学、[2]都老人医療センター、[3]都老人総合研究所)

<シグナル伝達> 1E36～1E40

36 [196] Dexamethasone による C6 細胞中のαB クリスタリンの誘導
……岡本慶子、伊東秀記、加藤兼房
(愛知県コロニー・研・生化)

37 [200] ラット大脳皮質におけるホスホリパーゼ C の多様性と調節機構
……宮本 篤、大鹿英世
(札幌医大・医・薬理)

注) [ ] 内数字：論文番号

38 [201] ニューロブラストーマ Cell Line におけるカルシウム結合タンパクの TNF-α による発現の調節
……山口知子[1]、神田尚俊[2]
([1]東京女子医大・生化学、[2]東京農工大・家畜解剖学)

39 [204] カテコールアミン代謝酵素阻害剤の脳内GTP cyclohydrolase I 活性に及ぼす影響
……坂本秀生[1]、藤田　興[1]、池亀　守[2]、葛谷博磁[1]
([1]藤田保健衛生大学・総医研・分子生物、
[2]藤田保健衛生大学短期大学・生体機能代行装置学)

40 [207] マウス神経芽細胞腫N1E-115におけるリポポリサッカライド刺激後のテトラヒドロビオプテリン生合成の変化について
……吉田　聡[1]、太田　明[2]、永津俊治[1,2]
([1]藤田保健衛生大学・総合医科学研究所・分子遺伝学研究部門II神経化学、
[2]難病治療共同研究部門)

<アルツハイマー病>　1E41～1E50

41 [51] アルツハイマー・βアミロイド蛋白質の GT1-7 細胞膜におけるイオンチャネル形成
……川原正博[1]、黒田洋一郎[1]、Nelson Arispe[2]、 Edwardo Rojas[2]
([1]東京都神経科学総合研究所・神経生化学、[2]米国・NIH・NIDDK)

42 [52] β-アミロイド蛋白脳室内持続的注入ラットの海馬 CA1 におけるニコチンに対する反応性および長期増強形成能の低下
……伊東亜紀雄[1]、赤池　忠[2]、曾我部正博[2]、新田淳美[3]、飯田竜一[1,4]、鍋島俊隆[1]
([1]名古屋大学・医学部・医療薬学・附属病院薬剤部、[2]第2生理、
[3]岐阜薬科大学・分子生物学、[4]日本生物化学センター)

43 [53] ヒト血小板においてアミロイドβ蛋白(Aβ)はホスホリパーゼC系を介して細胞内 Ca^{2+} を増加させる
……石川博基[1]、小澤寛樹[1]、齋藤利和[1]、山本　恵[1]、竹村晴夫[2]、井本憲志[2]、大鹿英世[2]、高畑直彦[1]
([1]札幌医科大学・医学部・神経精神医学講座、[2]薬理学講座)

44 [60] アルツハイマー病原因遺伝子プレセニリン1蛋白(PS-1)の同定
……宇佐美美穂子、佐原成彦、亀谷富由樹、大河内正康、山本明広、田中喜久子、森　啓
(東京都精神医学総合研究所・分子生物学研究部門)

45 [61] Presenilin 1 突然変異を持つ家族性アルツハイマー病患者の線維芽細胞の変化について
……工藤　喬、宮前康之、柏木雄次郎、森原剛史、武田雅俊
(大阪大学・医学部・精神医学教室)

46 [62] 複数のリン酸化依存性モノクローナル抗体を用いたアルツハイマー病脳中のリン酸化タウの定量
……以倉康充[1]、工藤　喬[1]、Inge Grundke-Iqbal[2]、Khalid Iqbal[2]、武田雅俊[1]
([1]大阪大学・医学部・精神医学教室、[2]New York State Institute for Basic Research in Developmental Disabilities)

47 [63] アルツハイマー病の診断マーカーとしての脳脊髄液中のタウ蛋白上昇について
……森原剛史、工藤　喬、以倉康充、柏木雄次郎、中村　祐、谷口典男、西村　健、武田雅俊
(大阪大学・医学部・精神医学教室)

注)[ ] 内数字：論文番号

48 [65] 脳血管性痴呆と孤発生 Alzheimer 病に関する遺伝子の多型分析
……武田良平[1]、溝渕睦彦[1]、中城有喜[2]、土居孝至[2]、田邉敬貴[1]
(1愛媛大学・医学部・神経精神医学教室、[2]松山記念病院)

49 [66] ラット培養中枢神経細胞に対するアポリポ蛋白 E の作用：アイソフォーム特異性の検討
……道川 誠、福山隆一、柳澤勝彦
(国立長寿医療研究センター・痴呆疾患研究部)

50 [68] アルツハイマー型痴呆脳におけるアデニル酸シクラーゼ I 型、II 型および V/VI 型の量的変化について
……山本 恵[1]、小澤寛樹[1]、八田慎一[2]、橋本恵理[1]、齋藤利和[3]、大鹿英世[2]、高畑直彦[1]
([1]札幌医科大学・神経精神講座、[2]同・薬理学講座、[3]同・医療学部作業療法学科)

<老化> 1E51～1E52

51 [46] 脳卒中易発性高血圧自然発症ラット (SHRSP) 大脳皮質における Ca^{2+} / Calmodulin 感受性アデニル酸シクラーゼ活性の変化
……八田慎一[1]、富樫廣子[2]、吉岡充弘[2]、斎藤秀哉[2]、斎藤利和[3]、大鹿英世[1]
([1]札幌医科大学・医学部・薬理講座、[3]保健医療学部・作業療法、
[2]北海道大学・医学部・薬理学第一講座)

52 [47] 2、3 の B型 MAO 阻害剤の慢性投与による老齢マウスの脳内の生化学的老化マーカーの変動
……江頭 亨、高山房子、山中康光
(大分医科大学・薬理学教室)

<細胞死> 1E53～1E63

53 [95] 中枢ニューロンアポトーシスにおける癌抑制遺伝子 *p53* の役割
……榎戸 靖[1]、荒木敏行[1]、稲村直子[1]、田中亀代次[2]、相澤慎一[3]、畠中 寛[1]
([1]大阪大・蛋白研、[2]大阪大・細工セ、[3]熊本大・医・遺伝発生医学研)

54 [97] 温熱刺激によるグリオーマ細胞周期の変化と p21Cdk インヒビターの発現
……布施孝久[1]、山田和雄[1]、浅井清文[2]、加藤泰治[1]、中西 真[3]
([1]名市大・医・脳外、[2]同・分子医学研・生体制御、[3]国立長寿研)

55 [98] プログラム神経細胞死における小胞体内ストレス蛋白質 BiP/GRP78 の発現
……田中秀逸、信川貴子、小池達郎
(北大院・理・行動知能学)

56 [103] ラット小脳外顆粒細胞のアポトーシスへの interleukin-1 β converting enzyme ファミリーの関与
……田中正彦[1]、澤田 誠[2]、三浦正幸[3]、丸野内 棣[1]
([1]藤田保健衛生大学・総合医科学研究所・応用細胞学研究部門、[2]病態生化学研究部門、
[3]筑波大学・基礎医学系・分子神経生物学)

57 [106] ベラトリジンによるアポトーシス及びネクローシス様細胞死の促進
……小田 毅[3]、二宮孝文[2]、田中秀逸[1]、小池達郎[1]
([1]北大院・理・行動知能学、[2]札幌医大・解剖学、[3]現 電力中研)

58 [108] 初代培養中脳ニューロン／グリアにおける 6-OHDA および H_2O_2 の毒性に対する BDNFの影響
……岩田恵美、浅沼幹人、西林佐紀子、近藤洋一、Marvin Gómez-Vargas、小川紀雄
(岡山大・医・分子細胞研・神経情報学部門)

注) [ ] 内数字：論文番号

59 [110] 海馬細胞培養系におけるグルタミン酸トランスポーター阻害剤の興奮毒性増強作用、及び、同条件下のラジカルスカベンジャーによる神経細胞保護効果
……氷見敏行、池田正行、室田誠逸
（東京医科歯科大学・大学院・細胞機能制御）

60 [111] 新規シグマ$_1$受容体アゴニストSA４５０３のラット初代培養神経細胞における低酸素／低グルコース毒性に対する保護作用
……中澤美奈子、松野　聖
（参天製薬・開発研究本部・薬理研究グループ）

61 [113] 培養アストロサイトにおける低温効果
……宮崎博文、中村洋一、司　秋生、片岡喜由
（愛媛大学・医学部・生理学教室第一）

62 [114] 培養ミクログリア活性化に対する低温効果：増殖および一酸化窒素・活性酸素産生の抑制
……司　秋生、中村洋一、片岡喜由
（愛媛大学・医学部・生理学教室第一）

63 [116] OK－MCs（OK－432－activated mononuclear cells）の抗脳腫瘍効果における Fas ligand / Fas 系の関与
……川口正二郎[1]、白石哲也[2]、戸田啓介[1]、田渕和雄[1]
（[1]佐賀医科大学・脳神経外科、[2]白石共立病院）

<細胞骨格タンパク質>　1E64～1E68

64 [188] 脱リン酸に伴う微小管結合蛋白タウの活性変化：重合核形成能の選択的低下
……藤村維子[1]、倉知　正[1]、田代英夫[1]、小宮義璋[2]、田代朋子[2]
（[1]理研・フォトダイナミクス、[2]群馬大・医・分子病態）

65 [189] 微小管結合蛋白質 MAP1B (microtubule-associated protein 1B) の *in vivo* でのリン酸化とその発生段階での変化
……山内英美子[1]、村本和世[2]、黒田洋一郎[2]、谷口寿章[1]
（[1]藤田保健衛生大学・総合医科学研究所・医高分子、[2]東京都神経研・神経生化）

66 [191] 末梢神経軸索の可溶性ニューロフィラメント・Hサブユニット
……津田守弘[1,2]、田代朋子[1]、小宮義璋[1]
（[1]群馬大・医・分子病態、[2]同・口腔外科）

67 [193] Effects of Ginkgo biloba extract (Gbe) on axonal transport of sciatic nerve in diabetic rats with reference to pathological alteration
……金　振萬、荒記俊一、横山和仁
（東京大学・医学部・公衆衛生学教室）

68 [194] IDPN による軸索腫大におけるキネシンの集積
……豊島　至、加藤一麿、菅原正伯、和田千鶴、正宗　研
（秋田大学・医学部・第一内科）

<神経活動と遺伝子発現>　1E69～1E71

69 [219] 脳の発達に伴うニューレキシンのスプライシングパターン変化の解析
……野村隆則、吉田　明、吉岡　亨
（早稲田大学・人科・分子神経生物）

注）[　] 内数字：論文番号

70 [220] ヒト necdin ゲノム遺伝子の構造解析

……中田祐二、谷浦秀夫、植月太一、吉川和明
(大阪大学・蛋白質研究所・蛋白質機能制御部門)

71 [221] ヒト脳に存在する Hippocalcin 類似蛋白質 (hHLP3) の cDNA クローニング

……小林正明、斎藤茂治、野口鉄也、高松 研
(東邦大学・医学部・第2生理)

注) [ ] 内数字：論文番号

ポスター

2E1~2E62　10月4日（金）　E会場

<転写因子>　2E1～2E3

1　[223]　マウスType 1 inositol 1, 4, 5 - triphosphate receptor (IP_3R1) の発現に関与する脳特異的 bHLH 蛋白質の解析
……小西慶幸[1]、小林恭士[1]、牧野泰孝[1]、古市貞一[2]、御子柴克彦[2]、田村隆明[1]
([1]千葉大学・理・生物、[2]東京大学・医科研・化学)

2　[225]　異なるプロテインモチーフを持つ転写制御因子間におけるクロストークの可能性
……東　泰孝、荻田喜代一、米田幸雄
(摂南大・薬・薬理)

3　[227]　γ-ヒドロキシ酪酸によるマウス小脳顆粒細胞初代培養系の CREB リン酸化におけるカルモジュリンキナーゼIIの役割
……石毛久美子、伊藤芳久、福田英臣
(日本大・薬・薬理)

<脳タンパク質>　2E4～2E5

4　[212]　質量分析法による小脳2次元電気泳動マップ上のスポットの翻訳後修飾の解析
……中山　洋[1]、内田和久[1,2]、田岡万悟[1]、金井みち子[3]、瀬田和夫[3]、礒辺俊明[1]
([1]東京都立大学・理学部、[2]協和発酵東京研究所、[3]フィニガンMAT)

5　[213]　Putative HLA-DR Associated Proteins (PHAP I and PHAP II) の結合蛋白質の探索
……立野　慶、田中隆佳，荻原民雄、竹田二美代、竹田　稔
(昭和大学・医・第一生化学)

<NO と NO 合成酵素>　2E6～2E13

6　[164]　培養小脳顆粒細胞の発達に伴う一酸化窒素合成酵素の発現
……井上順雄、曽我智子、中山　孝、加藤尚彦
(横浜市立大学・医学部・第一生化学)

7　[165]　エタノールは NOS ニューロンによるNO産生に影響しない
……池田正行[1]、小宮山徳太郎[2]、佐藤郁子[1]、氷見敏行[1]、室田誠逸[1]
([1]東京医科歯科大学大学院・細胞機能、[2]国立精神神経センター・武蔵病院)

8　[168]　オリゴデンドロサイトにおける一酸化窒素依存性の cGMP 産生
……田中潤也[1]、Marjanne Markerink-van Ittersum[2]、H. W. M. Steinbusch[2]、Jan de Vente[2]
([1]愛媛大学・医学部・第二生理学、[2]European Graduate School for Neuroscience, Univ. of Maastricht, Dept. of Psychiatry and Neuropsychology)

9　[169]　カイニン酸誘発けいれん時のラット海馬における一酸化窒素（NO）の放出
……柏原健一[1]、坂井研一[1]、庄盛敏廉[1]、秋山一文[2]
([1]岡山大学・神経内科、[2]神経精神科)

注）[　] 内数字：論文番号

10 [171] 鉄イオンによる神経細胞障害とNO関連薬物の効果
……今野大三、奈良圭之輔、大野 稔、山崎由香子、木内祐二、小口勝司
(昭和大・医・第一薬理)

11 [174] ムスカリン性アセチルコリンレセプター結合能に対するNOラジカルの影響
……Marvin Gómez-Vargas、西林佐紀子、浅沼幹人、岩田恵美、近藤洋一、小川紀雄
(岡山大学・医学部・分子細胞医学研究施設・神経情報学部門)

12 [175] Dopamine agonist のNOラジカル消去能
……西林佐紀子[1]、浅沼幹人[1]、河野雅弘[2]、近藤洋一[1]、岩田恵美[1]、Marvin Gómez-Vargas[1]、小川紀雄[1]
([1]岡山大学・医学部・分子細胞医学研究施設・神経情報学部門、[2]日本電子株式会社)

13 [176] カルバコール刺激依存性抗酸化酵素活性変動に対する一酸化窒素の関与とその細胞局在
……山内理充[1]、安藤正人[2]、藤田公和[1]、柴山健三[1]、芳本信子[1]、永田 豊[1]
([1]藤田保健衛生大学・医・生理、[2]愛知学泉大学・解剖・生理)

<グリア細胞> 2E14～2E23

14 [81] グリア細胞の分化に関与するsubstance P受容体の発現と機能
……武田泰生[1]、野津智美[1]、川野 仁[2]、川村光毅[2]、阿相皓晃[3]、植村慶一[1]
([1]慶應義塾大学・医学部・生理、[2]解剖、[3]東京都老人研・細胞生物)

15 [82] 損傷モデルにおけるO-2A progenitor cell から type 2 astrocyte への分化について
……村上健一[1,2]、阿相皓晃[3]、河瀬 斌[2]、植村慶一[1]
([1]慶應義塾大学・医学部・生理、[2]同・脳神経外科、[3]東京都老人研・細胞生物)

16 [83] ミエリンプロテオリピド蛋白質断片はオリゴデンドロサイトの分化を促進する
……山田真久、Anna Ivanova、山口宜秀、池中一裕
(岡崎国立共同研究機構・生理学研究所・神経情報部門)

17 [84] 末梢神経系神経細胞に発現するglial growth factor の新しいアイソフォームの同定
……篠田 純[1]、中尾純治[1]、矢崎貴仁[1]、河瀬 斌[2]、植村慶一[1]
([1]慶應義塾大学・医学部・生理学教室、[2]脳神経外科)

18 [86] ウシ脳毛細血管内皮細胞のimmortalization - In vitro 血液脳関門モデルへの適用をめざして-
……祖父江和哉[1]、小谷野貴文[2]、大橋章雄[2]、鶴岡伸夫[3]、森川将行[4]、浅井清文[5]、加藤泰治[5]
([1]名市大・医・麻酔蘇生学、[2]同・薬・製剤、[5]同・医・分子医研・生体制御、[3]サントリー・生物医研、[4]奈良県医大・精神医学)

19 [87] Neuron-astrocyte 共培養系での Neuronal Ca^{2+} oscillation に対する gap-junction 阻害剤の効果
……藤田佳織[1]、中西圭子[2]、植木孝俊[3]、浅井清文[1]、加藤泰治[1]
([1]名市大・医・分子医研・生体制御、[2]愛知県コロニー・生理、[3]国立精神神経センター・代謝部門)

20 [90] 初代培養オリゴデンドロサイトのミエリン関連糖タンパク質(MAG)の発現に対するニューロンの役割
……松田義宏、小糸寿美、山元 弘
(国立精神・神経センター・神経研・免疫)

注) [ ] 内数字：論文番号

21 [91] 末梢神経ミエリンP２蛋白の脂質結合能に関する検討
……坂本 安[1]、北村邦男[1]、吉村和法[1]、長島直美[2]、竹原直美[2]、野村正彦[1]
([1]埼玉医科大学・第一生理、[2]中央測定室)

22 [92] ミエリンタンパクの分子進化
……栗原 正[1]、吉田弘美[1]、佐久間充弘[1]、小嶋久子[2]、玉井洋一[2]
([1]創価大・生命研・神経化学、[2]北里大・医・生化学)

23 [93] ニワトリおよびウシガエル 2', 3' - 環状ヌクレオチド 3' -フォスフォジエステラーゼの cDNA クローニング
……吉田弘美[1]、栗原 正[1]、佐久間充弘[1]、遠山陽子[1]、小嶋久子[2]、玉井洋一[2]
([1]創価大・生命研・神経化学、[2]北里大・医・生化学)

<神経伝達物質受容体> 2E24～2E32

24 [149] ムスカリン性アセチルコリン受容体のサブタイプ特異的発現に関与する分化誘導因子
……深間内文彦、王 益珺、俣賀宣子
(東京医歯大・難研・プロジェクト)

25 [151] PC12D 細胞におけるムスカリン性アセチルコリン受容体 (mAChR) によるCa^{2+} 流入調節
……海老原達彦、David Saffen
(東京大学・医学部・脳研究施設・生化学部門)

26 [152] ムスカリン性アセチルコリン受容体の細胞内移行
……津賀浩史[1,2]、本間健資[1]、奥野恵理子[2]、亀山仁彦[2]、芳賀達也[2]
([1]労働省産業医学総合研究所・職業病研究部、
[2]東京大学・医学部・脳研究施設・脳生化学部門)

27 [153] G タンパク質共役受容体キナーゼのカルモジュリンと S100 タンパク質による Ca^{2+} 依存性阻害
……芳賀和子、芳賀達也
(東京大学・医学部・脳研究施設・生化学部門)

28 [154] 脳における G 蛋白質γサブユニットγ3とγ12の局在と加齢による濃度変化
……森下理香[1]、佐賀信介[2]、稲垣俊明[3]、加藤兼房[1]、浅野富子[1]
([1]愛知県コロニー・研・生化、[2]形態、[3]名古屋市厚生院)

29 [156] ホスファターゼインヒビター DARPP -32によるドーパミンD２受容体細胞内移行の促進
……伊藤和光、芳賀達也
(東京大学・医学部・脳研究施設・生化学部門)

30 [158] ドパミン作用薬の D2 受容体ファミリーに及ぼす作用の検討
……日高和幸、多田祥子、松本光之、山口時男
(山之内製薬株式会社・創薬研究本部)

31 [159] グルココルチコイドによるラット大脳皮質アストロサイト セロトニン７受容体発現の低下
……清水雅美[1]、西田 朗[1]、前正秀宣[1,2]、山脇成人[2]
([1]国立呉病院・臨床研究部、[2]広島大・神経精神)

32 [161] 初代培養神経細胞におけるσ-1受容体を介したσリガンドの細胞内移行
……山本秀子[1]、中里篤郎[2]、鷲 直樹[1]、山本敏文[1,3]、茶木茂之[2]、奥山 茂[2]
([1]東京都精神研・精神薬理、[2]大正製薬創薬研・創薬第一研、[3]横浜市大・総合理学)

注) [ ] 内数字：論文番号

<神経伝達物質放出> 2E33～2E37

33 [142] クロマフィン細胞の開口放出素過程と SNAP-25 / VAMP-2複合体
……御園生裕明[1]、西木禎一[2]、関口真理子[2]、高橋正身[2]、鎌田洋一[3]、小崎俊司[3]、今泉美佳[1]、熊倉鴻之助[1]
([1]上智大学・生命科学研究所・神経化学、[2]三菱化学生命科学研究所、[3]大阪府立大学・農学部・獣医学科)

34 [144] 開口放出機構におけるアクチン・ネットワークとアクチン-ミオシン相互作用の役割
……村上 猛、今泉美佳、御園生裕明、川崎雅一、若井 豪、熊倉鴻之助
(上智大学・生命科学研究所・神経化学部門)

35 [145] Proline Directed Protein Kinase によるシナプシンIのリン酸化とその生理的機能に及ぼす影響
……松原 守[1]、楠畑 雅[2]、千谷晃一[1]、谷口寿章[1]
([1]藤田保健衛生大・総医研・医高分子、[2]現、ニッピバイオマトリックス研究所)

36 [146] ラット線条体における Dopamine 遊離に対する N タイプおよび P/Q タイプ電位依存型 Ca^{2+} channel の関与
……小笹貴史、西沢幸夫
(エーザイ株式会社・筑波研究所)

37 [148] ラット海馬細胞外液中のGABA濃度測定 - 興奮性アミノ酸によるGABA遊離作用
……菅原 恵[1]、芝軒信次[1]、秦 英代[2]、石川紘一[1]
([1]日本大学・医学部・薬理、[2]民生科学協会・総合研)

<形態形成と遺伝子> 2E38～2E40

38 [231] 神経回路形成期初期の脳に一過性に発現する新規遺伝子の探索
……佐久間充弘、吉田弘美、服部和枝、栗原 正
(創価大・生命研・神経化学)

39 [235] LIM／ホメオドメイン転写因子 LH-2A, B と前脳の領域特異化
……坪川達也、植村慶一、岡本 仁
(慶応義塾大学・医学部・生理学教室)

40 [236] ニワトリ胚運動ニューロンの特異的筋肉支配に関わる candidate 遺伝子の単離と発現解析
……調 恒明[1]、木村芳滋[2]、松尾哲孝[1]、竹下正純[1]、田中英明[2]
([1]大分医大・生化、[2]熊大・医・神経分化)

<脳虚血> 2E41～2E47

41 [33] ラット海馬遅発性神経細胞死における Bcl－2 関連遺伝子産物の関与
……白石哲也[1]、川口正二郎[2]、戸田啓介[2]、田渕和雄[2]、大川 功[3]、尾崎 覚[3]、田島鉄弥[3]
([1]白石共立病院・脳神経外科、[2]佐賀医科大学・脳神経外科、[3]エーザイ株式会社薬物応用研究部薬物評価室)

42 [36] 一過性脳虚血後の海馬神経細胞におけるドレブリンの変化
……猿木信裕[1]、関野祐子[2]、白尾智明[2]
([1]群馬大学医学部・麻酔蘇生学、[2]行動分析学)

注) [ ] 内数字：論文番号

43 [38] 脳虚血後の神経細胞障害に伴う鉄処理システムの活性化
……石丸裕久[1]、石川巧一[2]、大江良秀[2]、高橋 章[1]、丸山悠司[1]
([1]群馬大学・医学部・神経精神薬理ツムラ、[2]群馬大学生体調節研・分子調節)

44 [39] ラット中大脳動脈閉塞モデルにおける海馬特異的セリンプロテアーゼ (neuropsin) mRNAの発現変化について
……真砂敦夫、山田和雄、岩田 明
(名古屋市立大学・医学部・脳神経外科)

45 [41] 新規脳血管障害急性期／頭部外傷治療薬 TAK－218 の中枢神経におけるナトリウムイオン流入抑制作用
……上田康子、岩間斗史、橋本忠俊、深津考司、大川滋紀、永井康雄
(武田薬品工業株式会社・創薬第一研究所)

46 [42] 新規脳血管障害急性期／頭部外傷治療薬 TAK－218 のドーパミン異常遊離抑制作用の作用機序
……白崎仁美[1]、栗原悦雄[2]、岩間斗史[1]、深津考司[1]、大川滋紀[1]、永井康雄[1]、橋本忠俊[1]
([1]武田薬品工業(株)・創薬第一研究所、[2]経営企画部)

47 [44] 虚血脳と非虚血脳における低酸素の影響
……宮本 修[1,2]、板野俊文[1]、根木哲朗[2]、畠瀬 修[3]、岡田泰志[4]、村上哲英[5]、Roland N. Auer[6]
([1]香川医科大学・生物学、[2]基礎スポーツ医学、[3]生理学、[4]香川大学・保健体育、[5]倉敷芸術科学大学・生理学、[6]カルガリー大学・病理学)

<グルコース代謝> 2E48～2E49

48 [208] アストロサイトのグルコース代謝に及ぼすインスリンとグルタミン酸の調節作用
……浜井盟子、箕越靖彦、嶋津 孝
(愛媛大学・医・医化学第一)

49 [209] 視床下部腹内側核－交感神経系による肝グリコーゲンの分解とグルコースの生成：in vivo microdialysis による検討
……高橋 章、石丸裕久、五十嵐 康、岸 栄子、丸山悠司
(群馬大学・医学部・神経精神薬理学（ツムラ）)

<行動> 2E50～2E52

50 [1] 制限給餌後のラットの rebound hyperphagia に閉所条件を加えた時の摂餌行動と扁桃体ドパミン・セロトニン代謝
……井上幸紀[1]、切池信夫[1]、栗岡政典[1]、岩崎進一[1]、藤嵜泰利[1,2]、山上 榮[1]
([1]大阪市立大・医・神経精神医学教室、[2]吉村病院)

51 [2] ラットの rebound hyperphagia に閉所ストレスを加えた時の摂餌行動と線条体ドパミン代謝とそれに及ぼすハロペリドールの影響
……栗岡政典[1]、切池信夫[1]、井上幸紀[1]、藤嵜泰利[1,2]、岩崎進一[1]、山上 榮[1]
([1]大阪市立大・医・神経精神医学教室、[2]吉村病院)

52 [3] 側坐核ドーパミンニューロン 破壊はモティベーション を低下させるか？ I. 塁進比率強化スケジュールによる検討
……堀 耕治、田中健一、和田尚子、野村正彦
(埼玉医大・第一生理)

注）[ ] 内数字：論文番号

<成長円錐> 2E53～2E62

53 [177] 新規な成長円錐蛋白質の解析
……阿部貴子[1]、田中洋史[1]、山国 徹[2]、桑野良三[1]
([1]新潟大学・遺伝子実験施設、[2]三菱化学生命科学研究所・脳神経科学部)

54 [178] ラット脳由来非イオン性界面活性剤不溶性低比重画分中のタンパクの解析
……熊ノ郷晴子、前川昌平
(京都工芸繊維大学・繊維学部・応用生物学科)

55 [179] ヒト神経芽細胞腫IMR32細胞の神経突起伸長に伴う膜タンパク質の変動とリン酸化
……石岡憲昭[1]、久原映子[1]、小暮太郎[1,2]
([1]慈恵医大・DNA医研・分子細胞生物、[2]脳神経外科)

56 [181] Eph 受容体型チロシンキナーゼ Cek8 とリガンド ELF-1, RAGS による運動ニューロン神経突起成長阻害
……太田訓正、岩政浩子、田中英明
(熊本大学・医学研究科・神経分化学)

57 [182] ニワトリ視蓋反発因子の細胞内情報伝達機構の解析
……中山 孝[1]、五嶋良郎[2]、加藤尚彦[1]、三須良實[2]
([1]横浜市立大学・医学部・第一生化学講座、[2]薬理学講座)

58 [183] 成長円錐における L 型及び N 型カルシウムチャネル
……大林克巳[1,2]、福良治彦[1]、井上 洋[2]、小宮義璋[1]、五十嵐道弘[1]
([1]群馬大・医・分子病態学教室、[2]脳神経外科学教室)

59 [184] 成長円錐における $GABA_A$ 受容体を介する情報伝達系
……福良治彦[1,2]、五十嵐道弘[1]、小宮義璋[1]
([1]群馬大学・医学部・分子病態学教室、[2]麻酔・蘇生学教室)

60 [185] 成長円錐における SNARE 複合体の性質
……五十嵐道弘、小宮義璋
(群馬大・医・分子病態学)

61 [186] 小脳求心性投射形成の初期過程 － 一次前庭神経の伸長路選択と標的認識 －
……遠藤利朗、白崎竜一、村上富士夫
(大阪大学・基礎工学部・生物工学科)

62 [187] ニワトリ網膜の発生・分化における細胞接着因子 Gicerin の発現
……李 炳生、平 英一、樋口宗史、三木直正
(大阪大学・医学部・第一薬理)

注) [ ] 内数字：論文番号

神経化学の将来を語る	10月2日　18:30～20:00	シンポジア ラウンジ（73頁参照）
評議員会・総会	10月3日　13:30～15:00	C会場

［議題］

1. 理事長報告
2. 庶務報告
3. 出版広報報告
4. 各委員会報告
5. 平成7年度決算の件
6. 平成9年度予算の件
7. プログラム編成報告
8. 評議員選任の件
9. 名誉会員推薦の件
10. 理事改選の件
11. 次期学会世話人及び開催地の件
12. その他

懇　親　会	10月3日　18:00～20:30	中華街 華正楼 新館

注）［　］内数字：論文番号

将来計画委員会報告

委員長 小宮 義璋
(群馬大学医学部分子病態)

第２回の委員会を下記のごとく開催致しました。

日時 平成８年３月２９日（金）
午後３：００～５：００

場所 八重洲龍名館
東京都中央区八重洲１－３－22

議題 １．シンポジウム「神経難病・精神疾患とその分子基盤（仮題）」開催とそのシリーズ化について
２．日本神経化学会と日本神経科学学会との大会共催とその将来像について
３．委員会構成メンバーについて
４．その他

またこの委員会に先立ち午後2:00～3:00に実行委員による会合が持たれました。

当日は片岡先生（第４０回大会世話人代表）を含み１７人の委員の方々にお集り頂きました。会場の都合で討論時間を延長することが出来ず、予定した議題の全てについて充分な議論を行うことが出来ず、主として本委員会が企画・実行するシンポジウムについてご討論をお願いいたしました。その結果、

１．特別シンポジウムとしてこれ迄のシンポジウムとは区別し、学会会員以外の方にもシンポジストとして参加をお願いする。

２．シリーズとして何回か続けたい。

３．学会会員以外にもオープンにして、自由に聴衆として参加できるかたちにしたい。

４．そのための企画委員会を特別に設けた方がよいが、当分の間は現実行委員の方々がお世話する。

等のことを決定いたしました。

予定されていたそれ以外の議題につきましては時間の関係で殆ど討論できず、今後の検討課題としたいと考えております。

尚、臨床系の先生方に委員としてご参加頂く件につきましては、理事長から提案されておりました北海道大学医学部精神医学・小山 司先生に次回の委員会からご参加をお願いすることが本委員会で認められました。

また第４０回大会の際に開催が予定されておりますテクニカルセミナーについて、世話人代表の片岡先生からご説明がありました。

次回の委員会は、横浜の第３９回大会の時に行う予定にしておりますが、できれば会員の皆様にも討論にご参加頂ける形にしたいと考え、現在準備を進めております。

「シンポジウム」に関する具体的な計画については実行委員の一人である佐野 輝（愛媛大学医学部神経精神医学）先生から、「神経化学会の将来を語る会」については、やはり実行委員の池中一裕（生理学研究所）先生から報告があります。

また前号でも予告致しました、かつての学会運営検討委員会（通称加藤委員会）の活動経過に関する記録についても別に掲載される予定です。

（平成８年６月２６日 記）

[redacted]

千里ライフサイエンスセミナー

「遺伝子診療」

日　時　平成８年９月６日（金）午前10時～午後５時

場　所　千里ライフサイエンスセンタービル５階ライフホール

（地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ）

（大阪府豊中市新千里東町１－４－２）

主　催　財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協　賛　株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネーター　大阪府立成人病センター総長　豊島久真男

京都大学医学部教授　森　徹

プログラム

１．遺伝子治療の現状と今後の展望

１）アデノシンデアミナーゼ欠損症における遺伝子治療

北海道大学医学部助教授　崎山　幸雄

２）遺伝子治療に関する諸問題

a)アデノ随伴ウイルス（ＡＡＶ）ベクターの可能性

自治医科大学教授　小澤　敬也

b)遺伝子治療におけるリポフェクションの開発と応用

大阪大学細胞生体工学センター助教授　金田　安史

２．遺伝子診断の現状と今後の展望

１）免疫関連疾患と遺伝子診断

九州大学生体防御医学研究所教授　笹月　健彦

２）がんの遺伝子診断；現状と展望

東京大学医科学研究所教授　中村　祐輔

３．遺伝子診療を適切に進める社会　生命誌研究館副館長　中村　桂子

４．遺伝子診断体制はどうあるべきか　京都大学医学部教授　森　徹

参加申込方法　①氏名　②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、FAX番号を明記の上、郵便またはＦＡＸで下記宛にお申し込み下さい。参加費は申込後に大和銀行千里中央支店普通預金**No.4601085**・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛にお振込下さい。なお振込の際、振込者名の前に**Ｋ１**とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付致します。

申込先（財）千里ライフサイエンス振興財団 セミナー係

〒565 大阪府豊中市新千里東１－４－２

千里ライフサイエンスセンタービル８階

TEL.(06)873-2001, FAX.06-873-2002　担当：桜井・林

[redacted]

千里ライフサイエンスセミナー
ブレインサイエンスシリーズ 第９回
「脳の接着因子ー基礎と病態ー」

日 時 平成８年10月９日（水）午前10時～午後５時

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル５階ライフホール
（地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ）
（大阪府豊中市新千里東町１－４－２）

主 催 財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネーター 大阪大学医学部 遠山 正彌

プログラム

１．はじめに （大阪大・医）遠山 正彌
２．カドヘリンによる神経回路の区画化 （京都大大学院・理）竹市 雅俊
３．終脳特異的細胞接着分子テレンセファリンの構造と機能 （大阪医大）吉原 良浩
４．神経細胞接着分子コンタクチンの機能とその細胞内シグナル伝達系 （奈良先端大）武内 恒成
５．細胞接着分子Ｌ１の構造と機能の解析 （慶応大・医）武田 泰生
６．ロイシン・リッチ・リピート・ファミリーの脳における発現 （大阪大・医）高木 勉
７．脳腫瘍の進展におけるインテグリンの関与 （大阪大・医）松浦 成昭
８．おわりに （大阪大・医）遠山 正彌

受講料（講演要旨集含む） 会員（大学、官公庁、主催・協賛団体会員）：6,000円
非会員：8,000円
学生：3,000円

定員 ３００名

参加申込方法 ①氏名 ②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、FAX番号を明記の上、郵便またはＦＡＸで下記宛にお申し込み下さい。受講料は申込後に住友銀行千里中央支店普通預金**No.128278**・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込下さい。なお振込の際、振込者名の前にＢ９とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付致します。

申込先（財）千里ライフサイエンス振興財団 セミナー係
〒565 大阪府豊中市新千里東１－４－２
千里ライフサイエンスセンタービル８階
TEL.(06)873-2001, FAX.06-873-2002

1996-1997 International Neuroscience-Neurochemistry Meeting Calendar

Date & Place

Title of Meeting

Correspondence to:

Tel: Fax: E-mail:

October 12-15, 1996, Little Rock, AR, USA

Fourteenth International Neurotoxicology Conference.

Prof. Joan Cranmer, Dept. of Pediatrics #512, Univ. of Arkansas for Med. Sci. 4301 W. Markham, Little Rock, AR 72205
Tel: 501-320-2986. Fax: 501-320-4978

October 14, 1996, Paris, France

Normal and Abnormal Development of the Cortex.

Jacqueline Mervaillie, Fondation IPSEN, 24, rue Erlanger, 75016 Paris, France
Tel: 33.1.44.96.10.99 Fax: 33.1.44.96.11.99.

October 31-November 6, 1996, Lake Tahoe, CA

Genetic, Molecular, and Structural Control of Signal Transduction.

Cambridge Symposia, 1037 Chestnut St., Newton Upper Falls, MA 02164
Tel: 617-630-1399 Fax: 617-630-1395 E-mail: symposia@cambridge.org.
WWW: http://www.cambridge.org/symposia/.

November 12-15, 1996, Vienna (Tyson's Corner), VA

7th Symposium on Subtypes of Muscarinic Receptors: Medicinal Chemistry, Molecular Pharmacology and Physiology, Clinical and Therapeutic Developments

Ruth R. Levine, Boston University School of Medicine, 80 East Concord St., Boston, MA 02118
Tel: 617-638-5123 Fax: 617-638-4842

December 7-11, 1996, San Francisco, California, USA

6th International Congress on Cell Biology/36th ASCB Annual Meeting.

Congress Secretariat: 9650 Rockville Pike, Bethesda, MD 20814-3992
Tel: 301-530-7153 Fax: 301-530-7139 E-mail: ascbinfo@ns1.faseb.org

February 22-March 1, 1997, St. Lucia, Caribbean

Ninth Annual Meeting of the Winter Conference on Neural Plasticity.

Ted L. Petit, Dept. of Psychology, Univ. of Toronto, 1265 Military Trail, Scarborough, Ont. M1C 1A4, Canada.
Tel: Fax: (416) 287-7642 E-mail: WCNP@lake.scar.utoronto.ca

February 23-28, 1997, Ochos Rios, Jamaica

Neurodegenerative Disorders: Common Molecular Mechanisms.

Robert P. Friedland, M.D., Case Western Reserve Univ., Dept. of Neurology, 10900 Euclid Ave., Cleveland, OH 44106-4938

Tel: 216-368-1912 Fax: 216-368-1989 E-mail: rpf2@po.cwru.edu

July 7 - 12, 1997 San Diego California

International Symposium on Olfaction and Taste XII and Achems XIX

Claire Murphy, Ph.D. Chairperson, ISOT XII,

College of Sciences 6363 Alvarado Ct., Suite 101, San Diego, CA 92120-4913

Tel: 619-594-4559 Fax: 619-594-3773 E-mail: cmurphy@sunstroke.sdsu.edu

September 14-19, 1997, Cairns, Australia

The Inaugural Congress of the recently formed International Society for Autonomic Neuroscience

Dr. Joel Bornstein, Dept. of Physiology, Univ. of Melbourne, Victoria, Australia

Tel: Fax: +61-3-9344-5818 E-mail joel@plexus.physiol.unimelb.edu.au

WWW: http://plexus.physiol.unimelb.edu.au/isan/isan.htm.

ここに載せていない学会等について情報をお持ちの方は、編集部までお知らせください。また最近では、インターネットを通じて海外の生物科学関係の学会の案内が得られるようになってきています。以下に役立つと思われるWWWサイトをいくつかあげておきます。

http://golgi.harvard.edu/biopages/all.html
(The World-Wide Web Virtual Library 生物科学一般)
http://neuro.med.cornell.edu/VL/
(The World-Wide Web Virtual Library 神経科学関係)
http://ivory.lm.com/~nab/
(Neurosciences on the Internet)
http://www.sfn.org/
(米国神経科学会)
http://www.informatik.uni-rostock.de/HUM-MOLGEN/anno/meetings.html
(HUM-MOLGEN 編集によるライフサイエンス関連学会の一覧)
http://www.cshl.org/meetings/
(コールドスプリングハーバーシンポジウム関係)
http://www.nature.com
(Nature 誌関係の情報一覧)
http://sci.aaas.org/nextwave/
(Science 誌の発行母体)
http://hackberry.chem.niu.edu:70/1/ConferenceListings/GordonConferences
(Gordon Conference の案内)

他にも役に立つサイトが多く存在すると思われるので、御存知の方は編集部までお知らせください。

資　料

学会運営検討委員会

（通称　加藤委員会）

活動報告

（昭和５６年～５９年）

○昭和５６年度第１回理事会
と　き：昭和５６年２月７日
ところ：慶応義塾大学医学部生理学教室
会議室
出席者：塚田裕三，黒川正則，加藤尚彦
宮本英七，柿本泰男，高垣玄吉郎
植村慶一，永津俊治，早石　修
垣内史朗，高橋　良，大月三郎
欠席者：な　し

10）学会運営検討委員会の設置の件
学会運営検討委員会を設置し，発足されることに決定した。
但し本委員会は今期理事会に付置する諮問委員会とすることとした。
委員長：加藤尚彦（東大・医・脳研）
委員の選定は委員長一任とし理事会の承認を受けるものとした。尚理事会はこの委員会に理事１名を入れることを条件し高垣理事を推薦した。

○昭和５６年度第２回理事会
と　き：昭和５６年１０月３日（土）
ところ：日本都市センター会議室
出席者
理事：塚田裕三，黒川正則，加藤尚彦
宮本英七，柿本泰男，高垣玄吉郎
植村慶一，永津俊治，早石　修
垣内史朗，高橋　良，大月三郎
吉田　博
監事：平野修助，高坂睦年
欠席者：佐武　明，栗山欣弥

4）学会運営検討委員会報告
加藤尚彦委員長より学会運営検討委員会構成委員が示めされ，これを承認した。
学会運営検討委員会委員
阿部　輝雄（新大・医・脳研）
内村　英幸（国立肥前療養所）
小川　紀雄（岡山大・医・脳研）
委員長 加藤　尚彦（東大・医・脳研）
黒田洋一郎（都神経科学総合研）
幹事　高垣玄吉郎（都神経科学総合研）
芳賀　達也（浜松医大・生化）
松田　友宏（名市大・医・薬理）
三木　直正（金沢大・がん研）
御子柴克彦（慶大・医・生理）
三宅　正治（愛媛大・医・精神）
宮本　英七（熊本大・医・薬理）
森　浩一（阪市大・医・神経精神）

昭和５６年度総会
と　き：昭和５６年１１月２７日（金）
ところ：ＮＢＣホテル
議　長：高橋　良

3）各種委員会報告
ii）学会運営検討委員会
加藤尚彦委員長より活動状況につき報告があった。

学会運営検討委員会の成立とその活動

東京大学医学部脳研究所
加藤　尚彦

1. 成立までの経過

近年の神経科学の目ざましい発展を反映して，１９７５年以降我々の学会も内容，規模ともに急激な発展を続けている（4.資料参照）。そのため従来の学会運営法では現実に則応しきれない点が見られ，数年来改革を望む声が高く聞かれるようになって来た。そこでこれらの意見について議論する場として，１９８０年松山学会で，“神経化学の将来を語る”と題する学会員による集会（１１月１４日，世話人：加藤尚彦，小宮義璋，黒田洋一郎，笠井久隆）が持たれることになった。

その集会で約１２０～１３０人ほどの参加者から率直な意見が述べられ，(1) 我々の分野をよく理解する審査員が審査を受持つ，我々自身の科学研究費の応募細目の設置が望まれること，(2) 本学会の運営法（演題応募規定，審査制度，抄録集の形式，毎年の学会の発表様式，等）の問題点　などがとり上げられた。(1)の問題を検討するための機関として

“科学研究費調査委員会”（別項，同委員会報告参照），(2)の問題点の改善を目指すものとして，“学会運営検討委員会”が設置されることとなった。

2. 学会運営検討委員会の発足

今年度の新理事選挙の結果，１９８１年２月７日に第１回の理事会が開かれ，その場で下記のメンバーによる委員会が承認され発足した。

委員長　加藤　尚彦（東大医・脳研）
副委員長　宮本　英七（熊大医・薬理）
（同）　高垣玄吉郎（東京都神経研）
阿部　輝雄（新潟大医・脳研）
内村　英幸（国立肥前療養所）
小川　紀雄（岡山大医・脳研）
黒田洋一郎（東京都神経研）
芳賀　達也（浜松医大・生化）
松田　友宏（名市大医・薬理）
三木　直正（金沢大・癌研薬理）
御子柴克彦（慶大医・生理）
三宅　正治（愛媛大医・精神）
森　浩一（大阪市大医・精神）

3. 第１回委員会

上記委員（芳賀・松田氏欠席）と，科学研究費調査委員全員（佐武，笠井，加藤，小宮，熊倉，高坂：オブザーバーとして出席）による，第１回合同委員会が，１９８１年度長崎学会において１１月２６日に開かれ，活発な討論が行われた。その結果は同日夜の理事会で報告され，現在明年度の学会から改善案が実施されるように具体的な理事会に対する答申案のとりまとめが行われつつある。次に討論の荒筋を報告する。

(1) 学会発表論文の審査制度

学会発足当時（１９５８年）に比し，学問的レベルは格段に向上しており，現在の制度では審査に不適な場合が見られる。毎年応募演題の約１０％を不適格と判定するために，多くの費用をかけるのは効率が悪い。審査会に理事が入っているため，若手の審査員が遠慮して意見を言わなかったり，また初めて応募した会員が顔なじみでないため，その演題が不適格とされるなど，不公平となることがある，不採用の通知が一方的に応募者に通知されるのは好ましくなく，反論を受つけるべきである。審査制度があるため，本学会は閉鎖的な印象を与えるし，国際的視野に立って見ても，現在の制度が学問的発展を助けるより，阻害する両が強い。一方審査制度自体のポジティブな面として，学会のレベルを保つ上に必要であるし，合格したことにより若い研究者を鼓舞するなどの効果はある。全体的な意見の傾向としては，上記の理由により審査制度を廃止すべき（但し，よほどひどい演題は不採用とするという条件付きで），もし残すのなら上記の意見を生かすよう改革すべきである，と総めることができる。

(2) 抄録集の形態について

我々の学会の質的進展と国際化という要請に従って，抄録集の英文化が必要である。実際的には全抄録を英文化するが，一部を英文Abstractとするかの二方法が考えられる。発表様式としては，国際英文誌に掲載されることが望ましいが，国内誌に発表するとか，少なくとも自前でも英文抄録を世界の主要国に配布し，論文のPriorityがとれるよう努力すべきである。（この問題については，特に垣内史朗理事がオブザーバーとして出席され，御自分の経験から，Priorityをとれるようすべきことを強く主張された。

(3) 演題の発表形式について

十分な発表時間と口頭による十分な討論をすることが本学会の特徴であり，これを守るべきである。しかしなるべく少い会場で，なるべく多くの演題を聞けるようにすることが望ましい。だが参加者特に，臨床家にとっては３日間という会期が最長の限度である。これらの相矛盾する要請をなるべく生かすよう，ポスターの導入や一演題に対する質問時間を座長にまかせて時間を節約するなど，具体的な方法を模索すべきである。

(4) その他に，国際学会，他の学会との関連，交渉を深めること。現在の理事および評議員が現会員を正しく代表しているかどうか。研究費を得るための運営はどうすべきか。などの問題点が指摘された。

4. 発表演題より見た学会の発展推移（資料）

１９７１年より１９８１年までの我々の学会における発表演題に，一題当り数ケのkey wordをつけ，PDP 11－70 computing systemを用いて，key word別の演題数を数えて，発表演題に表われた学問的な動向を分析した。

発表演題数は１９７５年までは３５～５０題を前後したが，以後６６('76), 76('77), 74('78), 94('79), 98('80), １１９('81)と毎年確実に増加したが，全演題中で純粋に臨床的なテーマを取扱った演題数は０～１０題の間を一定の傾向なく変動した。残りの演題数は基礎的なテーマを扱っており，１９８１年度の学会員の構成数（９月現在，１１４２名；うち臨床教室所属会員３８％：事務局調べ）から明らかなように，臨床教室でも基礎生化学的なテーマを研究していることを示している。

演題のkey word別の分類によると，この１１年間にprotein, enzyme, transmitter, synapse等のテーマに関する演題数の増加率は２～３倍なのに反し，culture（primary, clonal cell, organ）やImmunology（radioimmunoassay, enzyme immuno－assay, immunohistochmisttry）などの技術的な発展を反映する演題数は，１９７５年を契機として急激に増加している。同様にreceptor, neuropeptide, calmodulinなどを扱う演題は１９７５年，１９７６年より表われ，本年度まで急激に増加し，本年度初めてmonoclonal（antibody）を扱う演題２題が登場している。

以上世界的な趨勢より２～４年遅れのlagは見られるが，我国における研究テーマも従来のneurochemistryに加えて，新たにneurobiologyというカテゴリーで統括すべき傾向に向っており，総演題数の増加もこの分野に負うところが大きい。この現象を支えるものとして，基礎生物学系の研究室からの参加会員数が増加しつつあることが挙げられよう。しかし本学会の特徴として，従来のneurochemistryの研究層は充分厚く，neurobiologicalな研究の基盤をなしており，また臨床研究が総数に占める割合は減少しつつあるが，常に学問的な貢献を続けて来たことも事実であろう。

○昭和５７年度第２回理事会

と　き：昭和５７年１１月１３日
　　９：３０－１２：５０

ところ：昭和大学病院１７階会議室

出席者

理　事：塚田裕三，黒川正則，佐武　明
　　植村慶一，高垣玄吉郎，永津俊治
　　垣内史朗，加藤尚彦，吉田　博
　　大月三郎，宮本英七

監　事：平野修助，高坂睦年

欠席者　柿本泰男，栗山欣弥，高橋　良
　　早石　修

3）各種委員会報告

イ）学会運営検討委員会

委員長　加藤尚彦

1. 評議員専門分野別分類表の作成

本委員会より昨年度理事会に提出された，学会における発表論文審査制度改革案に基づき，本年度は新しい審査方式が施行された（世話人会報告参照）。この新方式に必要な審査員を選ぶ目的で，５７年３月にアンケートを各評議員に郵送し，専門分野（７９分野）別に各評議員を分類して分野別表を作製した。（全評議員９９名中，回答９０名，無回答８名，審査拒否１名）。

2. 本年度改革案の試行結果の検討

学会前の１０月に書信により各委員に試行結果を報告し，各委員の試行に対する意見をまとめて，中間答申案として理事会に提出し

た。理事会での審議の結果，５８年度の学会運営の一部を答申に基づいて改革し，試行することが決った。

3. 第２回委員会

５７年１１月１５日，12：00～13：00，昭和大学医学部第５会議室で，本年度委員会を開催した。委員全員と，加藤武（本年度世話人），祖父江憲治（来年度世話人）両氏計１５名が出席し，５８年度の学会運営につき検討した。そして下記の如き問題点を取り上げ，一部継続審議議題とした。(1) 本年度の試行全体の承認 (2) 抄録集，英文抄録の改善点の承認と今後の改善努行維持 (3) 来年度の改革試行を見守って行くこと (4) プログラム，抄録集作製等の責任を世話人会が持って能率よくできないか (5) 年間の会員の経済的負担（和英文抄録代金，会費，参加費等の和）を軽減能率化はできないか (6) 理事選挙制度を合理化できないか。

また学会への応募演題数，テーマ別の演題数推移についても検討を加えた。

昭和５８年度第２回理事会

と　き：昭和５８年１１月１４日（月）

ところ：日本生命中之島研修所本館２階

出席者

理　事：塚田裕三，黒川正則，加藤尚彦
宮本英七，高垣玄吉郎，植村慶一
永津俊治，大月三郎，吉田　博
佐武　明，栗山欣弥，柿本泰男

監　事：高坂睦年，平野修助

欠席者　早石　修，高橋　良，垣内史朗

3）各種委員会報告

イ）学会運営検討委員会報告

委員長　加藤尚彦

1. 理事会に対する答申

昨年度の第２回委員会の継続審議事項と本年度大阪学会の運営試行につき，書信による会議を開き，次の答申を提出した。(1)抄録集は現行の３頁（２頁に短縮する意見半数）を承認。英文抄録をなるべく早期に出版すること。抄録集を学会員全員に配布し，その単価を引下げること。(2)理事選挙制度（理事数，任期，基礎・臨床別など）の見直し。(3)本委員会の任期（本年度迄）を来年度の理事選に合わせて１年延期すること。(4)科研費調査委員会の活動に本委員会も協力すること。これに対し理事会では次の事項が決定された。(1)抄録集は現行のままとし，英文抄録に対しては一定の書式を造って，早期にNeurochem Res.に出せるようにする。(2)理事選挙制度の改革案を本委員会で作成すること。(3)本委員会の任期を１年延期する。

2. 第３回委員会

５８年１１月１５日，13：30～15：00

日本生命中之島研修所小教室で開催。委員全員と祖父江憲治氏（本年度世話人）計１４名が出席し，下記の事項を審議し意見のとりまとめを行った。(1)祖父江氏の大阪学会運営についての報告にもとづき，(i)５７年度学会（世話人代表，永津俊治氏）の方針の発展として，世話人中心の運営方式の経済的基盤を確定したことを評価し，とくに，(ii)参加全員の負担減（１０００円減），(iii)抄録集印刷代の節減（約３０％），(iv)世話人を中心とする発表論文審査制の試みなどの努力を多とする。(2)理事会および評議員会での意見に応じ，抄録集を学会全員に配布する件につき，費用の試算や"学会事務センター"に配布を委嘱する可能性などの検討。(3)大阪学会での初の試みであるサテライトシンポジウム（または教育的意味のあるシンポジウム）の開催の可能性を検討すること。(4)宿題事項として，理事選挙制についての改革案を検討し，次回理事会（５９年２月４日）に提出すること。(5)発表論文の審査制度，来年度学会の運営試行を見守ることを継続審議事項とする。

また学会への応募演題のテーマ別推移について検討を加えた。

○昭和５９年度第２回理事会

と　き：昭和５９年１１月１５日(木)
10：00～12：00

ところ：日本都市センター　第１会議室

出席者

理　事：塚田裕三，黒川正則，早石　修，柿本泰男，加藤尚彦，宮本英七，永津俊治，大月三郎，佐武　明，高垣玄吉郎，高橋　良，植村慶一，吉田　博

監　事：高坂睦年

欠席者

理　事：栗山欣弥

監　事：平野修助

4）各種委員会報告

イ）学会運営検討委員会報告

５８年度第２回理事会，および第３回本委員会における継続審議事項と宿題事項につき，次の２項目の活動を行った。

1. 会則改正に関する理事会への答申

理事会，評議員会，本委員会および会員によって述べられて来た意見を纏め，以下の４点を基本方針とすること。(1)学問的発展と趨勢に伴う会員の多様化に答えて，学会活動を一層活発化する。(2)本学会の伝統尊重。(3)理事会の固定化を防ぎ，若変えりを目指す。(4)理事構成を流動化するため，臨床基礎の区分の検討。これらの基本点からの具体案として，(1)理事の任期を４年とし，２年の不応期を置く。(2)１２人の理事を選び，２年毎の半数改選制とする。(3)３人の理事会選出理事を残す。(4)理事の停年制（６５才）を設ける。(5)学会に必要な会員の費用負担を軽減するため，大会論文集を含めて，今迄より1,000～2,000円値下げした会費を決める，の５点を骨子とした答申を行った。また学会発展による事務量負担を一教室に頼ることを止め，学会事務センターへ依託すること，および依託に伴う経費の内わけの調査報告，の２点についても答申を行った。

2. 第４回委員会

５９年１１月１６日，13：00～13：50，日本都市センター応接室で開催。小川氏（学会発表のため欠席）を除く全員が出席した。本委員会任期（６０年度の新理事決定迄）の最後に当り，この４年間の活動の総括，反省を行い，次の２点を新理事会への申し送り事項とした。(1)会則改正の効果を見守り，また結果に対する対応と責任を本委員会として果すべきこと，(2)新理事会のもとでも，本委員会の存続が望ましく，新しい編制で活動すべきこと。

最後に，理事，評議員，会員の皆様が寄せられた御支援に対し，委員一同深く感謝いたします。　（委員長　加藤尚彦）

昭和５９年度総会

と　き：昭和５９年１１月１７日(土)
12：00～12：40

ところ：日本都市センター　A会場

議　長：植村慶一

6）会則変更の件

原案通り承認された。今回は新会則細則の付則に従って理事選挙が行われる。

日本神経化学会会則 改訂案

(昭和41年10月 8日制定)
(昭和45年10月17日改正)
(昭和50年11月15日改正)
(昭和51年10月16日改正)
(昭和55年11月14日改正)
(昭和56年11月27日改正)
(昭和57年11月14日改正)

第1章 総 則

第 1 条 本会は日本神経化学会 (The Japanese Neurochemical Society) という。
本会の事務所を東京都新宿区信濃町35番地慶応義塾大学医学部生理学教室内におく。

第 2 条 本会は理事会の議決を経て必要の地に支部をおくことができる。

第2章 目的および事業

第 3 条 本会は会員の研究発表，知識の交換ならびに会員相互間および国内外の関連機関との連絡提携の場として神経化学ならびに関連領域の発展を促しもって学術文化の進歩に寄与することを目的とする。

第 4 条 前条の目的を達成するために次の事業を行なう。

1．研究発表および講演会の開催
2．会誌，研究報告および資料の刊行
3．国内外の関連機関との連絡および協力
4．その他目的を達するための必要な事業

1．研究発表会(大会)および講演会の開催

第3章 会 員

第 5 条 本会の会員は次のとおりとする。

1．正 会 員：神経化学に関する学識または経験を有するもので本会の目的に賛同し，会費年額3,500円を納める者。
2．名誉会員：本会に特に功労のあった正会員（外国人は正会員であることを要しない）のうちから総会の議決をもって推薦する者。ただし名誉会員は会費を納めることを必要としない。

1．正 会 員：神経化学に関する学識または経験を有するもので本会の目的に賛同し，会費年額7,000円を納める者。

3．団体会員：本会の目的に賛同し会費年額3,500円を納める団体（図書館を含む）
4．賛助会員：本会の事業を後援し，会費年額10,000円以上を納める者または団体
5．学生会員：大学またはこれに準ずる学校（大学院を含まず）に在籍し，神経化学に関係ある学科を修める学生であって，本会の目的に賛同し会費年額1,500円を納める者。

第７条　会員になろうとする者は正会員の推薦により細則に示す様式に従い会費を添えて入会申込書を事務局に提出し理事長の承認を受けなければならない。

第８条　会員は毎年開かれる研究発表会に演題の申込みをすることができる。

第９条　会員は本会が刊行する機関誌「神経化学」および図書の優先的配付を受けることが出来る。

第１０条　会員は第６条に規定する会費を納入しなければならない。

第１１条　会員は次の事由によって資格を喪失する。
1．退　会
2．死　亡
3．除　名

第１２条　会員で退会しようとするものは，退会届を提出しなければならない。

第１３条　会員が次の各号の一に該当するときは，理事会の議決を経て除名される。
1．会費を滞納したとき
2．本会の名誉を傷つけ，また会員としての義務に反したとき

第１４条　既納の会費は，いかなる理由があってもこれを返還しない。

第４章　役員，評議員および職員

第１５条　本会に次の役員をおく

理　事	１５名
監　事	２名
世話人代表	１名

第１６条　理事および監事は細則の定める方法

3．団体会員：本会の目的に賛同し会費年額7,000円を納める団体（図書館を含む）
4．賛助会員：本会の事業を後援し，会費年額20,000円以上を納める者または団体
5．学生会員：大学またはこれに準ずる学校（大学院を含まず）に在籍し，神経化学に関係ある学科を修める学生であって，本会の目的に賛同し会費年額5,000円を納める者。

第９条　会員は本会が刊行する機関誌「神経化学」（大会論文集を含む）の配付を受ける。

大会世話人代表　１名　を削除

第１６条　理事および監事は細則の定める方法

に従って正会員から選出する。理事は互選で理事長１名，常務理事１名を定める。	に従って正会員から選出する。理事は互選で理事長１名，副理事長１名を定める。
第１７条　理事長は本会の業務を総理し，本会を代表する。	
２．常務理事は理事長を補佐し，理事会の決議に基づき日常の業務に従事し，総会の決議した事項を処理する。	２．副理事長は理事長を補佐し，理事会及び総会の決議した事項を処理する。
３．常務理事は理事長事故のあるときはその職務を代行する。	３．副理事長は理事長事故のあるときはその職務を代行する。
第１８条　理事は，理事会を組織し，会則に定めるもののほか，本会の総会の権限に属せしめられた事項以外の事項を議決し執行する。	
第１９条　監事は民法第５９条に準じてその職務を行なう。	
第２０条　本会の役員の任期は４年として再任を妨げない。	第２０条　本会の理事で会員の選挙により選出されたものの任期は４年とし，任期終了後２年間は再任されない。理事会により選出された理事の任期は２年とし，連続して３選されない。監事の任期は４年とし，任期終了後４年間は再任されない。
２．補欠による役員の任期は，前任者または現任者の残任期間とする。	
３．役員は，その任期満了後でも後任者が就任するまでは，なおその職務を行なう。	
４．役員は本会の役員としてふさわしくない行為のあった場合，または特別の事情のある場合には，その任期中であっても総会および理事会の議決により，理事長がこれを解任することができる。	
第２１条　本会に評議員をおく。	
２．評議員の定数は５０名及至２００名とする。	
３．評議員は正会員中から総会において選任する。	
４．理事はその任期中は評議員となる。	
第２２条　評議員には第２０条の規定を準用する。	第２２条　評議員の任期は４年とし，再任を妨げない。評議員には第２０条，２．３．４．項の規定を準用する。
第２３条　評議員は評議員会を組織し，本会の運営上の重要事項について理事会の諮問に応ずるものとする。	

第２４条　本会の事務を処理するため職員をおく。
２．職員は理事長が任免し理事会の承認をうける。
３．職員は有給とすることが出来る。

第24条　本会の事務を処理するため職員をおくことが出来る。

第5章　会　　議

第２５条　理事会は毎年二回理事長が招集する。ただし理事長が必要と認めた場合，或いは理事現在数の三分の一以上から会議の目的たる事項を示して請求のあったときは，理事長は臨時理事会を招集しなければならない。

第２６条　理事会は理事現在数の五分の三以上出席しなければ議事を開き議決することは出来ない。ただし委任状を提出したものは出席者とみなす。
２．理事会の議事は理事会の過半数をもって決し，可否同数のときは議長の決するところによる。

第２７条　通常総会および研究発表会の担当機関（施設）は理事会において指定する。
２．当該機関の会員は研究発表会の開催に関し，世話人会を組織する。世話人会の互選により世話人代表１名を指名する。
３．世話人代表はその年度中理事となる。

第27条　通常総会および大会（研究発表会）の担当機関（施設）および大会世話人代表は理事会において指定する。
２．大会世話人代表は大会の開催にあたり，当該地区会員の中から世話人を指名し，世話人会を組織する。
３．大会世話人代表はその年度中理事会に出席する。

第２８条　通常総会は毎年１回研究発表会の際，理事長が招集する。
２．臨時総会は理事会または監事が必要と認めたとき，いつでも招集することができる。

第２９条　通常総会の議長は世話人代表とし，臨時総会の議長は会議のつど会員の互選で定める。

第29条　通常総会の議長は大会世話人代表とし，臨時総会の議長は会議のつど会員の互選で定める。

第３０条　総会の招集は少なくとも１０日以前にその審議すべき事項，日時および場所を記載した書面または会誌の広告をもって通知する。

第３１条　次の事項は，通常総会に提出しその承認を受けなければならない。
１．事業計画および収支予算についての事項

2．事業報告および収支決算についての事項
3．その他理事会において必要と認めた事項

第３２条　総会は，会員現在数の十分の一以上出席しなければその議事を開き議決することが出来ない。ただし当該議事につき委任状を提出したものは出席者とみなす。

第３３条　総会の議事は出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは議長の決するところによる。

第３４条　総会の議事の要項および議決した事項は会員に通知する。

第３５条　評議員会は随時理事長が招集する。評議員会の議長は理事長がこれに当る。

第３６条　評議員会は評議員現在数の五分の一以上出席しなければ会議を開くことが出来ない。ただし委任状を提出したものは出席者とみなす。

第３７条　総会，理事会および評議員会の議事録は議長が作成し理事長が保管する。

第6章　会　　計

第３８条　本会の事業遂行に要する費用は，会費，事業に伴う収入をもって支弁する。

第３９条　本会の収支決算は毎年会計年度の終了後理事長が作成し，監事の意見をつけ理事会および総会の承認を受けなければならない。

第４０条　本会の会計年度は毎年１月１日に始まり１２月３１日迄とする。

第7章　会則の変更

第４１条　この会則は理事会および総会においておのおの三分の二以上の賛成決議を経て変更することが出来る。

第8章　補　　則

第４２条　この会則施行についての細則は，理事会および総会の議決を経て別に定める。

第9章　付　　則

第４３条　新総会発足以前の役員，評議員は現神経化学懇話会常任委員及び委員により代行

される。

第４４条　現会員はそのまま本会の会員となる。

第４５条　会計年度の改訂は昭和５６年１月１日より実施す。

第４６条　昭和５５年度会費として納入したもの（昭和５４年９月１日～昭和５５年８月３１日迄）は昭和５５年１２月３１日迄有効期限を延長する。

第４７条　昭和５６年度までの正会員及び団体会員の会費は年額2,500円とする。

日本神経化学会細則改訂案

（昭和４１年１０月　８日制定）
（昭和５１年１０月１６日改正）

第1章　会　　員

第１条　本会に会員として入会を希望する者は入会申込書に次のことがらを記入して事務局に提出しなければならない。

１．姓名（ローマ字付）生年月日

２．推薦者氏名印

３．最終出身校，学科名および卒業年次。ただし学生会員は入学年月と卒業または終了年月，を記入しなければならない。

４．勤務先とその所在地および勤務先での地位

５．会員の現住所ならびに連絡先住所

６．専門分野，専攻科目

３．最終出身校，学科名および卒業年次。ただし学生会員になろうとするものは入学年月日を記入し，在学証明書の写しを添付する。

６．専攻分野

第2章　役員，評議員

第２条　理事定数１５名のうち１２名は第３条及び第４条に定める方法に従い，会員の直接選挙により選出する。残り３名は評議員会の議を経て委嘱する。

第２条　理事定数１５名のうち１２名は細則第３条及び第４条に定める方法に従い，会員の直接選挙により選出する。残り３名は専門別，地域別を考慮して理事会で選定し，評議員会の議を経て委嘱する。この３名は２年毎に理事会で選定する。理事選挙は２年ごとに６名の改選を行う。理事は就任する時期に満６５才までのものとする。

第 3 条　理事の選挙に当って選挙管理委員会を設け理事長が委嘱する。選挙管理委員会は理事選挙要項に従い事務局の所在地で選挙事務を行う。

第 4 条　理事選挙要項は下記の如くする。

1．選挙管理委員会は事前に会員名簿を作成して「神経化学」に掲載する。理事の選挙権及び被選挙権は投票締切日の6ヵ月以前に正会員となったものに限る。

2．正会員で選挙事務に異議あるものは投票締切日の１０日前までに選挙管理委員会に申し出なければならない。

3．選挙管理委員会は正会員２名以上の推薦のあった正会員，および評議員をもって理事候補者名簿を作成し会員に配布し，投票の資料とする。

4．投票は選挙管理委員会の定める投票用紙をもって行い無記名５名以内の連記とする。

5．投票は原則として郵送をもって行う。

6．当選者は得票数の多い上位から１２名を決定する。同票の場合は年令順とする。但し各領域各研究者層の意見が反映される様，専門別を考慮して次の規定を設ける。基礎（医・理・薬を含む）臨床各５名が含まれる得票数上位より決定する。

7．当選者が辞退し，又は選挙終了後１年未満の期間内に理事に欠員を生じた場合は得票数及び専門別を考慮して理事会において補充を決定する。

8．選挙後１年以上経過した後理事に欠員を生じた場合は補充を行なわない。但し３名以上の欠員を生じた場合は６ヶ月以内に補充選挙を行うものとする。

9．開票は選挙管理委員会が会員の中から委嘱した立会人のもとに行う。ただし会員は誰でも開票に立会うことが出来る。

第 5 条　理事長，常務理事は理事会の互選により決める。

第 6 条　評議員は次の方法により選出する。理事会は正会員から推薦された評議員候補者について審査を行い適格者は総会において選

第 3 条　理事の選挙に当って選挙管理委員会を設け委員は正会員の中から理事長が委嘱する。選挙管理委員会は理事選挙要項に従い事務局の所在地で選挙事務を行う。

3．選挙管理委員会は正会員２名以上の推薦のあった正会員および評議員（但し理事被選挙権者のみ）をもって理事候補者名簿を作成し、会員に配布し、投票の資料とする。

4．投票は選挙管理委員会の定める投票用紙をもって行い無記名３名以内の連記とする。

5．投票は郵送をもって行う。

6．当選者は得票数の多い上位から６名を決定する。同票の場合は年令順とする。

第 5 条　理事長，副理事長は理事会の互選により決める。任期は２年とし重任を妨げない。

第 6 条　評議員は次の方法により選出する。理事会は正会員から推薦された評議員候補者について審査を行い適格者は総会において選

任される。評議員の推薦にあたっては，研究歴満5年以上のもので地域別，専門別について考慮される。

第 7 条 監事の選出については理事会が理事以外の正会員の中から候補者を選び総会の承認を経て理事長が委嘱する。

第3章 事 業

第 8 条 機関誌「神経化学」の編集委員は理事会の承認を得て理事長より委嘱する。

第 9 条 機関誌の英文名は「Bulletin of The Japanese Neurochemical Society」とする。

第10条 本会の目的を達成するため理事会が必要と認めた時会員の中から専門委員を委嘱することがある。

任される。評議員の推薦にあたっては，研究歴満5年以上のもので地域別，専攻分野別及び会員歴について考慮される。

第4章 付 則

昭和59年11月の会則及び細則変更後に行われる最初の理事選挙に限り，会則第20条及び細則第2条，第4条の規定にかかわらず，次の特例を設ける。

1．投票期日の〆切を昭和60年2月16日とする。

2．今回の選挙にあたっては被選挙権者に現理事を含むものとし，得票順に12名の当選者を決定する。投票は無記名6名以内の連記とし郵送をもって行う。

3．当選者のうち得票数上位6名のものの任期は4年とし，下位6名のものは2年とする。

4．今回の当選理事の任期は上位6名のものについては昭和64年2月迄，また下位6名のものについては昭和62年2月迄とし，重任されない。理事会で選ばれる3名の理事の任期は昭和62年2月迄とし，重任することは出来ない。

○昭和６０年度第１回理事会

時　　：昭和６０年３月２日（土）

場　所：慶応義塾大学医学部生理学教室
　　会議室

出席者：塚田裕三，黒川正則，永津俊治，
　　平野修助，高垣玄吉郎，植村慶一，
　　柿本泰男，永田　豊，佐武　明，
　　吉田　博，御子柴克彦，宮本英七

欠席者：高橋　良

9）科研費調査委員会及び学会検討委員会の件

科研費調査委員会（委員長：佐武明）は前回の理事会で決定された如く，今後も継続することが再確認された。科研費（特定）の申請についても，ご検討を願うこととした。

学会検討委員会は，いちおうその任を終了したと理解された。今後新しい委員会の設置，例えば渉外委員会（仮称）等も含め，次回の理事会で改めて検討することとした。

○昭和６０年度第２回理事会

と　き：昭和６０年１１月５日（火）
　　９：３０～１２：００

ところ：熊本市産業文化会館第１会議室

出席者

理　事：塚田裕三，黒川正則，永津俊治，
　　高垣玄吉郎，吉田博，植村慶一，
　　佐武　明，永田　豊，柿本泰男，
　　平野修助，大月三郎，宮本英七，
　　御子柴克彦，栗山欣弥

監　事：高坂睦年

欠席者：高橋　良

8）研究助成金等候補者選考委員会の設置について

本年度より日産学術研究助成金に日本神経化学会から推薦出来ることとなったことを受け，日本神経化学会研究助成金等候補者選考委員会を設置することとなり委員長には黒川正則理事が選任された。（任期昭和６０年１２月１日～昭和６２年１１月３０日）又，その他，委員には植村慶一（任期２年），大月三郎（任期１年），宮本英七（任期１年）の諸理事が推薦され了承された。

9）国際対応委員会の設置について

昭和６０年度ＩＳＮ学会に於いて第１回目のＩＳＮ，ＡＳＮ，ＥＳＮ，ＪＳＮ代表者会議が開催され，又，昭和６１年９月プラハに於けるＥＳＮ学会で第２回目の会議が行われる予定である。これを受けて日本神経化学会に国際対応委員会を設置することとした。委員長には栗山欣弥理事が選任された。又，栗山委員長の推薦により植村慶一氏，加藤尚彦氏，永津俊治氏，御子柴克彦氏，松田友宏氏，宮武正，中嶋照夫氏，田中　亮氏，融道男氏に委員を委嘱した。

理事長，副理事長はEx－Officioとして参加する。

（１９９６年８月２３日現在）

謝　　辞

第３９回日本神経化学会の開催に当たり、多くの企業から御寄付を初めとする御援助を戴きました。ここに各社の社名を掲げて、深謝の証と致します。

御寄付

第一ラジオアイソトープ研究所，カネボウ薬品株式会社，キリンビール株式会社，味の素株式会社，エーザイ株式会社，三共株式会社，シェリング・プラウ株式会社，第一製薬株式会社，GE横河メディカルシステム株式会社，吉富製薬株式会社，日本アップジョン株式会社，大塚製薬株式会社，協和発酵工業株式会社，塩野義製薬株式会社，住友製薬株式会社，第一製薬株式会社，武田薬品工業株式会社，田辺製薬株式会社，帝国製薬株式会社，日本チバガイギ株式会社，日本ビックグルデン株式会社，萬有製薬株式会社，株式会社ビー・エム・エル，山之内製薬株式会社，池本医理化工業株式会社，科研製薬株式会社，キッセイ薬品工業株式会社，参天製薬株式会社，サンド薬品株式会社，大正製薬株式会社，大日本製薬株式会社，中外製薬株式会社，株式会社ツムラ，テルモ株式会社，トヨタ自動車株式会社，日本商事株式会社，日本新薬株式会社，日本たばこ産業株式会社，日本フリーザー株式会社，日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社，日本ヘキスト・マリオン・ルセル株式会社，日立戸塚総合病院，ファイザー製薬株式会社，富士レビオ株式会社，ヘキストジャパン株式会社，マルコ製薬株式会社，三菱化学株式会社，ミナト事務器株式会社，明治製菓薬品株式会社，持田製薬株式会社，ヤンセン協和株式会社，サントリー株式会社，加藤医科機械店

展示

株式会社エイコム，ナカライテスク株式会社，株式会社ニューロサイエンス，ビー・エー・エス株式会社，株式会社池田理化，エルゼビアサイエンスジャパン，オリンパス光学工業株式会社，国産化学株式会社，コスモ・バイオ株式会社，株式会社東京化学同人，株式会社ニコンインステック，バイオリサーチセンター株式会社，フナコシ株式会社，株式会社羊土社，和光純薬工業株式会社

広告

株式会社エイコム，株式会社エスアールエル，エルゼビアサイエンスジャパン，オリンパス光学工業株式会社，コスモ・バイオ株式会社，白井松器械株式会社，生化学工業株式会社，第一製薬株式会社，大日本製薬株式会社，宝酒造株式会社，株式会社同仁化学研究所，株式会社トミー精工，ナカライテスク株式会社，日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社，株式会社ニューロサイエンス，株式会社パーキン エルマー ジャパン，ビー・エー・エス株式会社，日立工機株式会社，ベックマン株式会社，室町機械株式会社

第３９回　日本神経化学会　**世話人代表　加藤　尚彦**

[MEMO]

編集後記

本年度から「神経化学」プログラム号と論文集号は、理事会での協議の結果、学会主催者の編集委員会が編集することになりました。前号（Vol. 35, No.1）の編集後記の中で、畠中 寛 出版広報担当理事が予告しました様に、年間通し頁を付けて引用に便利なように致しました。学会発表論文には、テーマ別に分類したうえで「論文番号」と呼ぶ通し番号を振り、同時に発表会場と時間を考慮して「演題番号」を付けました。そしてプログラム号では「演題番号」を中心にしてプログラムを組み、発表時間と担当座長を見つけ易く工夫しました。論文集ではテーマに添って発表論文が配列しており、一冊の「本」として読み易くなっていると思います。学会スケジュールの表も一工夫しましたので、使い易くなっていると考えます。編集委員の方々の多大な努力の賜と、この場を借りて深く感謝致します。

今回の学会はシンポジウムや講演を含んでおり、従来のプログラムの形式とはやや異なっております。プログラム集が十分お役に立つよう願って止みません。

（世話人代表 加藤 尚彦）

COSMO BIO 研究用

確かな品質、優れた試薬を世界から。

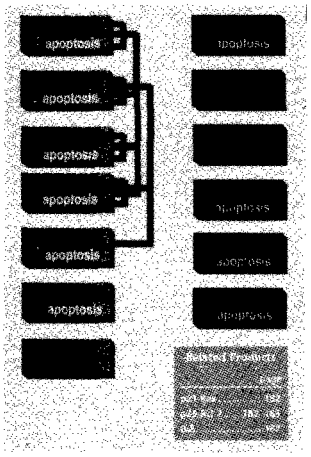
Upstate Biotechnology Incorporated（略号：UBI）

アップステート・バイオテクノロジー社

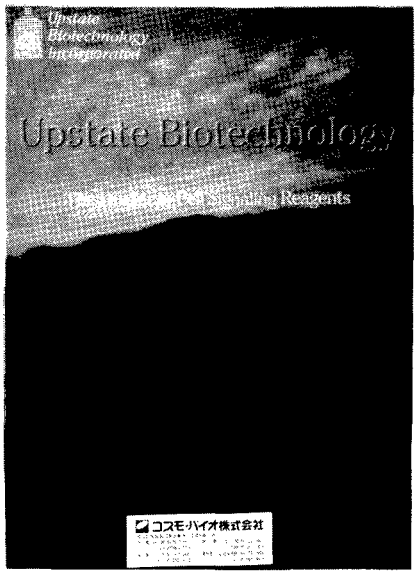
Bio Signals, Neuro Signals

- ◆抗リン酸化チロシン
- ◆非リセプター/チロシンキナーゼ
- ◆サイトカイン リセプター
- ◆JAK-STATシグナル伝達
- ◆リセプター/チロシンキナーゼ
- ◆アダプター プロテイン
- ◆脂質キナーゼ、フォスフォリパーゼ
- ◆Ras、G蛋白
- ◆MAPキナーゼシグナル伝達
- ◆ストレス-活性化蛋白キナーゼシグナル伝達
- ◆セリン/スレオニンキナーゼ
- ◆フォスフォターゼ
- ◆細胞周期
- ◆アポトーシス
- ◆細胞間/細胞内シグナル伝達
- ◆神経科学
- ◆DNA結合蛋白
- ◆成長因子/抗体
- ◆サイトカイン/抗体
- ◆細胞骨格蛋白
- ◆細胞接着因子/抗体
- ◆培地・培地成分
- ◆インヒビター

——Apoptosis関連蛋白——



'96メーカーカタログ配布中



960315

信頼をお届けする コスモ・バイオ株式会社

〒135 東京都江東区東陽2丁目2番20号（東陽駅前ビル）
TEL. 営業一部：03-5632-9610（東京近辺担当）
営業二部：03-5632-9620（西日本担当）
営業三部：03-5632-9625（東京近辺を除く東日本および中部担当）
FAX：03-5632-9619

ホームページ開設
http://www.globe.or.jp/cosmobio/

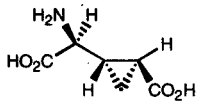
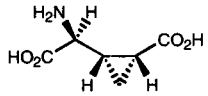
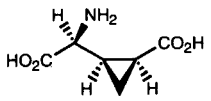
nacalai tesque
The quality for certainty.

神経化学研究用試薬

TOCRIS COOKSON社
神経化学・神経薬理学研究用試薬

L－グルタミン酸は興奮性神経伝達に主要な物質であり、記憶や学習の形成に深く関与するとともに、神経細胞を破壊する強い興奮毒性を併せ持つことから、急性あるいは慢性の脳・神経疾患を引き起こす原因物質として注目を集めています。

L-CCG［L-2-(カルボキシシクロプロピル)グリシン］類はL-グルタミン酸の構造に最も近い物質で、興奮性神経伝達機序解明のための試薬として用いられています。

	L-CCG-I	L-CCG-III	L-CCG-IV
構造式			
コードNo.	072-52	072-56	072-57
容　量	5 mg 10 mg	5 mg	5 mg

TOCRIS COOKSON社のカタログを
ご希望の場合は下記までお申込みください。

＊ 上記製品についての資料は下記までご請求下さい。

ナカライテスク株式会社
604 京都市中京区二条通烏丸西入ル
お問い合せ先 TEL(06)381 8121

北営業所 TEL(075)231-5301
南営業所 TEL(075)922-1171
滋賀営業所 TEL(0775)43-0721
京阪奈営業所 TEL(0742)35-2001
大阪営業所 TEL(06) 381-3621
神戸営業所 TEL(078)351-1222
岡山営業所 TEL(086)254-1418
福岡営業所 TEL(092)474-2341
東京営業所 TEL(03)3242-5881
横浜営業所 TEL(045)474-6671
厚木営業所 TEL(0462)29-2661
埼玉営業所 TEL(048)468-7785

SEIKAGAKU CORPORATION

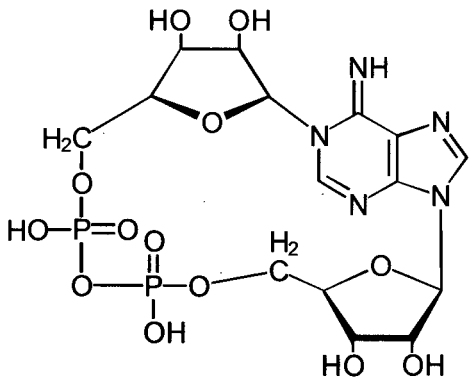
Products for Life Science

情報伝達研究用試薬

遊離型 cADP-ribose

新しいセカンドメッセンジャー
cADP-ribose

環状アデノシンニリン酸-リボース(cADP-ribose)は、ニコチンアミド・アデニンジヌクレオチド(NAD^+)から、ADPリボシル・サイクラーゼによって生成される環状ヌクレオチドの一種で、ウニ卵小胞体から**Ca^{2+}イオンを放出させる物質**として発見されました。また、膵臓ランゲルハンス島の β 細胞内の小胞体からCa^{2+}イオンを放出させて、インスリンの分泌を起こす細胞情報伝達物質として機能することなどが明らかになり、cADP-riboseは、IP_3に匹敵する細胞内Ca^{2+}イオンの動員を促す細胞内セカンドメッセンジャーとして評価されてきています。



cADP-ribose, free acid

■構　造

分子式：$C_{15}H_{21}N_5O_{13}P_2$

分子量：541.30

■形　状

凍結乾燥品
(結晶化後に凍結乾燥しました)

■純　度

97%以上

コード	品　名	包　装	価格(¥)
450209	cADP-ribose	0.1mg	28,000

●問い合わせ/資料請求FAX 東京03-3242-5335

製造元

ヤマサ醤油株式会社

販売元

生化学工業株式会社

機能化学品事業部

〒103 東京都中央区日本橋本町二丁目1-5 Tel.03-3270-0536

RBI RESEARCH BIOCHEMICALS INTERNATIONAL

レセプター関連試薬



Recombinant Receptors
一部をご紹介いたします.....

Adenosine Receptors

メーカー商品コード	Recombinant Receptors
A-232	A_1,rat (*Sf9*)
A-233	A_3,human (*HEK-293*)

Dopamine Receptors

メーカー商品コード	Recombinant Receptors
D-178	D_1,human (*Sf9*)
D-179	D_{2short},human (*Sf9*)
D-180	D_{2long},human (*Sf9*)
D-152	D_3,human (*CCL1.3*)
D-190	$D_{4.2}$,human (*Sf9*)
D-196	$D_{4.4}$,human (*CHO*)
D-197	$D_{4.7}$,human (*CHO*)
D-182	D_5,human (*Sf9*)

Adrenergic Receptors

メーカー商品コード	Recombinant Receptors
A-213	α_{2A},human (*Sf9*)
A-214	α_{2C},human (*Sf9*)
B-143	β_1,human (*Sf9*)
B-144	β_2,human (*Sf9*)

Muscarinic Receptors

メーカー商品コード	Recombinant Receptors
M-194	M_1,human (*CHO*)
M-195	M_2,human (*CHO*)
M-205	M_3,human (*CHO*)
M-206	M_4,human (*CHO*)
M-179	M_5,human (*Sf9*)

Cannabinoid Receptors

メーカー商品コード	Recombinant Receptors
C-217	Central Cannabinoid,human (*HEK-293*)

Serotonin Receptors

メーカー商品コード	Recombinant Receptors
S-175	$5\text{-}HT_{1A}$,human (*CHO*)
S-169	$5\text{-}HT_6$,rat (*HEK-293*)
S-170	$5\text{-}HT_7$,rat (*HEK-293*)

Opioid Receptors

メーカー商品コード	Recombinant Receptors
O-116	δ Opioid,mouse (*Sf9*)

※ 詳細は、下記宛にお問い合わせ下さい。

フナコシのライフサイエンス研究用試薬と機器
日本総代理店

フナコシ株式会社

〒113 東京都文京区本郷2丁目9番7号ユビテル・ユニビルディング
http://www.funakoshi.co.jp/ e-mail:funa@gol.com
試薬に関して:Tel. 03-5684-1620 Fax. 03-5684-1775
機器に関して:Tel. 03-5684-1619 Fax. 03-5684-1775



脳梗塞後遺症、脳出血後遺症に伴う慢性脳循環障害による
意欲低下、情緒障害の改善に。

ヘキストール®錠

㊟(一般名:プロペントフィリン錠) ●薬価基準収載

Hextol®

禁忌(次の患者には投与しないこと)
頭蓋内出血後、止血が完成していないと考えられる患者〔脳出血患者の急性期における使用経験はないが、これらの患者の症状の悪化、再発作の誘発等を起こすおそれがある。〕

【効能又は効果】
下記疾患に伴う慢性脳循環障害による意欲低下、情緒障害の改善
脳梗塞後遺症、脳出血後遺症

【用法及び用量】
通常、成人には1回1錠(プロペントフィリンとして100mg)を1日3回食後経口投与する。

★その他の使用上の注意等詳細は現品添付文書をご参照ください。
★資料は日本ヘキスト・マリオン・ルセル(株)、ヘキスト薬品工業(株)医薬情報担当者にご請求ください。

1996年7月作成
HX・JB52(A①-1)0796・Z

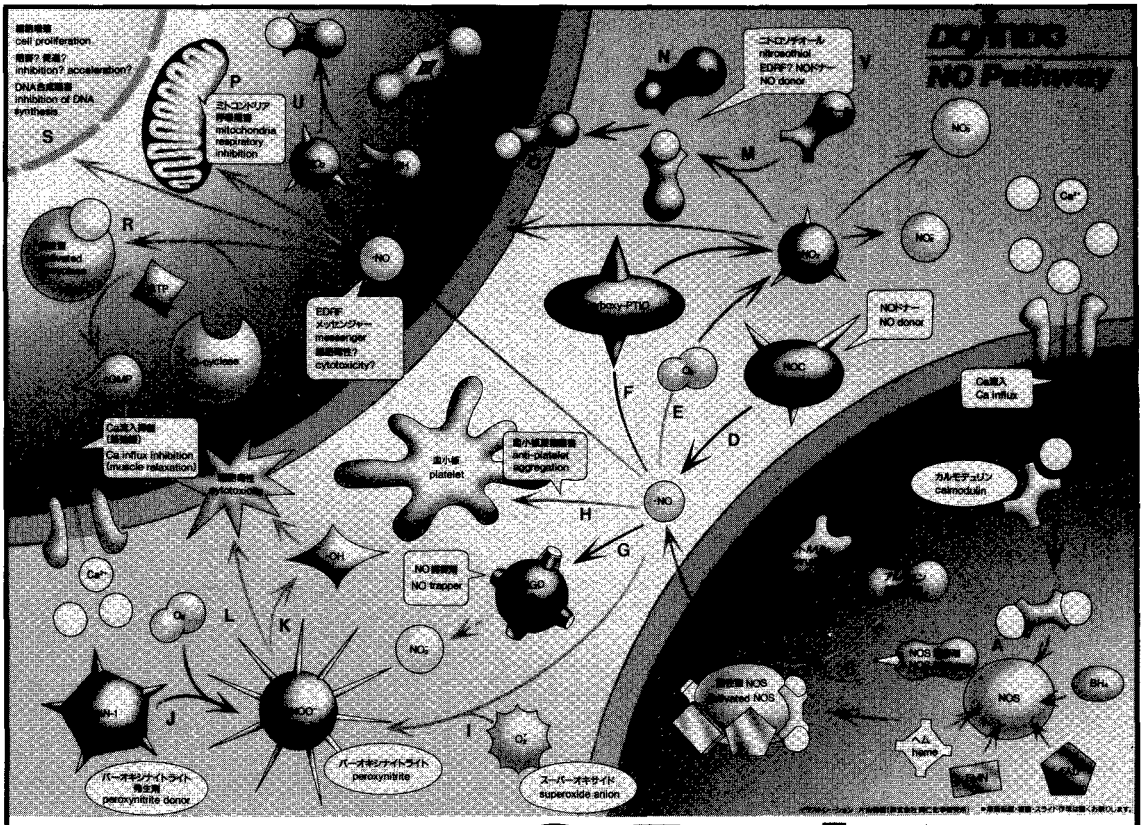
販売:
日本ヘキスト・マリオン・ルセル株式会社
〒107 東京都港区赤坂二丁目17番51号

製造・販売提携:
ヘキスト薬品工業株式会社
〒107 東京都港区赤坂二丁目17番51号

Hoechst Marion Roussel

ヘキスト・マリオン・ルセル
私たちはヘキスト・グループの一員です

Hoechst



・NOの作用メカニズムの解析に…

NO Pathway

自発的・NO発生剤	NOC5, NOC7, NOC12, NOC18, NOR1, NOR2, NOR3, NOR4	NOS Inhibitors*	L-NAME, L-NMMA, L-NNA, L-NIO, L-NI, L-NIL, L-Thiocitrulline, Diphenylene iodonium chloride, S-Methyl-L-thiocitrulline
ニトロソチオール型・NO発生剤	SNAP	$ONOO^-$発生剤	SIN-1 Peroxynitrite溶液*
・NOの選択的消去剤	Carboxy-PTIO	水溶性・NOスピントラップ剤	MGD
・NOの蛍光検出試薬	2,3-Diaminonaphthalene		
NO Assay Kit*	NO_2/NO_3 Assay kit-F, NO_2/NO_3 Assay kit-C		

＊新製品

資料およびDojindoカタログ第20版無料配布中です。
ご請求ください。

BTJ バイオのことなら何でもわかる情報サイト
BIOTECHNOLOGY JAPAN
http://www.nikkeibp.co.jp/BIO/BIO.html

ホームページアドレス
URL:http://www.dojindo.co.jp/
E-mal:info@dojindo.co.jp

フリーファックス:0120-021557
フリーダイヤル:0120-489548

DOJINDO Reagents

Dojindo 試薬製造元
株式会社 同仁化学研究所
熊本県上益城郡益城町田原2025-5 〒861-22
Tel.096-286-1515(代表) Fax.096-286-1525
ドージン・イースト(東京)
Tel.03-3578-9651(代表) Fax.03-3578-9650

ドータイト試薬発売元
和光純薬工業株式会社
本　社　大阪市中央区道修町3丁目1番2号 〒541
Tel.06-203-3741(代表)
東京支店　東京都中央区日本橋本町4丁目5番13号 〒103
Tel.03-3270-8571(代表)
出張所　福岡・広島・名古屋・横浜・大宮・筑波・仙台・札幌

研究用試薬

Feeder cellはもう不要です!

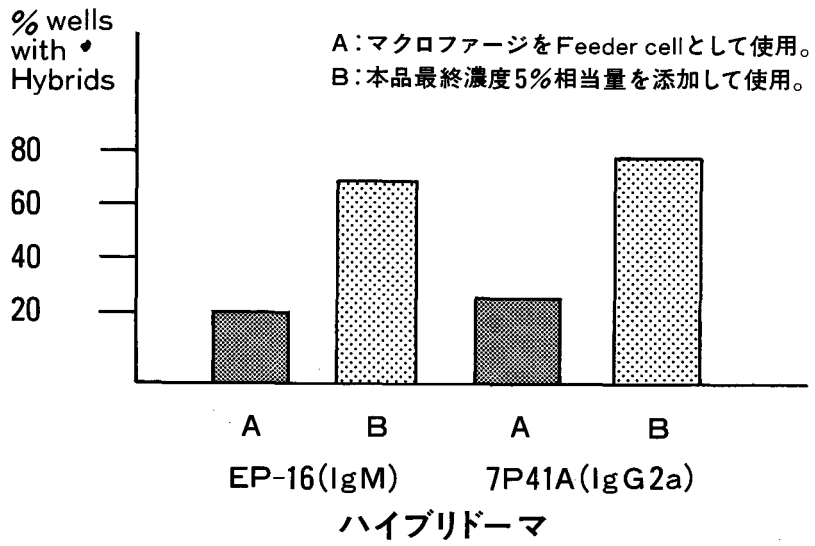
ブライクローン

本品は、BioResearch Ireland社が開発したIL-6(ハイブリドーマ増殖因子)生産細胞の培養上清で,IL-6を豊富に含んだハイブリドーマ作製用添加試薬です。

特　長

1) Feeder cellを使用せずにハイブリドーマの作製ができ,操作が簡便です。
2) ハイブリドーマの増殖を促進します。
3) ハイブリドーマの抗体産生能を向上させます。
4) 本品最終濃度5v/v%添加するだけで良好な結果が得られ,経済的です。

実験例：ハイブリドーマを限界希釈法でクローニング。

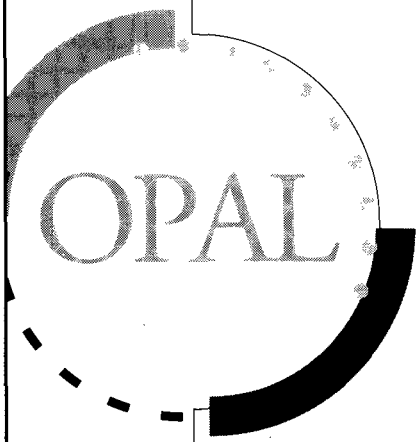


発売元　大日本製薬株式会社
ラボラトリー プロダクツ部
〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
TEL 大阪 (06) 386-2164(代表)
東京 (03) 3828-6544(代表)

生物医学の教育／学習コンピュータ・ソフトウエア

Open Programs for Associative Learning (OPAL)

OPALは、ハイパーメディアの原理を生かして作成された画期的な学習ツールです。イラスト、テキスト、アニメーション、実験シミュレーションなど、多様な画面で構成されているので、ユーザーは自由に楽しく学習することができます。研究者、医学生による自己学習／授業の教材として、あるいは医薬関連企業の教育マニュアルとして、ぜひご利用下さい。神経伝達、カルシウム、免疫細胞、内分泌細胞などの6つのモジュールがすでに発売されていますが、今後もシリーズとして生物医学の各分野を網羅します。



Module 1: Neural Communication
2: Calcium as a Messenger
3: Immune Cells
4: Endocrine Cells
5: Autonomic Nervous System
6: Brain Aging

各モジュールの価格:
Teacher Version: Dfl. 600.00/Student Version: Dfl. 120.00
（円定価については、取り扱い書店にてご確認下さい）

適応機種:

MS-Windows版: CPU: 80386以上の機種（IBM互換機を含む）
OS: MS-Windows 3.0以上（Windows 95対応）
RAMの空き容量: 2MB以上（1 Module）
ハードディスク容量: 2MB必要（1 Module）
VGA対応ディスプレイ

Macintosh版: Macintosh SE/30以上の機種
RAMの空き容量: 2MB以上（1 Module）
ハードディスク容量: 3MB必要（1 Module）

日本神経化学会の展示会場にて、デモンストレーション実施!

●ご注文は最寄りの洋書取り扱い書店へお願い致します。
● OPALに関する詳細な資料のご請求及びお問い合わせは、

エルゼビア サイエンス ジャパン

〒106 東京都港区東麻布 1-9-15　フリーダイアル:0120-383-608
Fax: (03)5561-5047 E-mail: KYF04035@niftyserve.or.jp

TaKaRa

Bio Engineering Research

遺伝子解析／検査受託
ますます充実!!

遺伝子のTaKaRaがPCRからシークエンシングまでトータルサポートいたします。

遺伝子工学を臨床研究／臨床検査にお役立てください。



受託内容

遺伝子検査受託：
- PCR
- RT-PCR
- PCR-SSCP
- PCR-RFLP
- DNA多型解析
- ブロッティング解析

遺伝子研究受託：
- DNAシークエンシング
- DNAサブクローニング
- cDNAライブラリースクリーニング
- プラスミド／ベクター大量調製
- EST解析
- メガベースシークエンシング

PCRは、エフ・ホフマン・ラ・ロシュ社のライセンスに基いて実施しております。

TaKaRa BIOMEDICALS

宝酒造株式会社

お問い合わせは下記にお願いします。
遺伝子検査受託：登録衛生検査所 タカラバイオメディカルセンター
TEL 0775-67-9260 FAX 0775-67-9205
遺伝子研究受託：遺伝子解析センター
TEL 0775-65-6962 FAX 0775-65-6975
滋賀県草津市野路町砂池2257 〒525

X030



愛する人がいます。

恋人だったり、家族だったり。
人は誰しも、愛する人がいます。
そして、同時に愛されてもいるのです。
大切な人のために、元気で。
愛する人が、健やかでいてほしい。
臨床検査をはじめとした、
様々な情報とサービスを提供し、
技術開発に取り組む私たちSRLも、
同じ想いを持っています。
もっと優しく健やかな明日のために。
私たちは、医療への貢献に
努力を重ねてまいります。

SRL
Communication for Health

株式会社 エスアールエル
本社：東京都立川市曙町2-41-19　安田火災立川ビル
TEL：(0425) 26-7111 (代) 〒190



初めての非麦角系D_2選択的ドパミン・アゴニスト

■特徴

1.初めての非麦角系ドパミンD_2受容体刺激薬です。

2.L-DOPA長期投与に伴う症状の日内変動（Wearing-off現象、On-off現象等）を改善します。

3.L-DOPA未治療の患者に対して、単独投与でパーキンソン病の主症状に対して有用性が認められました。

4.長期投与において安定した臨床効果が認められました。

5.主な副作用は精神神経系の眠気（19.6%）及び消化器系の悪心（9.8%）等です。（承認時社内集計）

■効能・効果

パーキンソン病

■用法・用量

通常、成人には塩酸タリペキソールとして1日1回0.2mg又は0.4mgを夕食後に経口投与から始め、経過を観察しながら1週間毎に1日量として0.4mgずつ漸増し、維持量（標準1日1.2mg～3.6mg）を定める。1日量が塩酸タリペキソールとして0.8mgの場合は2回に分けて朝食後及び夕食後に、1.2mg以上の場合は3回に分けて毎食後経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

■使用上の注意

1.一般的注意

（1）眠気、注意力・集中力・反射機能等の低下、ふらつき、めまい及び起立性低血圧がみられることがあるので、自動車の運転、機械の操作、高所作業等危険を伴う作業に従事させないよう注意すること。

（2）臨床試験においては、幻覚、妄想、せん妄、興奮、イライラ感、不安、悪夢の精神神経系の副作用（以下、幻覚、妄想等の副作用）が発現し易いことが認められている（「副作用」の項参照）。また、以下の患者では幻覚、妄想等の副作用の発現率が高い傾向にあるので、投与に際しては十分注意すること。
1）幻覚、妄想等の既往歴のある患者（「慎重投与」の項参照）
2）高齢者（「慎重投与」の項及び「高齢者への投与」の項参照）
3）Yahr重症度が高い患者（Ⅳ度以上）（「慎重投与」の項参照）
4）他の抗パーキンソン剤（レボドパ、抗コリン剤、塩酸アマンタジン、ドロキシドパ）を使用している患者（「相互作用」の項参照）

（3）本剤の投与は、少量（1日0.2mg又は0.4mg）から開始し、観察を十分に行い、特に幻覚、妄想等の副作用（「副作用」の項参照）に注意し、慎重に維持量（標準1日1.2mg～3.6mg）まで増量すること。

（4）幻覚、妄想等の副作用（「副作用」の項参照）があらわれた場合には、減量又は投与を中止するとともに、必要に応じ抗精神病薬を使用するなど適切な処置を行うこと。

（5）本剤の減量・中止が必要な場合は、漸減すること。［類薬（レボドパ、塩酸アマンタジン、ドロキシドパ、メシル酸ペルゴリド）において、急激な減量又は中止により、高熱、意識障害、高度の筋硬直、不随意運動、ショック症状等（Syndrome malin）があらわれたとの報告がある。］

2.禁忌（次の患者には投与しないこと）
（1）妊婦又は妊娠している可能性のある婦人（「妊婦・授乳婦への投与」の項参照）［動物（ラット）を用いた生殖・発生毒性試験で、出生児体重の低下及び胎児体重の低下が認められている。］
（2）本剤又は塩酸クロニジンに対し過敏症の既往歴のある患者

※その他の使用上の注意等については添付文書をご覧ください。

パーキンソン病治療剤

劇 指 要指

ドミン®錠0.4

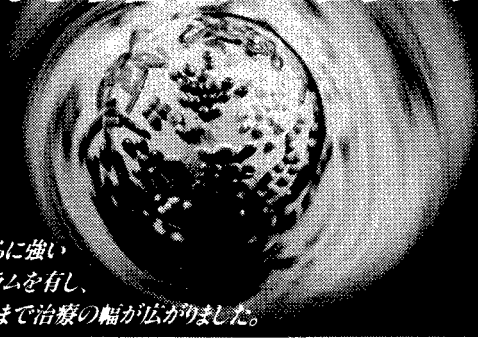
（塩酸タリペキソール製剤）

（資料請求先：学術部）
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
〒666-01 川西市矢問3-10-1

ニューキノロンが変わる。

LVFX

強く、やさしく。より自在に。クラビット



強さと広さを得て
ニューキノロンが変わります。
クラビットは
オフロキサシン(OFLX)よりさらに強い
抗菌活性と広い抗菌スペクトラムを有し、
急性から慢性・難治性感染症まで治療の幅が広がりました。

クラビットの特徴

1.適応23菌種におよぶ広い抗菌スペクトラム
2.肺炎球菌や緑膿菌などに対しオフロキサシン(OFLX)のほぼ2倍の抗菌力
3.良好な組織移行性と未変化体での高い尿中排泄
4.各種感染症に対し幅広く取得した52の適応症
5.副作用の発現率は2.77%
6.通常用量に加え、重症または効果不十分例への投与が可能
7.錠剤に加えニューキノロン初の細粒剤

■効能・効果

ブドウ球菌属、肺炎球菌、化膿レンサ球菌、溶血レンサ球菌、腸球菌属、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、プロピオニバクテリウム・アクネス、大腸菌、シトロバクター属、サルモネラ属(チフス菌、パラチフス菌を除く)、シゲラ属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、コレラ菌、緑膿菌、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、カンピロバクター属、クラミジア・トラコマティスのうち本剤感性菌による下記感染症

- 肺炎、慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染
- 咽喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、急性気管支炎
- 腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎、淋菌性尿道炎、非淋菌性尿道炎
- 子宮内感染、子宮頸管炎、子宮付属器炎、バルトリン腺炎
- 毛嚢炎(膿疱性痤瘡を含む)、癤、癰腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、化膿性爪囲炎(瘭疽を含む)、皮下膿瘍、汗腺炎、集簇性痤瘡、感染性粉瘤、肛門周囲膿瘍
- 乳腺炎、外傷・熱傷・手術創等の(表在性)二次感染
- 胆のう炎、胆管炎
- 外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎
- 眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎
- 細菌性赤痢、感染性腸炎、サルモネラ腸炎、コレラ
- 歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎

■用法・用量

通常、成人に対して、**レボフロキサシン**として1回100mg(錠:1錠または細粒:1g)を1日2～3回経口投与します。なお、感染症の種類および症状により適宜増減しますが、重症または効果不十分と思われる症例には**レボフロキサシン**として1回200mg(錠:2錠または細粒:2g)を1日3回経口投与してください。

■使用上の注意

下記のことに注意してください。

本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最少限の期間の投与にとどめること。

1.禁忌(次の患者には投与しないこと)
1)本剤の成分およびオフロキサシンに対し過敏症の既往歴のある患者
2)妊婦または妊娠している可能性のある婦人(「妊婦・授乳婦への投与」の項参照)
3)小児(「小児への投与」の項参照)

2.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
1)高度の腎障害のある患者
[高い血中濃度の持続が認められている。]
2)てんかん等の痙れん性疾患またはこれらの既往歴のある患者[痙れんを起こすことがある。]
3)キノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者
4)高齢者(「高齢者への投与」の項参照)

3.相互作用　併用に注意すること
1)フェニル酢酸系またはプロピオン酸系非ステロイド性消炎鎮痛剤[痙れんを起こすおそれがある。]
2)アルミニウムまたはマグネシウム含有の制酸剤、鉄剤[本剤の吸収が低下し、効果が減弱されるおそれがある。]

4.副作用(「まれに」:0.1%未満　「ときに」:0.1～5%未満　副詞なし:5%以上または頻度不明)
1)**重大な副作用**
下記の重大な副作用がまれにあらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
(1)**ショック、アナフィラキシー様症状**
(初期症状:紅斑、悪寒、呼吸困難等)
(2)**中毒性表皮壊死症**(Lyell症候群)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)
(3)**痙れん**
(4)**急性腎不全**
(5)**黄疸**(初期症状:嘔気・嘔吐、食欲不振、倦怠感、瘙痒等)
(6)**無顆粒球症**(初期症状:発熱、咽頭痛、倦怠感等)
(7)**間質性肺炎**
(症状:発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多等)
(処置方法:副腎皮質ホルモン剤投与等)
(8)**偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎**
(症状:腹痛、頻回の下痢等)
(9)**横紋筋融解症**(急激な腎機能悪化を伴うことがある)
(症状:筋肉痛、脱力感、CPK上昇、血中および尿中ミオグロビン上昇等)
2)**海外での重大な副作用**
下記の重大な副作用が海外において他のニューキノロン系抗菌剤でまれに報告されているので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
(1)**アキレス腱炎、腱断裂等の腱障害**
(2)**過敏性血管炎**
(3)**錯乱、抑うつ等の精神症状**
3)**類薬での重大な副作用**
下記の重大な副作用が他のニューキノロン系抗菌剤でまれに報告されているので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
(1)**低血糖**(高齢者、特に腎障害患者であらわれやすい)
4)**その他の副作用**
(1)**過敏症**　まれに浮腫、じん麻疹、熱感、光線過敏症、また、ときに発疹、瘙痒等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
(2)**精神神経系**　まれに振戦、しびれ感、視覚異常、耳鳴、幻覚、眠気、また、ときに不眠、めまい、頭痛等があらわれることがある。
(3)**腎臓**　ときにBUN、クレアチニンの上昇等があらわれることがある。
(4)**肝臓**　ときにGOT、GPT、Al-P、γ-GTPの上昇等があらわれることがある。
(5)**血液**　ときに貧血、白血球減少、血小板減少、好酸球増多等があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止すること。
(6)**消化器**　ときに悪心、嘔吐、腹部不快感、下痢、食欲不振、腹痛、消化不良、まれに口内炎、舌炎、口渇、腹部膨満感、便秘等があらわれることがある。
(7)**その他**　まれに倦怠感、発熱、動悸、味覚異常があらわれることがある。

5.高齢者への投与
本剤は、主として腎臓から排泄される(「体内薬物動態」参照)が、高齢者では腎機能が低下していることが多いため、高い血中濃度が持続するおそれがあるので1回100mg、1日2回など投与量ならびに投与間隔に留意し、慎重に投与すること。

6.妊婦・授乳婦への投与
1)妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦または妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。
2)オフロキサシンで母乳中へ移行することが知られているので、授乳婦への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合は授乳を避けさせること。

7.小児への投与
小児に対する安全性は確立していないので、小児には投与しないこと。

8.その他
動物実験(幼若犬、若い成犬(13ヵ月齢)、幼若ラット)で関節異常が認められている。

★取扱い上の注意などにつきましては、製品添付文書をご参照ください。

広範囲経口抗菌製剤

クラビット® 錠・細粒

(指)(薬指)

Cravit® (レボフロキサシン製剤)

薬価基準収載

Cravit

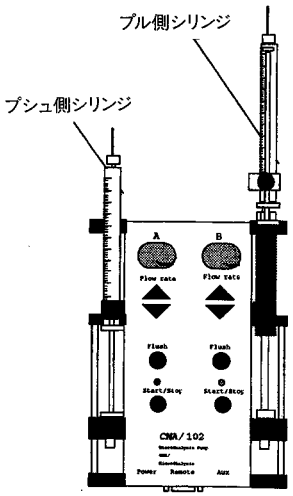
いのち、ふくらませよう。

第一製薬株式会社
資料請求先
東京都中央区日本橋三丁目14番10号

マイクロダイアリシスの自動化

《CMA102シリンジポンプ》

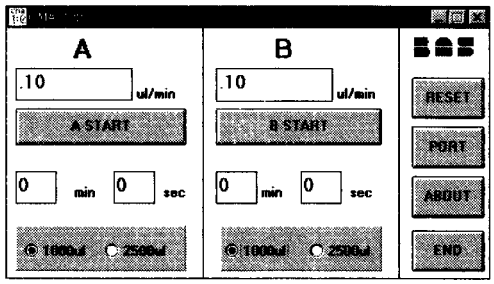
CMAポンプならびに他社のポンプに取り付け可能なプシュ・プルアダプターを紹介します。本ユニットは0.5mℓ～5.0mℓまでのシリンジを取り付けでき、簡単にプシュ・プルを行うことができます。



プル側のシリンジはアダプターに取り付けて、上記のようにCMA102にセットします。

CMA102流速、時間の設定

CMA102ポンプにはウインドウズ95で制御できるソフトが添付されます。自動的にシリンジの流量制御と時間のコントロールが可能になります。



注：1又は2.5mℓシリンジ選択が行えます。

※詳細については弊社までお問い合わせ下さい。

《オンラインインジェクター》

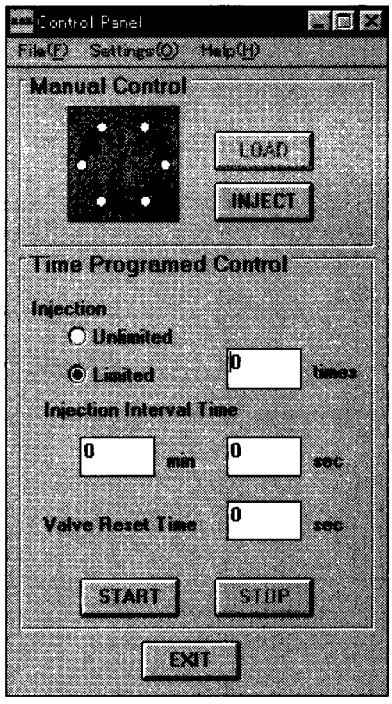
オンライン分析を行う場合、サンプルを試験管に集めるかわりにCMAプローブを用いると、サンプルは直接オンラインインジェクターを経由し液体クロマトグラフィーに注入され分析が行えます。ループ容量分がインジェクションできます。

特長

1. マイクロダイアリシス/HPLCによる自動分析
2. 試料注入と待機時間を任意に設定
3. 外部信号によるスタートも可能
4. 稼動状態をモニターに表示
5. マニュアル制御も可能
6. 自動制御可能
7. FEPチューブ直接接続できる
8. 制御用ソフトウェアは標準にて用意

オンラインインジェクターの設定

任意の時間でのサンプルロード、インジェクト制御が可能になりました。



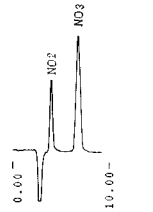
ビー・エー・エス株式会社

〒131 東京都墨田区押上1－36－4 TEL.(03)3624-0367(代)
FAX.(03)3624-0940
〒532 大阪市淀川区西中島5-7-14 TEL.(06)308-1867
FAX.(06)308-6890
e-mail:basjp@basj.com http//www.basj.com

生体内—血液、ダイアリシスサンプル等— NO_2^-、NO_3^-の同時測定が可能

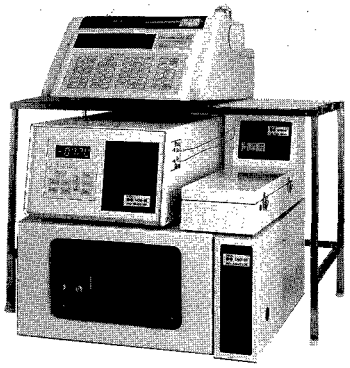
エイコム 酸化窒素分析システム ENOシリーズ

エイコム酸化窒素分析システムENOシリーズはジアゾ化合物の赤色反応の吸光度を測定しますので、生体内のNO_2^-、NO_3^-が安定性にすぐれ、しかも高感度に測定できます。



試　料　標準液 1pmol
注入量　10^{-7}M×10μl

化学発光法（ケミルミ法）より高感度です。



〈特長〉

- ■きわめて高感度、生体試料サンプルの測定に最適です。
- ■NO_2^-、NO_3^-をカラムで分離測定しますので高い定量精度が得られます。
- ■実績のある測定法で、安定性と再現性が抜群です。
- ■繁雑な処理操作を必要とせず、測定は手軽です。
- ■稼働率は高いです。

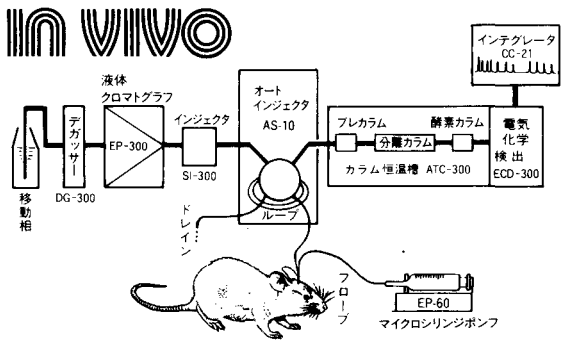
0.00000000000000001モルの検出感度を実現

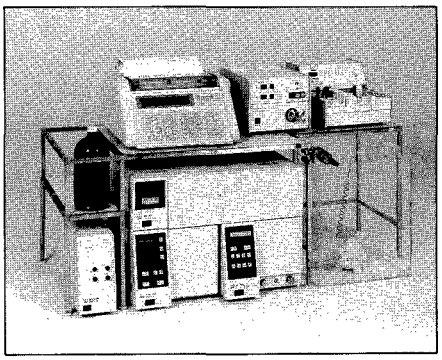
エイコム 微量生体試料分析システム 300シリーズ

- ●モノアミン分析システム
- ●アセチルコリン分析システム
- ●アミノ酸分析システム
- ●マイクロダイアリシス分析システム

マイクロダイアリシス分析システム

HPLC-ECD高感度測定システムとマイクロダイアリシスの組み合わせによりモノアミンとその代謝物およびコリン、アセチルコリン、アミノ酸、薬物動態などがin vivoの状態で測定ができます。





高感度と安定性で高い評価をいただいておりましたEP-10-ECD-100システムをさらに性能アップ。今まで測定不能であった生体内微量成分の分析の可能性を追求する300シリーズです。

EiCOM 株式会社 エイコム

本　　社：京都市伏見区下鳥羽円面田町24−2　〒612
TEL(075)622-2112　FAX(075)622-2114
東京営業所：TEL(03)3818-5223　FAX(03)3818-4540
札幌営業所：TEL(011)813-3268　FAX(011)813-6001



FST 動物実験用精密手術器具
Muromachi
Fine Surgical Instruments for Reserch



●100% 品質保証

●世界のトップブランド品を取り揃えています。
DUMONT, MORIA
FST, MÄRZHÄUSER

●抜群の品質、耐久性を誇ります。

カタログ・資料、及び商品デモについては、ご一報下さい。

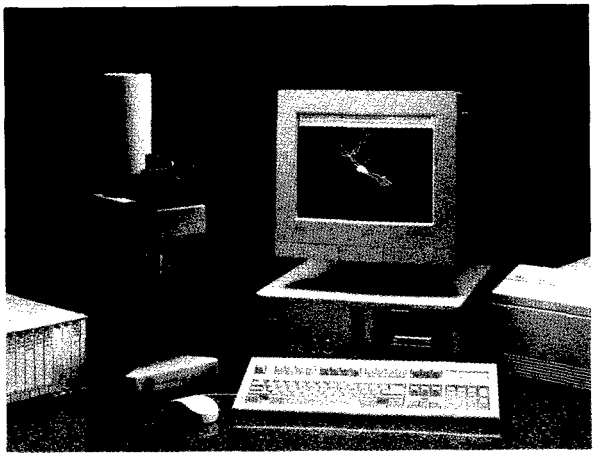
日本総代理店 室町機械株式会社 本　社：〒103 東京都中央区日本橋室町4-2-1 大辻ビル ☎03(3241)2444
大阪営業所：〒532 大阪市淀川区木川東4-5-3 長谷興産新大阪ビル ☎06 (302)1277

米国マイクロ・ブライト・フィールド社製

ニューロン顕微自動解析システム

MBF-1型

For Neuron Tracing and Anatomical Mapping



- ニューロンの自動計測、その分枝構造のトレース、マッピングなどができます。
- モニター画面が顕微鏡視野内に表示されるので、迅速かつ正確な操作が可能です。
- 顕微鏡ステージのリモート制御で、組織全体に互るナビゲーションが可能です。
- 連続切片の解析画像を3次元的に再構築し、アニメーション回転表示ができます。
- 各種フォーマットによる画像データファイルの保存と読み込みが可能です。

総発売元

NEUROSCIENCE, INC.

株式会社 ニューロサイエンス

本　社■〒110 東京都台東区台東3－15－1 平和生命ビル
TEL.(03)5688-1061　FAX.(03)5688-1065
大阪支店■〒532 大阪市淀川区西中島6－1－19
TEL.(06) 307-7727　FAX.(06) 307-7727
福岡支店■〒812 福岡市博多区博多駅南4－3－9 アバンダント86
TEL.(092)414-0251　FAX.(092)414-0125

Image Analysis for Bioscience

最先端画像技術を集結した、イメージ アナライザー

画像解析処理装置

C·IMAGING SYSTEMS

Compix, Inc. **Imaging Systems**



▶特長◀

- ◆マクロ機能(学習)の採用で、操作が簡単。
- ◆高分解能・高解像度なイメージ解析機能。
- ◆画像処理時間が極めて高速。
  (1000 MIPS)
- ◆特殊なサンプル抽出機能による高性能分析。
- ◆形態・濃度のリアルタイム分析が可能。
- ◆豊富な画像出力機器を用意。
- ◆すべての画像入力デバイスに対応。
  (冷却CCDカメラ、デジタルカメラ
  共焦点顕微鏡)

▶用途◀

- ◆細胞形態分析
- ◆組織形態分析
- ◆骨組織の形態・密度分析
- ◆定量的濃度分析(ARGフィルム濃度)
- ◆FISH分析(蛍光インサイトハイブリダイゼーション法)
- ◆電気泳動ゲル分析
- ◆プロッティング分析
- ◆細胞内Ca^{2+}動態リアルタイム分析
- ◆細胞内pH動態リアルタイム分析
- ◆血管幅・血流リアルタイム分析
- ◆3次元画像構築と表示……など

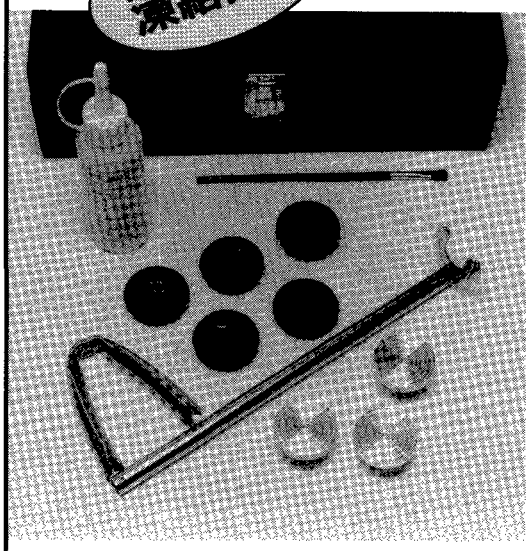
日本総代理店

NEUROSCIENCE, INC.

株式会社 ニューロサイエンス

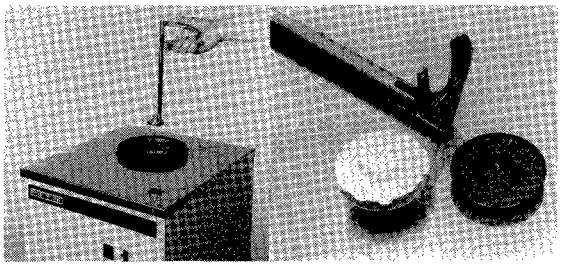
本　社■〒110 東京都台東区台東3－15－1 平和生命ビル
TEL.(03)5688-1061　FAX.(03)5688-1065
大阪支店■〒532 大阪市淀川区西中島6－1－19
TEL.(06) 307-7727　FAX.(06) 307-7727
福岡支店■〒812 福岡市博多区博多駅南4－3－9 アバンダント86
TEL.(092)414-0251　FAX.(092)414-0125

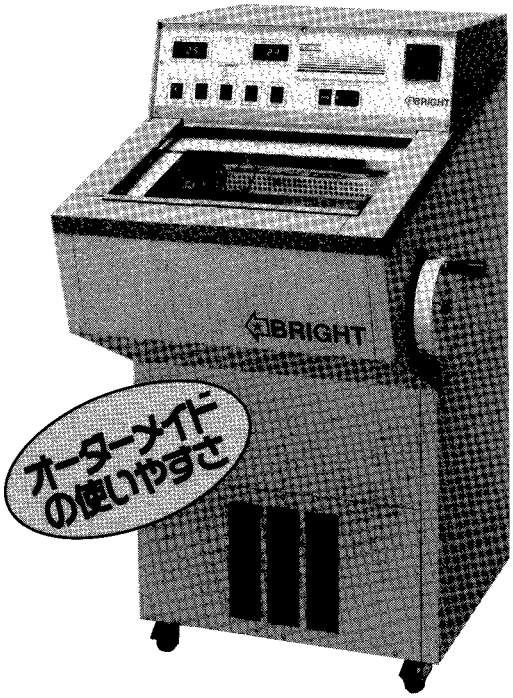
HANDEX CRYO HOLDER SET
クライオ・ホルダー・セット



組織ブロック等の急速凍結作業の迅速化、簡便化に

含水組織材料の凍結ブロック作成時、氷結晶発生による細胞破壊を抑える為に迅速凍結を行ないますが今まではありあわせの道具により実施されていましたがこの度開発されたこのクライオ・ホルダーにより迅速に、簡単に凍結ブロックの作成を行う事が可能になりました。
お手持ちの冷媒を用いてGefrierを始め酵素抗体法、ISH、蛍光抗体法等の凍結ブロックの作成をサポート致します。　(包埋皿と組織ステージをクランプした時の面積:70×50mm)





ブライト クリオスタット

優れた保冷力 長期間、安定して使用できるミクロトーム

システムバリエーション

- ●試料台温度制御装置〈クライオマチック〉
- ●−70℃液体窒素バックアップ冷却装置
- ●電動切截範囲制御装置 ●デジタル切片カウンター
- ●−40℃チャンバー ●自動解凍システム
- ●紫外線殺菌ランプ付カバー
- ●高性能微動オリエントバイスヘッド
- ●内蔵ミクロドームの卓上型変換キット
- ●ガラスナイフホルダー ●大型試料用変換キット
- ●チャンバー内切りくず受け ●卓上型
- ●感染症対応型

等 数多くのバリエーションを取り揃えています。

よりよい商品の創造とよりよいサービスの実践

HANDEX
白井松器械株式会社

本社 〒540 大阪市中央区森ノ宮中央1-19-16 ☎(06)942−4181(代)
東京 〒113 東京都文京区本郷3-3-10 ☎(03)3812-8419(代)
筑波 〒305 茨城県つくば市並木3-16-4 ☎(0298)55−3361
九州 〒815 福岡市南区玉川町1−25 ☎(092)511−0406

TOMY

卓上タイプ

プラスミドDNA精製装置
DP-480

新開発！
減圧式ダブルフィルトレーション方式



■RNA分解酵素なしに最大95%までRNAを除去。
■トランスフォーメーションまたはデレーションミュータントのスクリーニング等に使用可能。
■一度に48検体の試料を2時間以内で精製処理。
■一般に市販している試薬を自家調整して使用。
■コンタミの心配がない、ディスポフィルタ等を採用。
■卓上タイプのため、省スペースで設置が可能。

●処理量：1～2ml／1検体，処理数：48試料／1回，処理時間：2時間以内／48試料，電源：単相AC100V 15A 50/60Hz

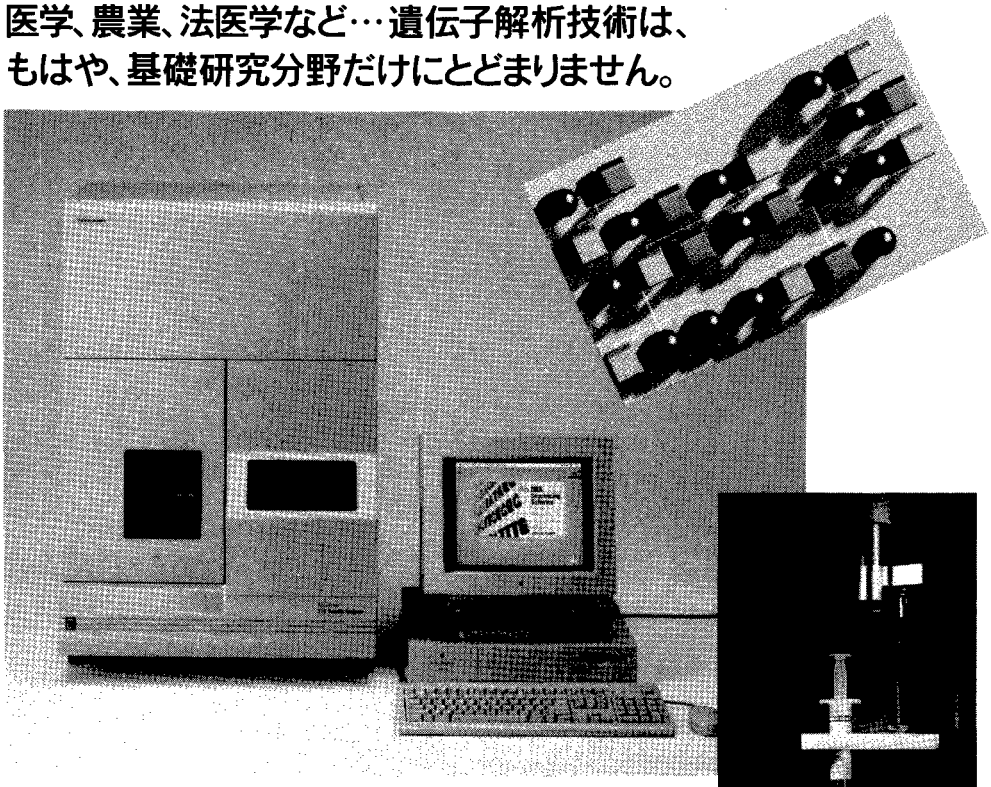
株式会社・トミー精工　本社：東京都練馬区旭町2－2－12　TEL(03)3976-3111

事業所：東京・札幌・仙台・つくば・神奈川・大阪・名古屋・福岡

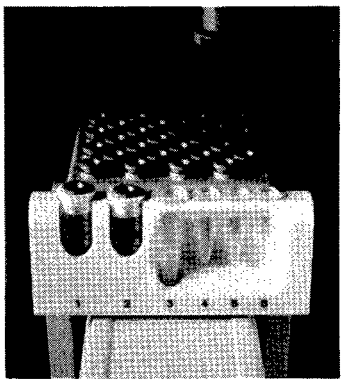
ＤＮＡシーケンシング＆ＤＮＡフラグメント解析

ABI PRISM™ 310 Genetic Analyzer

医学、農業、法医学など…遺伝子解析技術は、
もはや、基礎研究分野だけにとどまりません。



ポリマー自動充填用シリンジポンプ



サンプル自動インジェクション用トレイ

ABI PRISM™ 310 ジェネティックアナライザは、多色蛍光標識技術とキャピラリ電気泳動技術を統合した、サイズ決定･定量などの遺伝子解析および核酸の配列解析を行える、初めての自動システムです。

- 使いやすく、データの再現性が抜群
- 特許の多色蛍光標識法により、シングルキャピラリによる解析を実現
- フラグメント解析では、多様なアプリケーションに対応し、泳動時間も約20～40分と大幅に短縮

PE Applied Biosystems 株式会社 パーキン エルマー ジャパン
アプライド バイオシステムズ事業部

本　社●〒279 千葉県浦安市美浜1-9-2 ☎0473 (80) 8500/FAX 0473 (80) 8505
名古屋●〒464 愛知県名古屋市千種区池下町2-15 ☎052 (764) 1201/FAX 052 (764) 1202
大　阪●〒564 大阪府吹田市豊津町5 -3 ☎06 (389) 1201/FAX 06 (389) 1206
福　岡●〒812 福岡県福岡市中央区赤坂1-16-10 ☎092 (771) 2755/FAX 092 (771) 2756

HITACHI

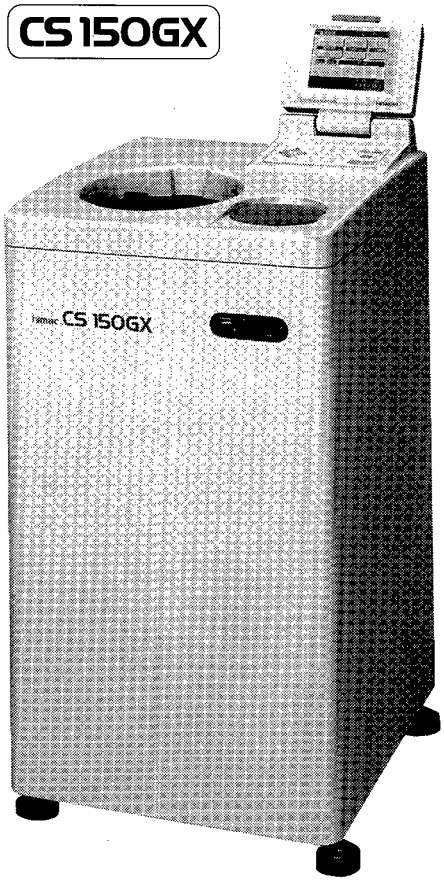
日立分離用小形超遠心機

himac CS GX SERIES NEW

簡単操作、機能性を徹底追求したコンパクトタイプのパーソナルユース

先進技術で、先進感性！
すごい技術を、より使いやすく、よりヒューマンに。

CS 150GX



世界最高速150,000rpm、
世界最大遠心加速度901,000×gを達成！
(平成8年3月1日現在)

■特　長

●革新技術
- 世界最大遠心加速度
- 世界最高速

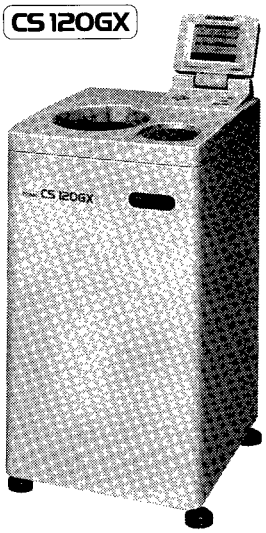
●操作性
- 可動式表示パネル
- ロータクイックセッティング
- 省スペース

●環境保護
- 省エネタイプ
- 電子冷却システム
- 低騒音設計

●機能性
- サポート機能
- リアルタイム制御機能
- 耐インバランス機能

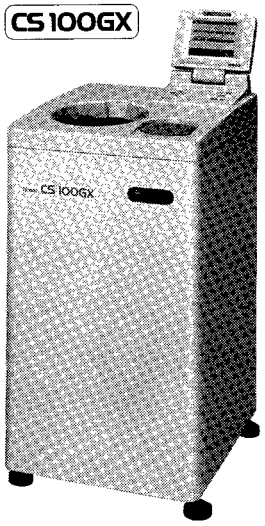
最高回転数：150,000rpm
最大遠心加速度：901,000×g
標準価格：¥5,500,000

CS 120GX



最高回転数：120,000rpm
最大遠心加速度：650,000×g
標準価格：¥4,900,000

CS 100GX



最高回転数：100,000rpm
最大遠心加速度：550,000×g
標準価格：¥4,300,000

日製産業株式会社　本社　〒105 東京都港区西新橋一丁目24番14号　科学システム営業本部　電話(03)3504-7211(ダイヤルイン)
事業所　北海道(011)221-7241　東北(022)264-2211　筑波(0298)23-7391　北関東(048)653-2341　西関東(0426)43-0080
横浜(045)451-5151　新潟(025)241-3011　北陸(0764)24-3386　中部(052)583-5841　京都(075)241-1591
関西(06) 366-2551　四国(0878)62-3391　中国(082)221-4514　九州(092)721-3501　沖縄(0988)78-1311

日立工機株式会社　本社工場　〒312 茨城県ひたちなか市武田1060番地　電話 ひたちなか(029)276-7384(ダイヤルイン)　日立遠心機お客様相談センター (フリーダイヤル)0120-02 4125

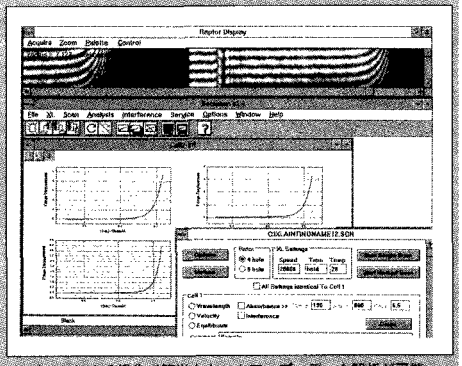
BECKMAN

分子間認識のご研究に最適な
Molecular Interaction Analysis Systems
Optima XL-A & XL-I

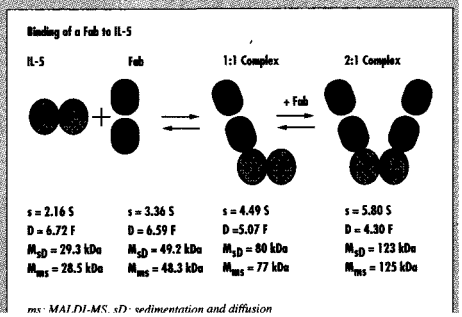
さまざまな生体高分子で分子形状や分子量などの構造解析から相互作用などの機能解析までを実現します。

特　長

- 蛋白質・蛋白質、蛋白質・核酸、レセプタ・リガンド等の相互作用が解析できます。
- サンプルの分子量、分子形状、K_d値などの各種情報が得られます。
- UV, Visに加えRayleigh Interference光学系により光吸収の無いサンプルも分析可能です。
- Windows対応により簡単なオペレーションを実現します。
- 完成された理論がデータの高い信頼性を保証します。
- サンプルの回収が可能です。
- 機能解析とサンプル調整が1つのシステムで実現します。
- Internetによる文献情報を提供します。
  (http://WWW.BECKMAN.COM)

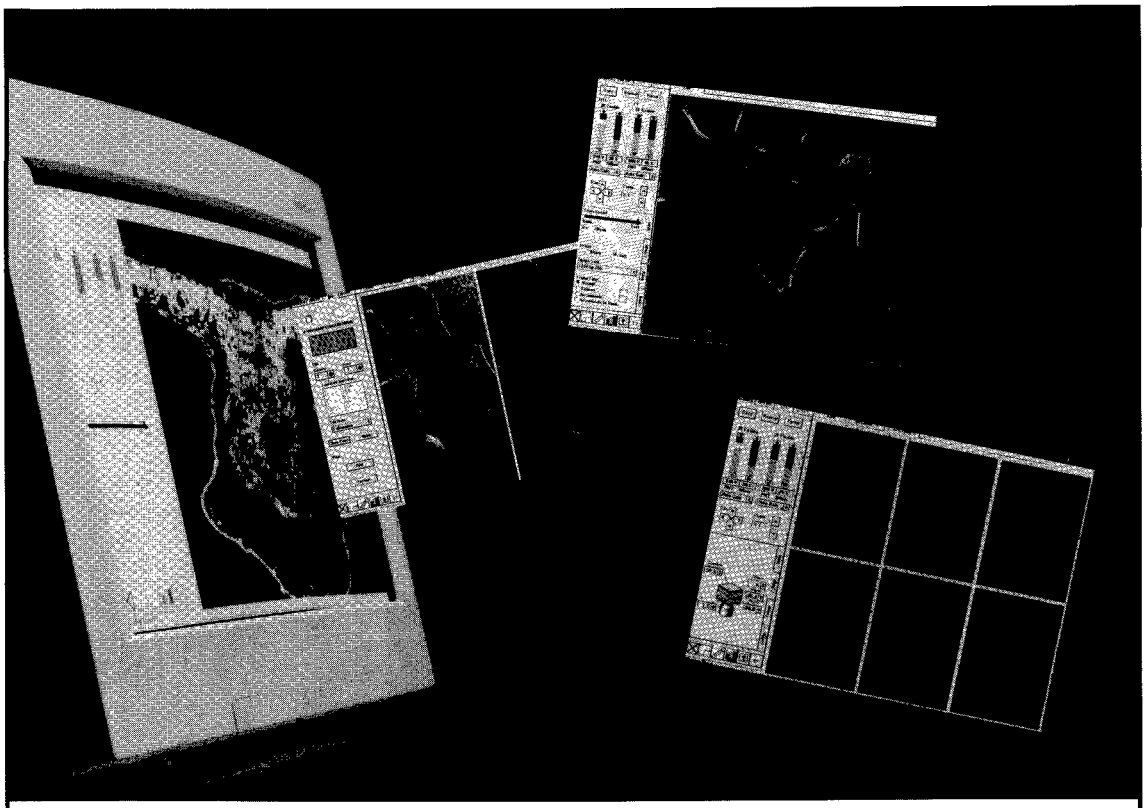


アイコンによる操作で簡単なセットアップ、データ解析が可能。



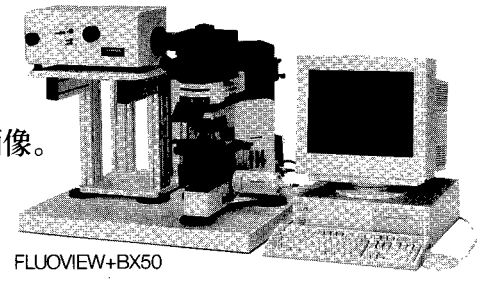
応用例

- レセプター
- ペプチド
- 転写制御因子
- 脂質
- 糖蛋白プロテオグリカン
- DNA結合蛋白
- リボ蛋白
- 酵素



PERSONAL LASER SCANNING MICROSCOPE
FLUOVIEW

すべての蛍光顕微鏡ユーザに
レーザ顕微鏡を提供したい。
オリンパスが追求したのは、使い易さと鮮明な画像。
研究室の予算で購入できる研究者のための、
レーザ顕微鏡FLUOVIEW誕生。



FLUOVIEW+BX50

●12Bitの分解能による鮮明画像 ●鮮明なノマルスキー像 ●2チャンネルのフォトマルユニットを標準装備 ●オートゲイン機能を搭載、面倒な感度調整が不要
●オリンパスの各種顕微鏡、各種レーザに対応する優れた拡張性 ●レーザ調整不要 ●1モニタによる省スペース設計

人から発想します。オリンパス

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社　販売元 / オリンパス販売株式会社 カタログのご請求は、オリンパス販売株式会社　〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル) TEL03-3251-8971

神経化学　　35巻　第2号

平成8年9月1日発行
編集兼発行者　日本神経化学会
代表者　宮本　英七
発行所　日本神経化学会
〒113 東京都文京区本駒込5－16－9
財団法人 日本学会事務センター内
印刷所　株式会社 パシフィック・コンベンション サービス